広島県子供の生活に関する実態調査結果
【概要版】

＜目次＞

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　主な調査結果
　１　生活状態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　２　生活困難の状況
　　⑴　家計の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
　　⑵　子供の生活水準　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
　　⑶　食と栄養　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
　３　子供の学び
　　⑴　学校の成績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
　　⑵　授業の理解や学習の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
　　⑶　学校外での学習・勉強の状況　・・・・・・・・・・・・・・・　18
　　⑷　将来の夢　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
　　⑸　子供の教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
　４　子供の日常生活
　　⑴　平日の食事　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
　　⑵　平日の放課後の過ごし方　・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
　　⑶　活動の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
　５　子供の健康と自己肯定感
　　⑴　健康状態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
　　⑵　自己肯定感　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39
　６　子育てと各種制度・サービス
　　⑴　就学援助　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
　　⑵　子供との関わり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43
　　⑶　子育て上の経験　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
　　⑷　制度・サービスの利用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46
　　⑸　相談　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
　７　保護者の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51

広島県

Ⅰ　調査の概要

広島県では，すべての子供が夢を育むことができる社会づくりに向け，子供たちの未来を応援する施策の在り方を検討するため，県内全市町と連携して，県全体の子供の生活実態や学習環境などについて調査しました。小学校５年生・中学校２年生とその保護者を対象とした調査の概要は，次のとおりです。

区　分		小学校５年生の家庭	中学校２年生の家庭
調査対象者数	子　供	13,418 人	13,053 人
	保護者	13,418 人	13,053 人
有効回答数（回答率）	子　供	9,151 人（68.2%）	8,287 人（63.5%）
	保護者	9,222 人（68.7%）	8,295 人（63.5%）
調　査　対　象　者		小学校５年生とその保護者，中学校２年生とその保護者	
調　査　方　法		無記名。密封調査。	
調　査　時　期		平成 29 年７～11 月	

【本調査における「生活状態」の取扱いについて】

本調査では，子供の生活状態を世帯の所得額だけでなく家庭環境全体で把握すべきであると考え，次の３つの要素に基づいて以下のように分類

◆３つの要素

①　低所得

等価世帯所得※１が，厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される基準※２未満の世帯※３

※１　世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※２　厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」（所得は平成 27 年値）の世帯所得の中央値（428 万円）を，平均世帯人数（2.47 人）の平方根で除した値の 50%である 136.2 万円

※３　低所得世帯の割合は，世帯所得の把握の方法や，可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため，厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」で公表されている「子供の貧困率」（13.9%）と比較できるものではない

②　家計の逼迫

経済的な理由で，公共料金や家賃の滞納，食料・衣類を買えなかった経験など７項目のうち，１つ以上該当

1　電話料金
2　電気料金
3　ガス料金
4　水道料金
5　家賃
6　家族が必要とする食料が買えなかった
7　家族が必要とする衣類が買えなかった

③　子供の体験や所有物の欠如

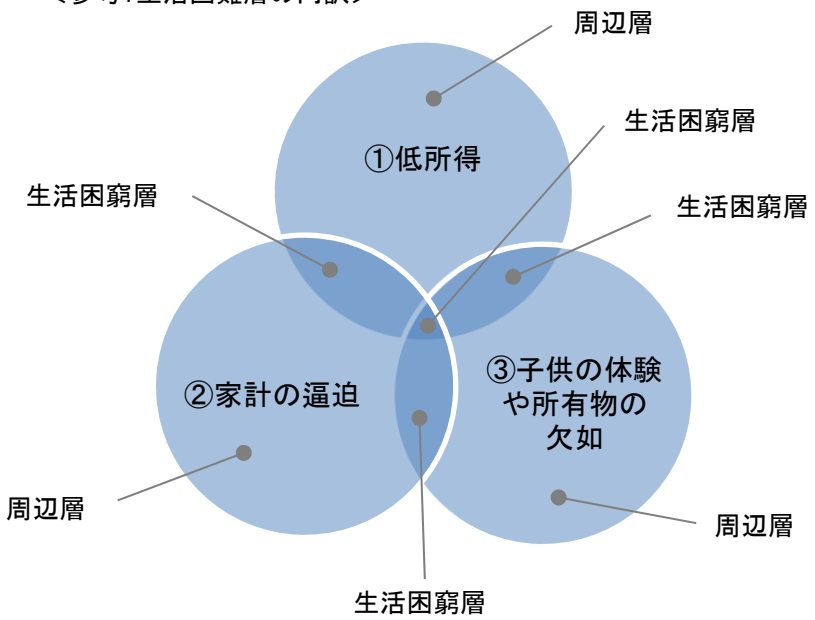
子供の体験や所有物などの 15 項目のうち，経済的な理由で欠如している項目が３つ以上該当

1　海水浴に行く
2　博物館・科学館・美術館などに行く
3　キャンプやバーベキューに行く
4　スポーツ観戦や劇場に行く
5　遊園地やテーマパークに行く
6　毎月お小遣いを渡す
7　毎年新しい洋服・靴を買う
8　習い事（音楽，スポーツ，習字など）に通わせる
9　学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう）
10　お誕生日のお祝いをする
11　１年に１回くらい家族旅行に行く
12　クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
13　子供の年齢に合った本
14　子供用のスポーツ用品・おもちゃ
15　子供が自宅で宿題（勉強）をすることができる場所

◆「生活状態」の分類

生 活 困 難 層		生活困窮層 ＋ 周辺層
	生活困窮層	２つ以上の要素に該当
	周　辺　層	いずれか１つの要素に該当
非 生 活 困 難 層		いずれの要素にも該当しない

＜参考：生活困難層の内訳＞



Ⅱ　主な調査結果

1　生活状態

「低所得」や「家計の逼迫」，「子供の体験や所有物の欠如」のうち２つ以上に該当し，生活困窮層にあると思われる家庭が約１割，いずれか１つに該当するその周辺層まで含めた生活困難層にある小学校５年生の家庭は 25.7%，中学校２年生の家庭は 27.8%でした。

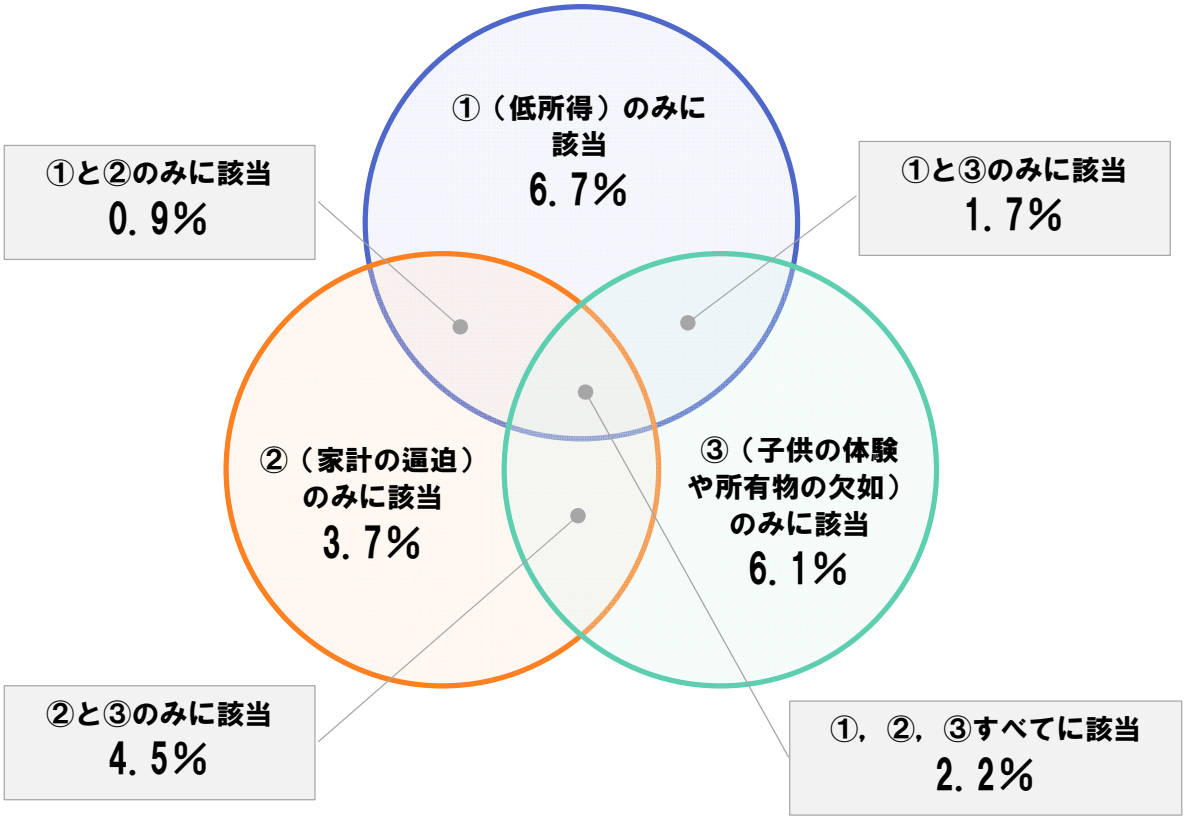
世帯構成別では，小学校５年生のひとり親家庭の 29.8%が生活困窮層，中学校２年生のひとり親家庭の 28.9%が生活困窮層です。

生活困難層，非生活困難層の割合

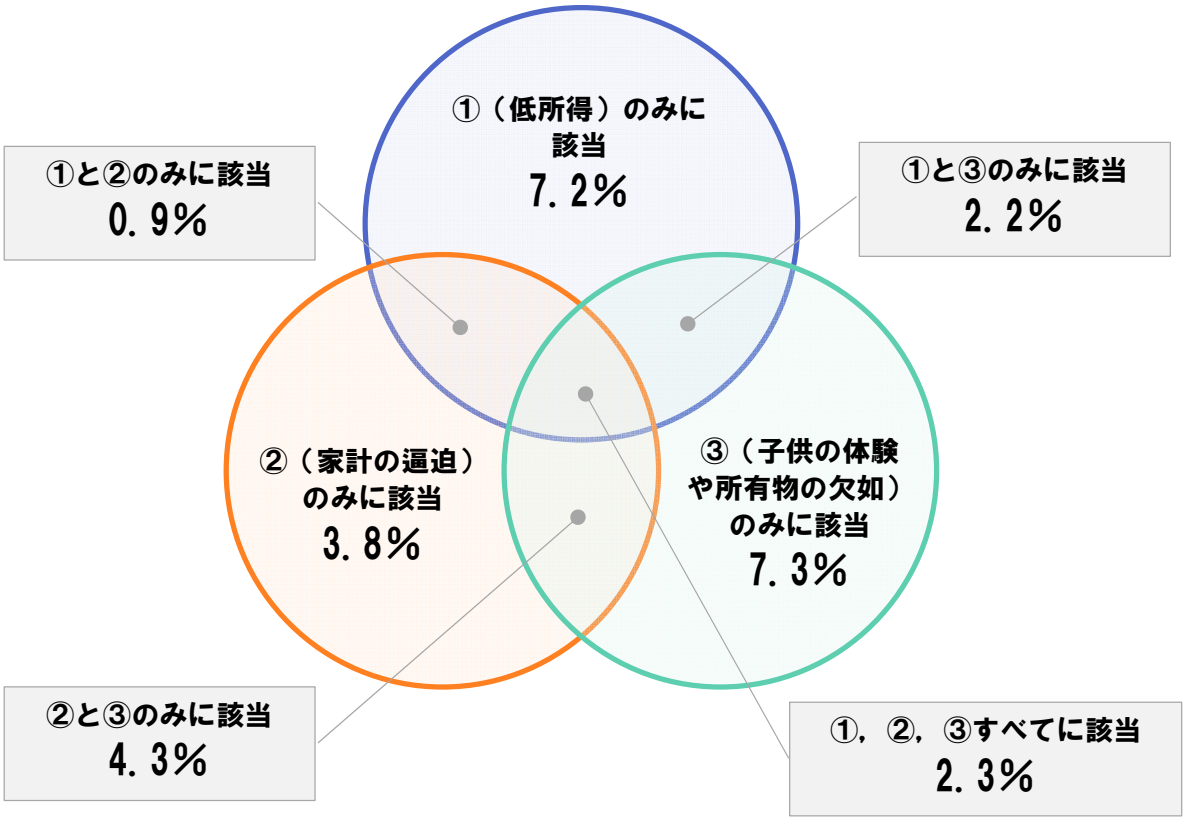
区　分		小学校５年生の家庭	中学校２年生の家庭
生活困難層		25.7%	27.8%
	生活困窮層	9.3%	9.6%
	周　辺　層	16.4%	18.2%
非生活困難層		74.3%	72.2%

※端数処理の関係で，内訳の合計と合わない場合がある

生活困難層の内訳（小学校５年生の家庭の場合）



生活困難層の内訳（中学校２年生の家庭の場合）



世帯構成別の内訳

区　分			ふたり親の家庭	ひとり親の家庭
生活困難層	生活困窮層	小学校５年生	6.8%	29.8%
		中学校２年生	6.7%	28.9%
	周　辺　層	小学校５年生	14.7%	30.0%
		中学校２年生	16.4%	31.0%
非生活困難層		小学校５年生	78.4%	40.3%
		中学校２年生	76.8%	40.1%

※端数処理の関係で，合計が 100.0%とならない場合がある

【次頁以降の内容についての注記】

○　「★」を付している項目は，平成 29（2017）年 12 月の結果速報（暫定値）時点で，未集計だったもの

○　クロス集計に関して，χ二乗検定によって分布が統計的に有意であるかを検定
検定結果については，掲載グラフのタイトル部分に記載（２つの結果が併記されている場合，前者が小学校５年生の集計に関する検定結果，後者が中学校２年生の集計に関する検定結果を表す）

［**］集計結果が１％水準で有意である場合
［* ］集計結果が５％水準で有意である場合
［　］集計結果が有意でない場合

（例えば，１％水準で有意であるとは，図表で示している項目の間に統計的に差が無い確率が１％未満であり，差があるといって問題がない，という意味を表す）

2　生活困難の状況

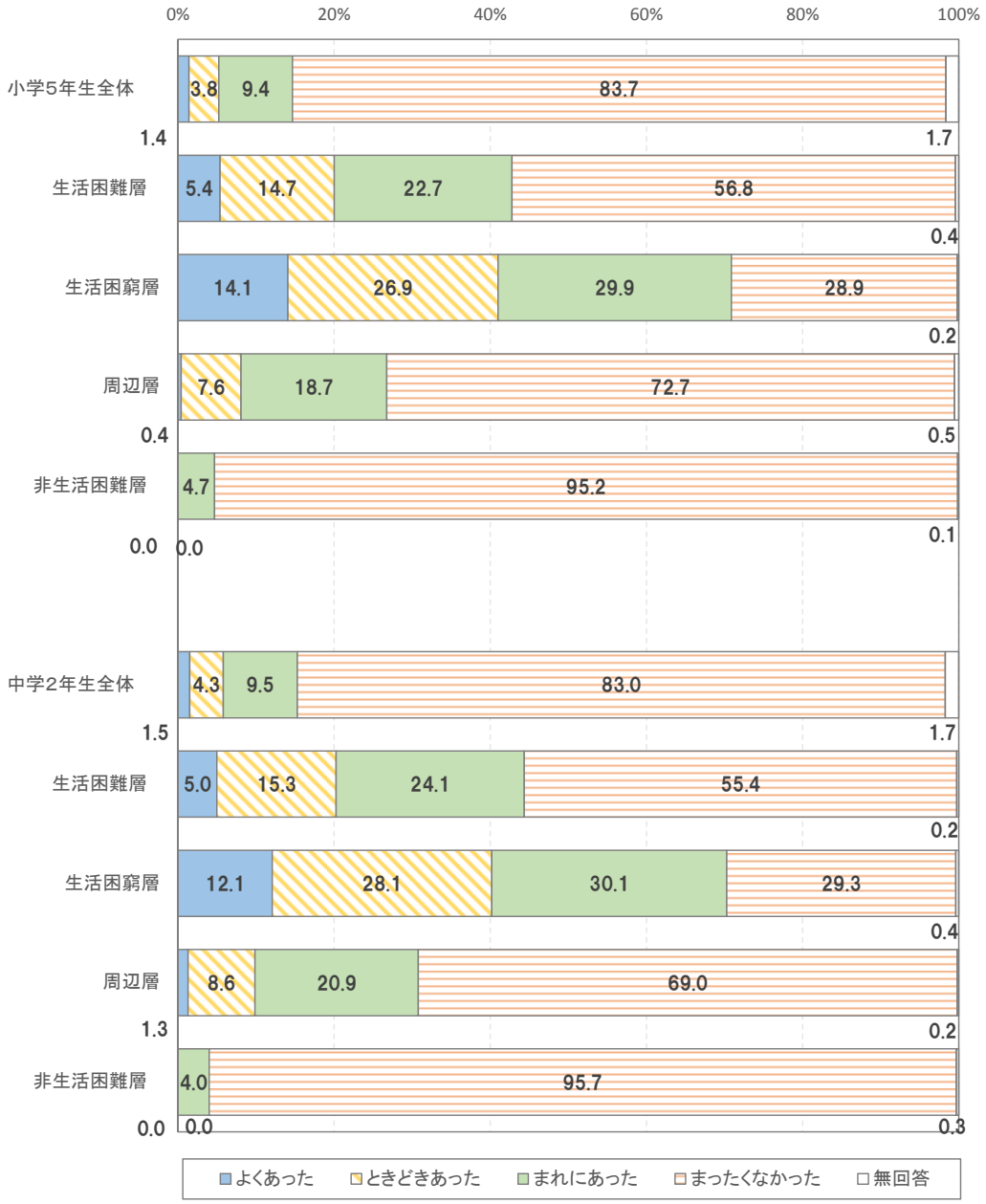
(1)　家計の状況　★

①　食料が買えなかった経験

過去１年間に経済的な理由で食料が買えなかった経験について,『経験がある』(「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）と回答した保護者の割合は，小学校５年生全体では 14.6%でしたが，周辺層では 26.7%，生活困窮層では 70.9%となっています。

中学校２年生でも同様の傾向が見られ，生活が困難になるほど，食料が買えなかった経験があると回答した保護者の割合が高くなっています。

食料が買えなかった経験　[**] [**]

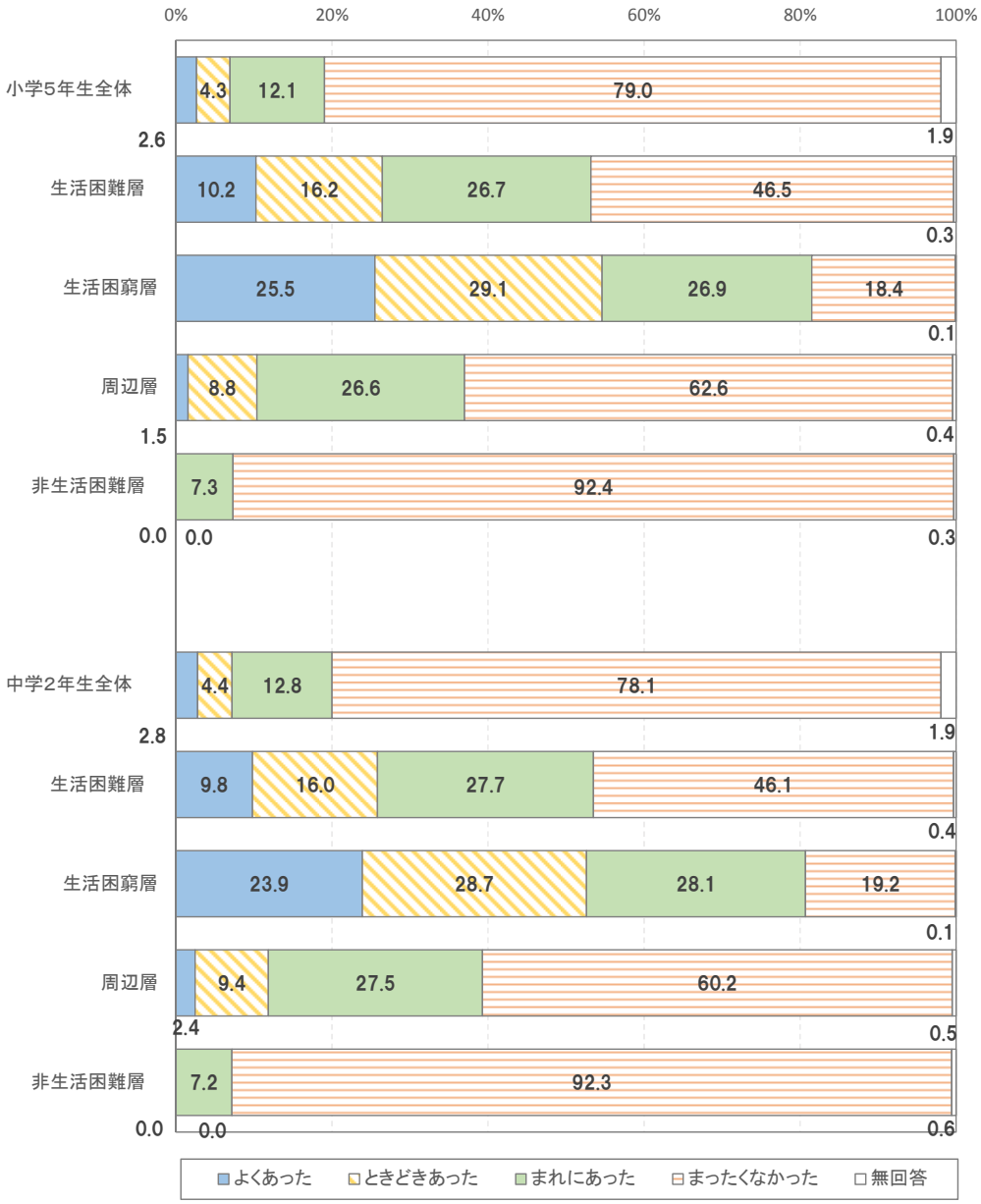


② 衣類が買えなかった経験

過去１年間に経済的な理由で衣類が買えなかった経験について,『経験がある』(「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計）と回答した保護者の割合は，小学校５年生全体では 19.0%でしたが，周辺層では 36.9%，生活困窮層では 81.5%となっています。

中学校２年生においても同様の傾向が見られます。

衣類が買えなかった経験　[**] [**]



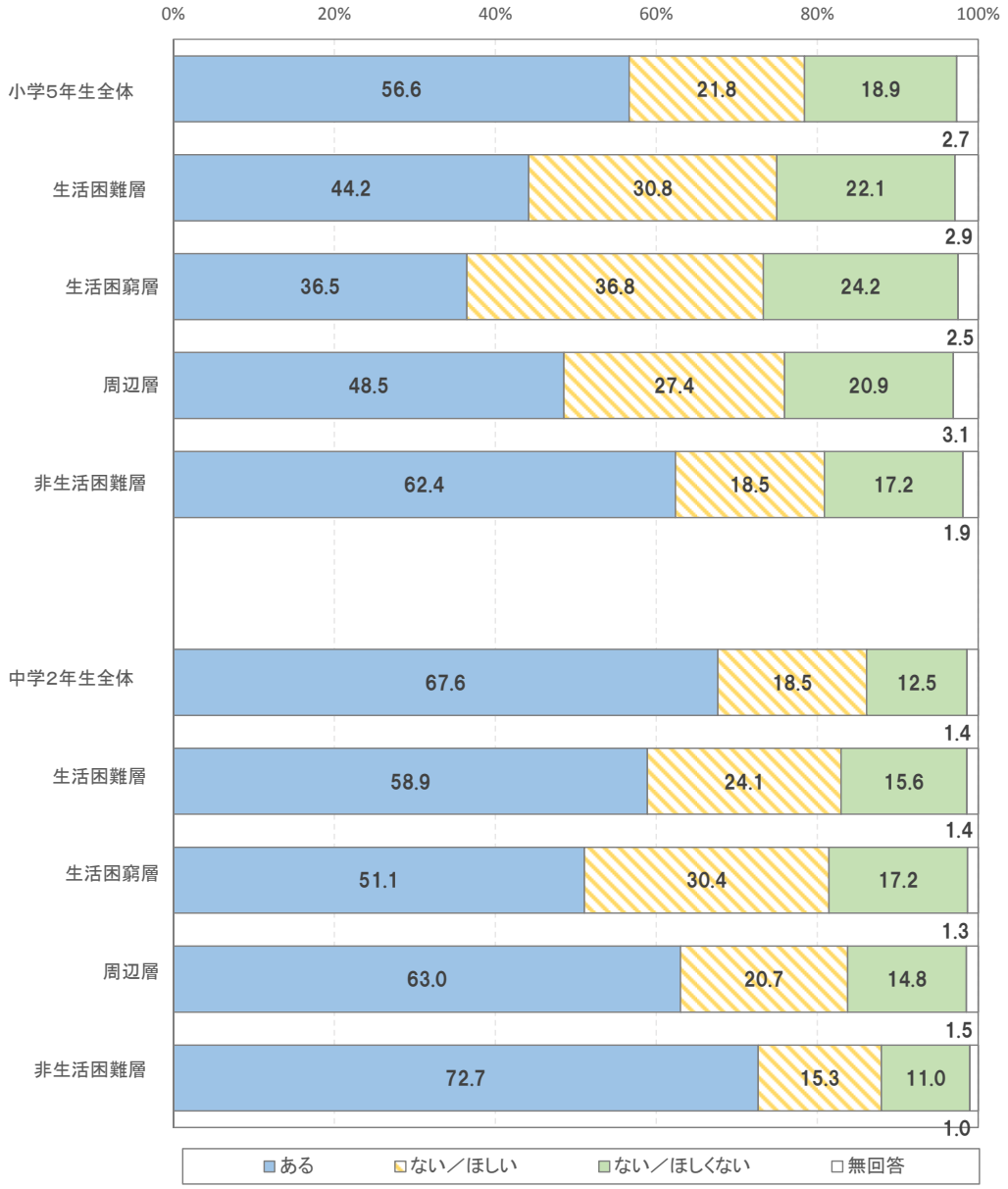
(2)　子供の生活水準　★

①　所有物の状況

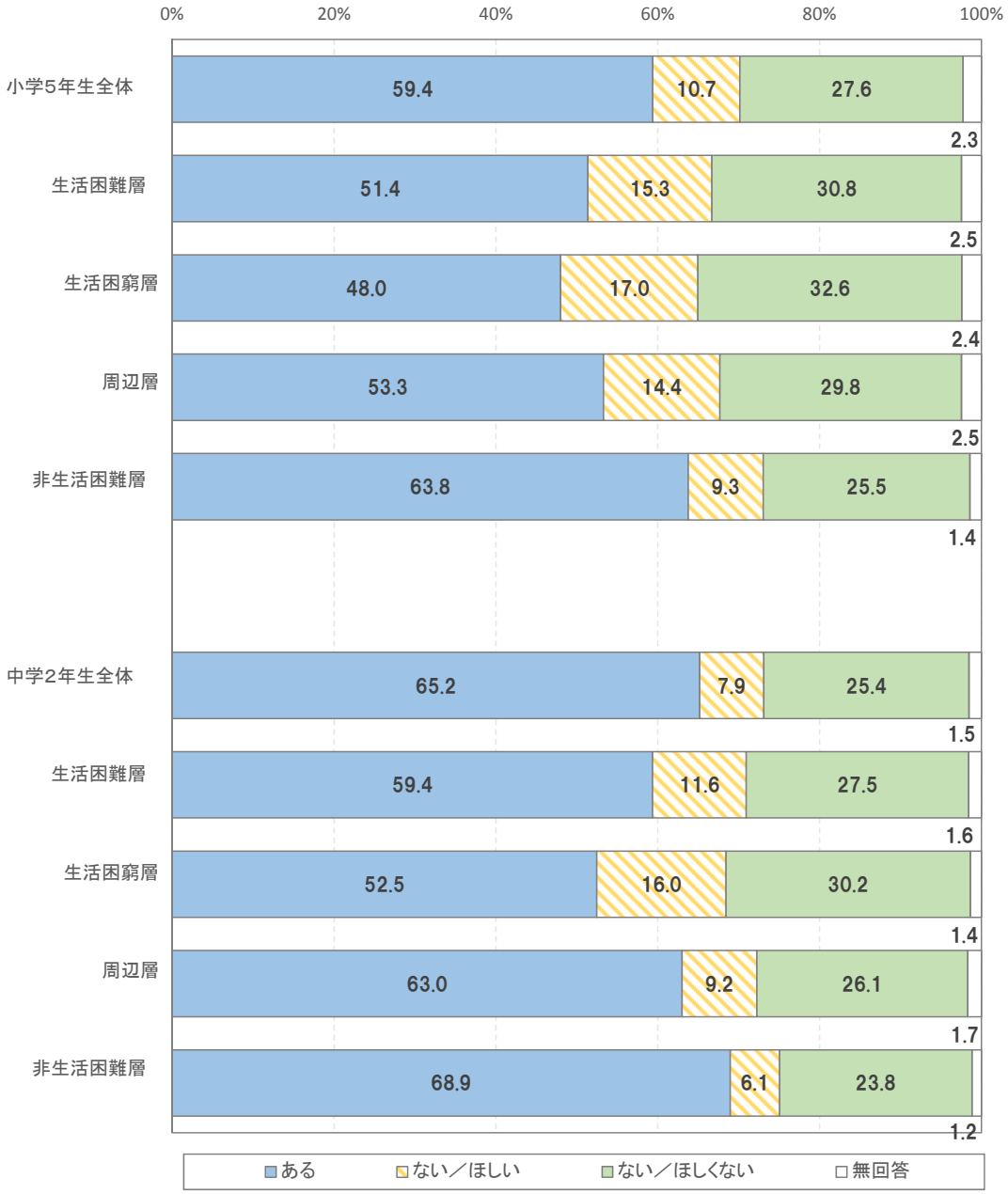
子供本人に，自分が使うことができる物品などの所有状況を尋ねたところ，「ゲーム機」，「携帯電話，スマートフォン」では生活状態による回答に大きな違いは見られませんが，それ以外の物品などでは，生活困難層のほうが非生活困難層よりも所有している割合が低くなっています。

なかでも「インターネットにつながるパソコン」，「友だちが着ているのと同じような服」に関しては，非生活困難層と生活困窮層の間に 15～25%程度の差が見られます。

インターネットにつながるパソコンの所有状況　[**]［**]



友達が着ているのと同じような服の所有状況　[**]［**］

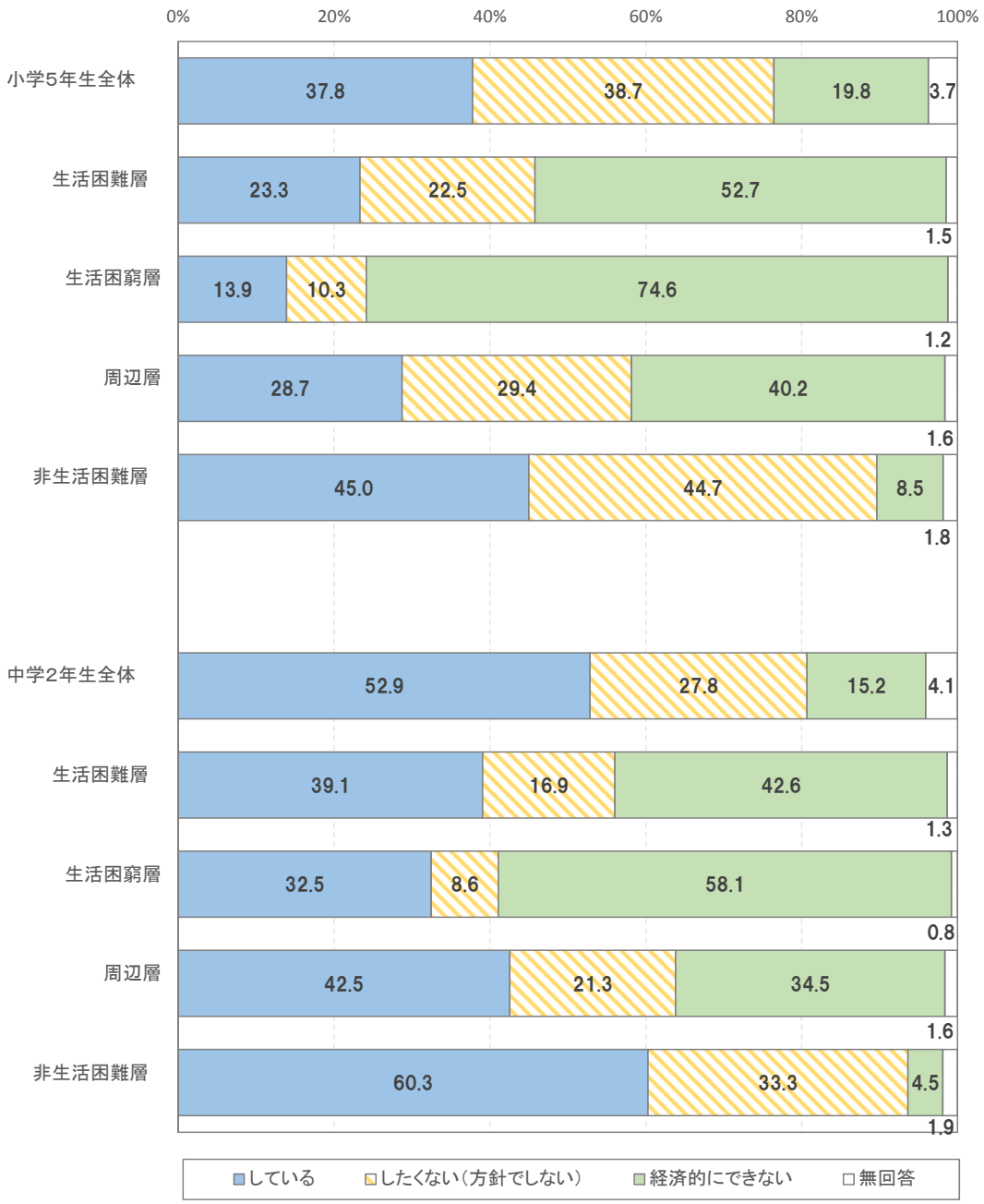


② 子供への支出

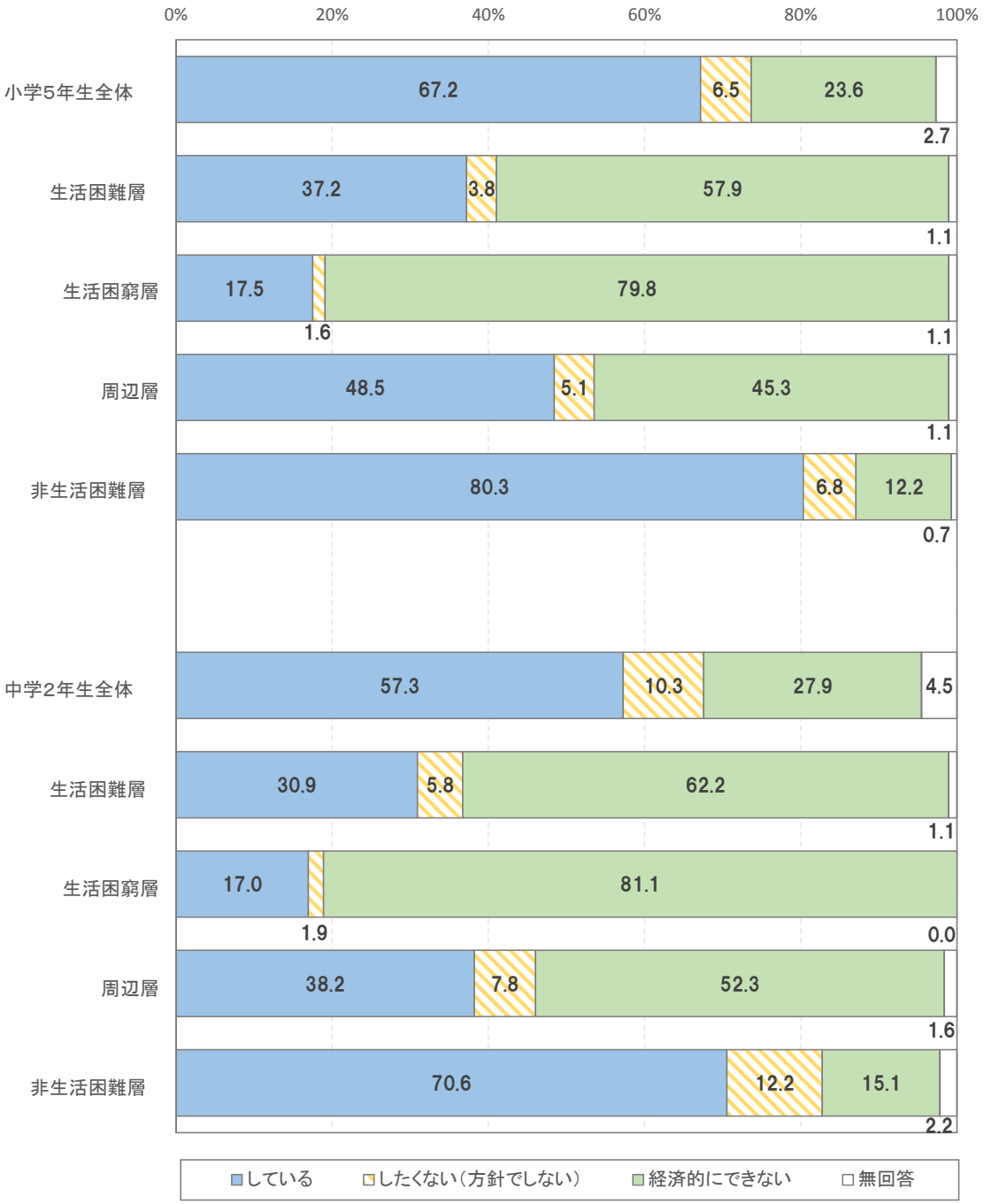
保護者に，子供に対する支出状況を尋ねたところ，「お誕生日のお祝いをする」，「子供の学校行事などへ保護者が参加する」については，生活状態による回答に大きな違いは見られません。

しかし，それ以外の項目（「毎月お小遣いを渡す」，「毎年新しい洋服・靴を買う」など）では，生活が困難になるほど，「経済的にできない」と回答した割合が高く，特に「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」，「１年に１回くらい家族旅行に行く」においては，生活困窮層が「経済的にできない」と回答している割合が高く，小学校５年生，中学校２年生で６割～８割程度となっています。

学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）　[**] [**]



１年に１回くらい家族旅行に行く　[**] [**]



(3)　食と栄養

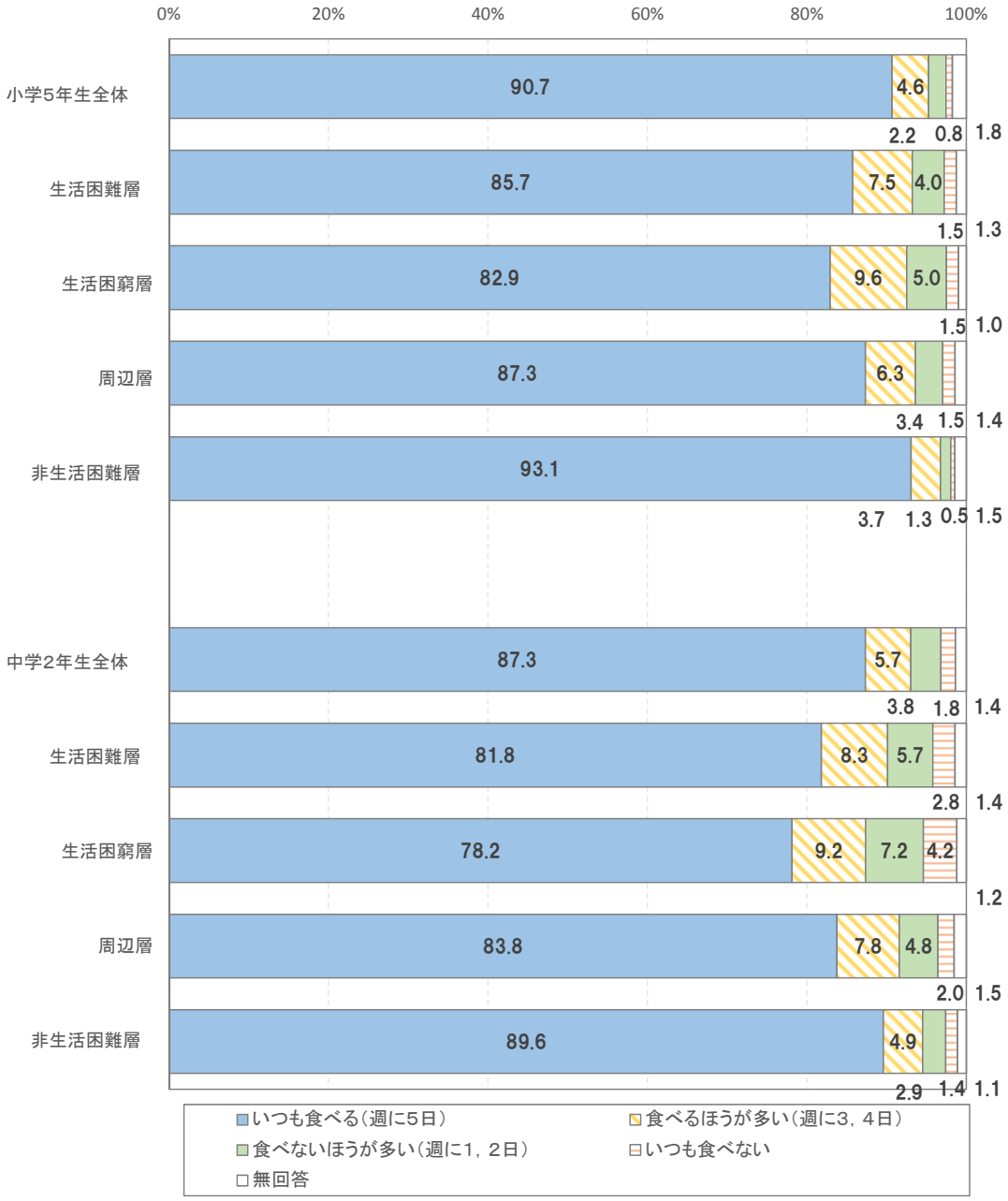
①　子供の朝食の摂取状況

子供に対して，平日に朝食を食べる頻度を尋ねたところ，「いつも食べる（週５回）」と回答した割合は，小学校５年生・中学校２年生ともに全体で約９割となっています。

学年による大きな違いは見られませんが，小学校５年生の生活困窮層の 16.1%が『毎日食べない』（「食べるほうが多い（週に３，４日）」「食べないほうが多い（週に１，２日）」「いつも食べない」の合計）と回答しており，非生活困難層の約３倍となっています。

中学校２年生においても『毎日食べない』と回答した割合は，非生活困難層では 9.2%と１割に満たないですが，生活困窮層では 20.6%となっており，生活が困難になるほど，朝食を毎日食べない子供の割合が高くなっています。

平日における子供の朝食の摂取状況［**］［**］



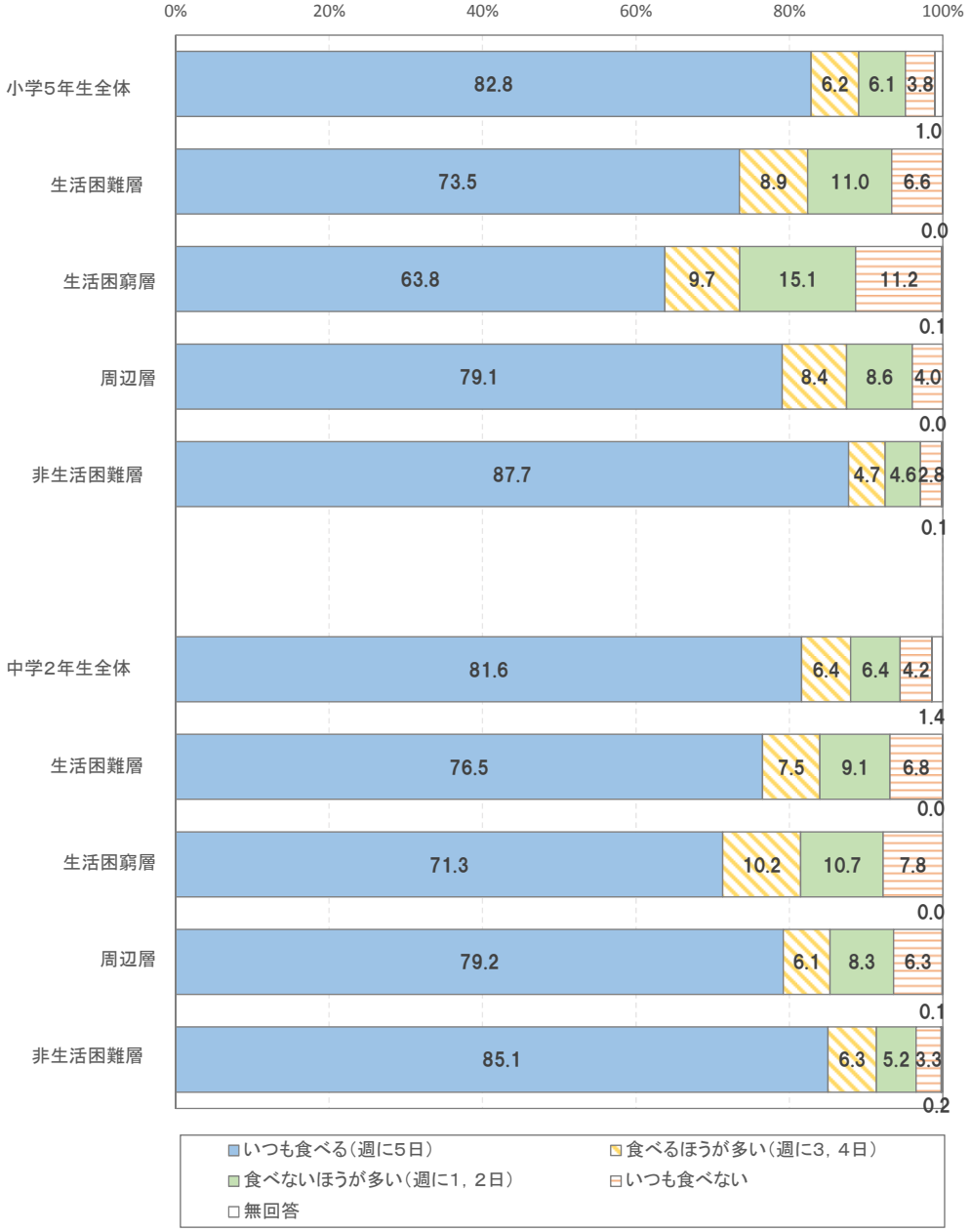
② 保護者が朝食を食べる頻度 ★

保護者に，平日（お子さんが学校に行く日）の朝ごはんの喫食状況を尋ねたところ，「いつも食べる（週５回）」と回答した割合は，小学校５年生・中学校２年生の保護者ともに全体で８割を超えています。

学年による大きな違いは見られませんが，小学校５年生の保護者の生活困窮層では，36.0%が『毎日食べない』（「食べるほうが多い（週に３，４日）」「食べないほうが多い（週に１，２日）」「いつも食べない」の合計）と回答しており，非生活困難層 12.1%に対し，約３倍となっています。

中学校２年生の保護者においても,『毎日食べない』と回答した割合は,非生活困難層の 14.8%に対して生活困窮層では 28.7%となっており，生活が困難になるほど，朝食を毎日食べない保護者の割合が高くなっています。

保護者が朝食を食べる頻度 ［**］［**］



3　子供の学び

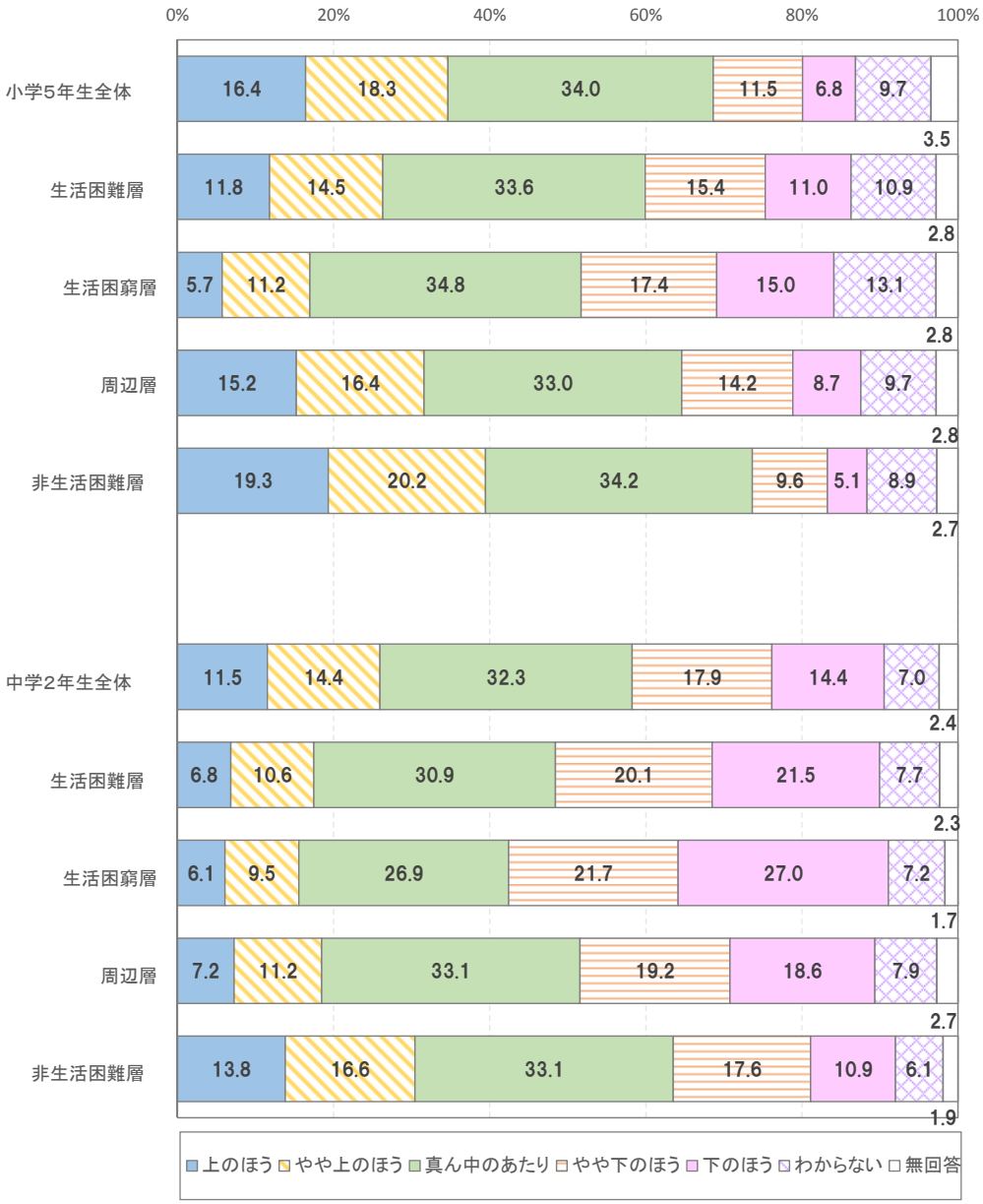
(1)　学校の成績

○　成績の（主観的）評価

子供本人がクラスの中での順位について，『上位だと思う』（「上のほう」「やや上のほう」の合計）と回答した割合は，小学校５年生全体で 34.7%，中学校２年生全体では 25.9%，『下位だと思う』(「やや下のほう」「下のほう」の合計）と回答した割合は小学校５年生全体で 18.3%，中学校２年生全体で 32.3%となっています。

生活状態別に見ると，『上位だと思う』と回答した割合は，小学校５年生の非生活困難層で 39.5%であるのに対し，周辺層では 31.6%，生活困窮層で 16.9%，中学校２年生の非生活困難層では 30.4%に対し，周辺層では 18.4%，生活困窮層では 15.6%となっており，生活が困難になるほど，『上位だと思う』と回答した割合が低くなっています。

成績の（主観的）評価　[**] [**]



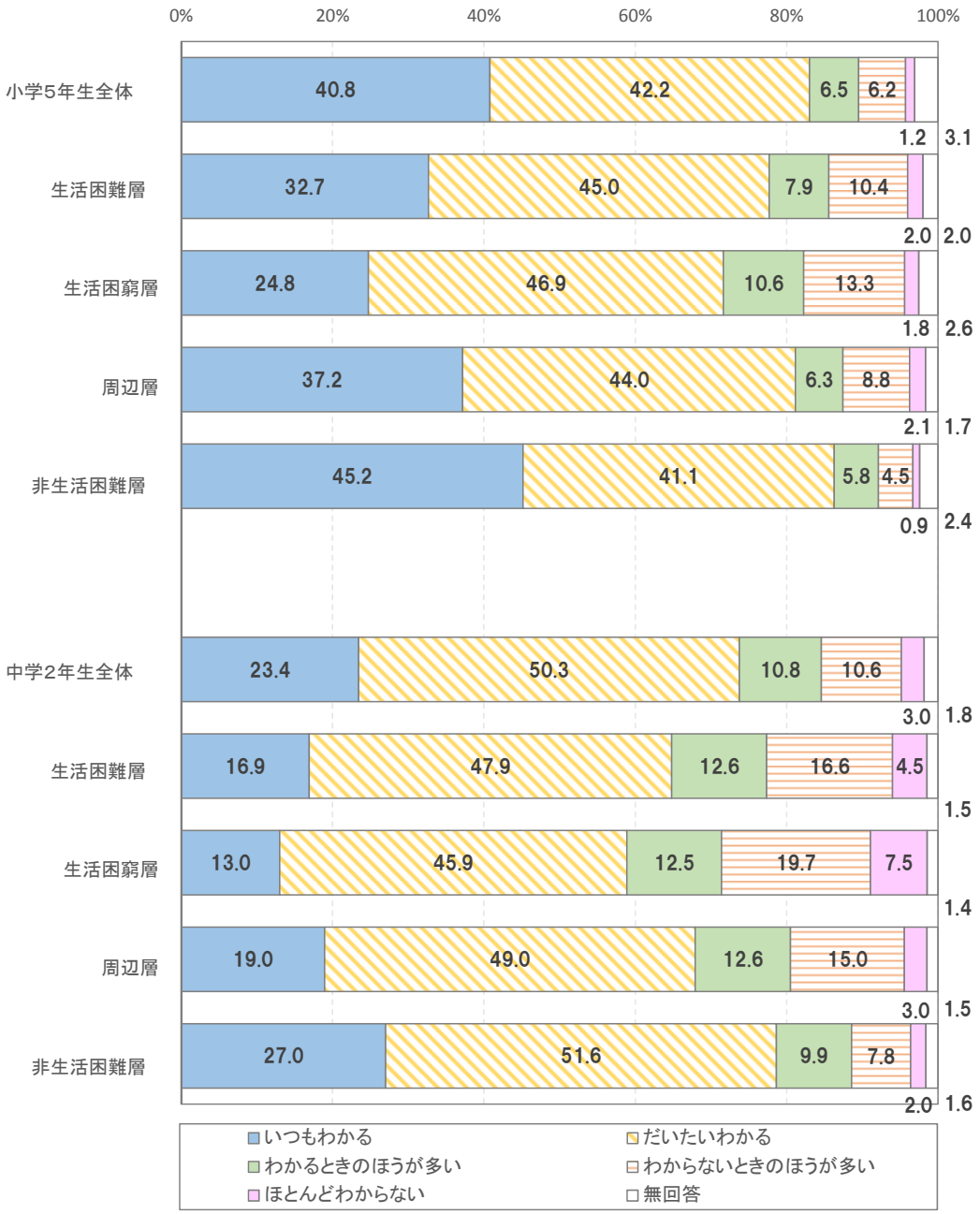
(2)　授業の理解や学習の状況

①　授業の理解度

授業の理解度について，前(1)の学校の成績と同様の傾向が見られ，小学校５年生・中学校２年生ともに，生活が困難になるほど，『わかる』（「いつもわかる」「だいたいわかる」「わかるときのほうが多い」の合計）と回答した割合が低くなっています。

特に，中学校２年生について，『わからない』（「わからないときのほうが多い」「ほとんどわからない」の合計）と回答した割合を見ると，非生活困難層では１割に満たないのに対し，周辺層は２割，生活困窮層では３割に近くなっています。

授業の理解度　[**]［**]

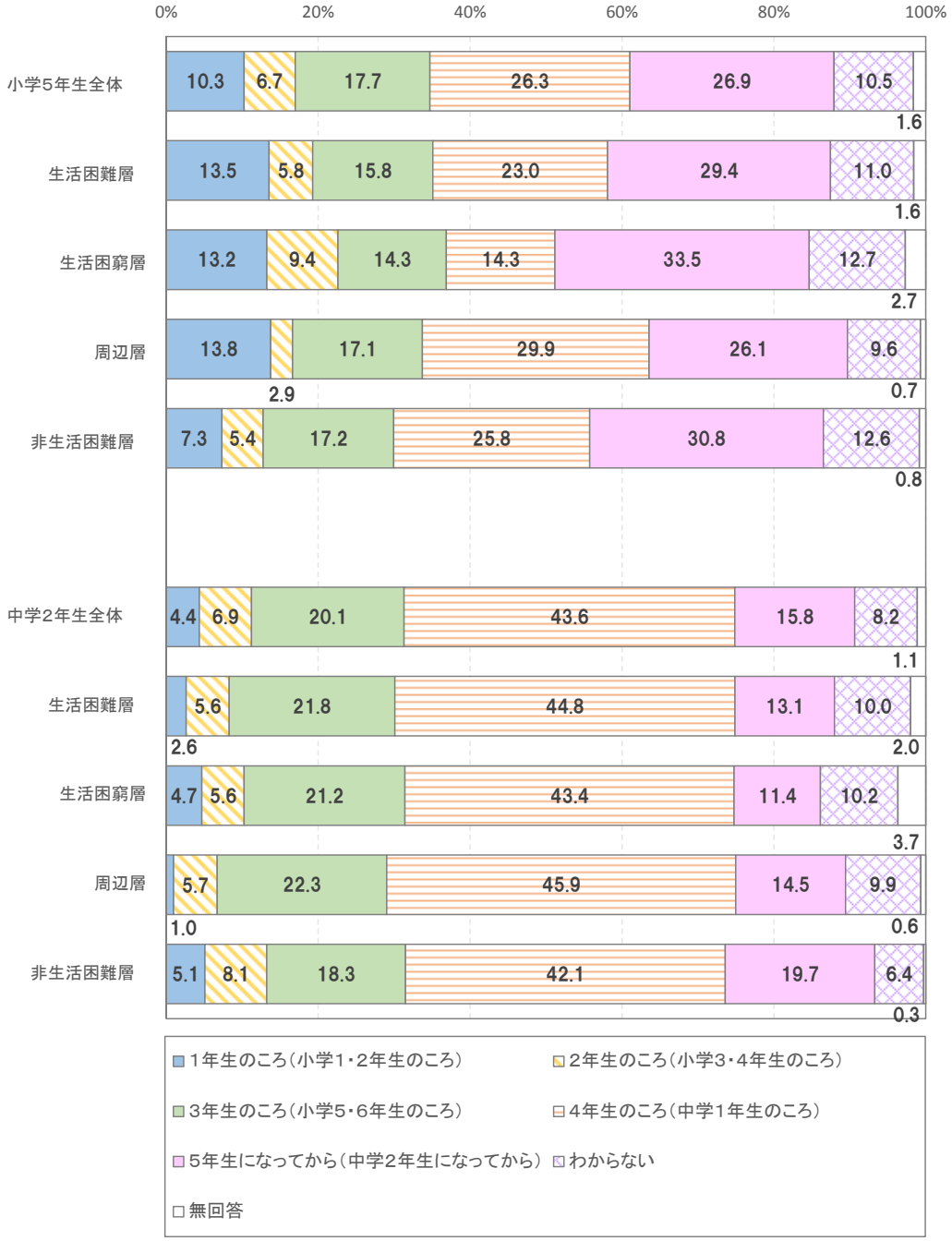


② 授業がわからなくなった時期

授業がわからなくなった時期について，小学校５年生全体では，「５年生になってから」と回答した割合が最も高くなっています。しかし，生活が困難になるほど，『小学校３年生まで』(「１年生のころ」～「３年生のころ」の合計）にわからなくなった割合が高くなっています。

中学校２年生では，わからなくなった時期について，生活状態による回答の割合に大きな差は見られません。

授業がわからなくなった時期　[　] [＊]

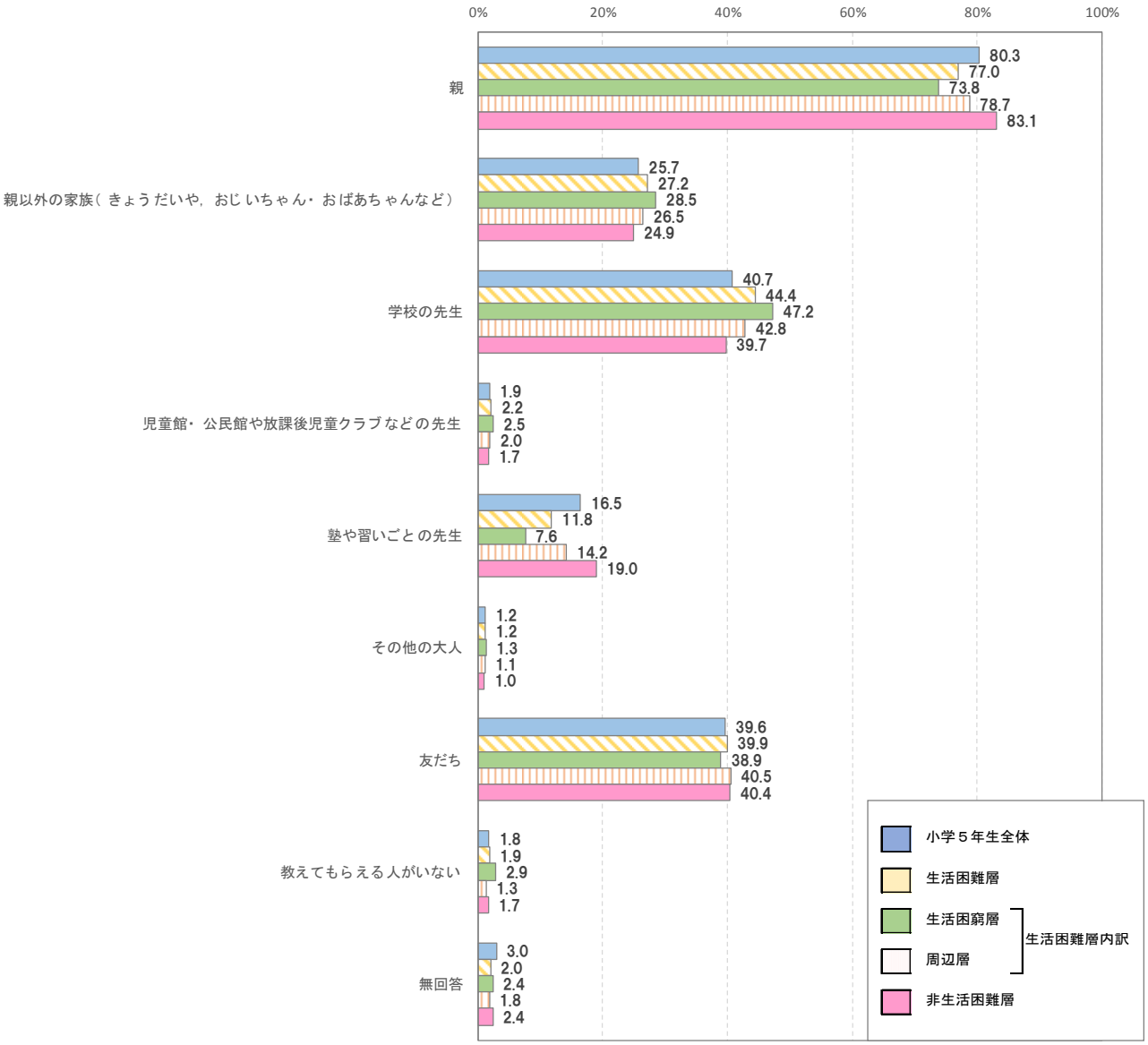


③　勉強を教えてもらう人　★

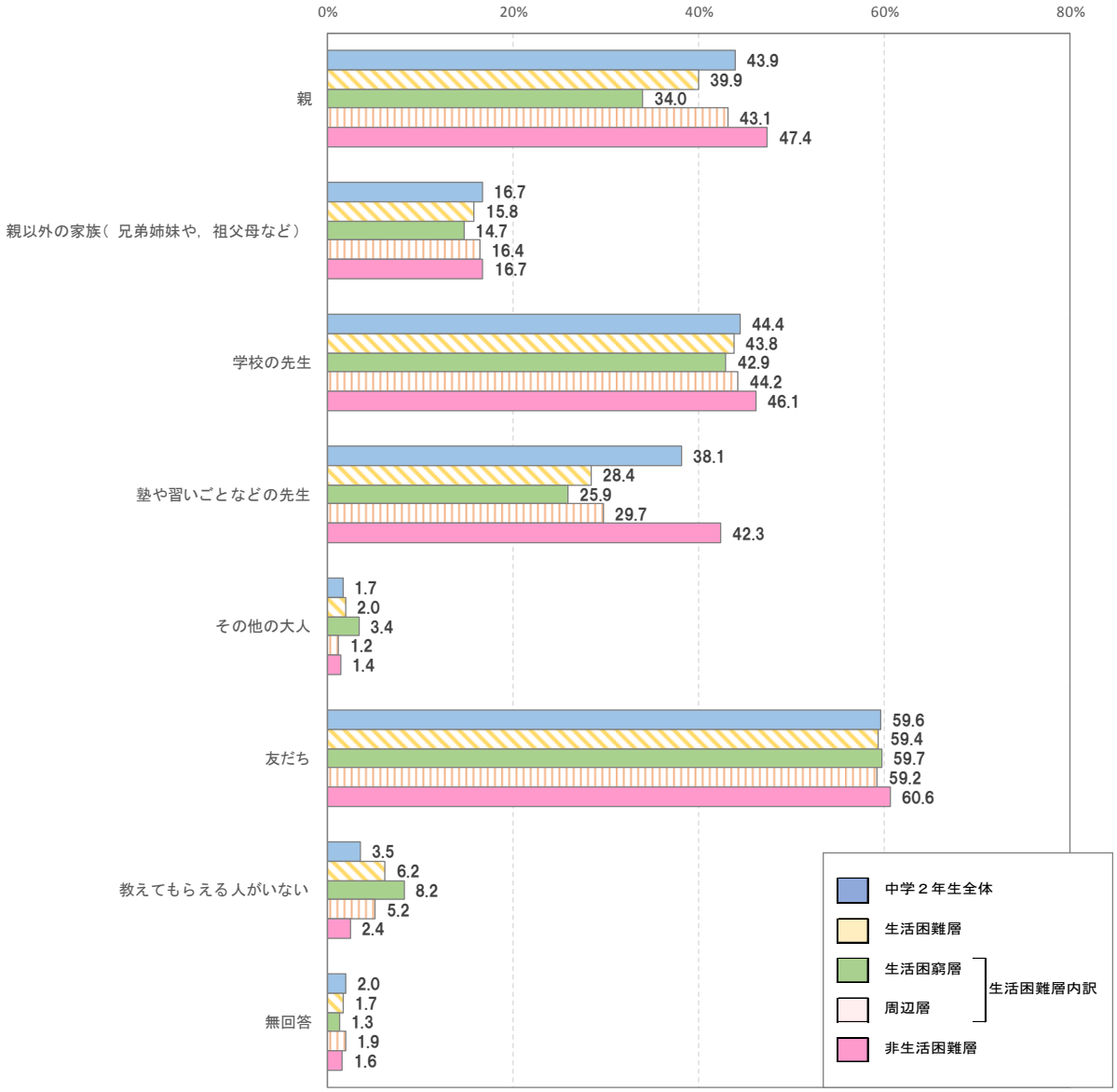
「勉強がわからないときは，誰に教えてもらいますか」と尋ねたところ，小学校５年生全体では，「親」，「学校の先生」，「友だち」の順で回答した割合が高くなっていますが，生活状態別に見た場合，生活が困難になるほど，「親」に教えてもらう割合が低く，逆に「学校の先生」に教えてもらう割合が高くなっています。「友だち」の場合は，生活状態による回答の割合にほとんど差はありません。

中学校２年生全体では，「友だち」，「学校の先生」，「親」，「塾や習いごとなどの先生」の順で回答した割合が高くなっていますが，生活状態別に見た場合，生活が困難になるほど，「親」や「塾や習いごとなどの先生」に教えてもらう割合が低くなっています。「友だち」の場合は，生活状態による回答の割合にほとんど差はありません。また，「教えてもらえる人がいない」という回答は，生活が困難になるほど，その割合が高くなっています。

小学校５年生：勉強がわからないとき，教えてもらう人　[**]



中学校２年生：勉強がわからないとき，教えてもらう人　[**]



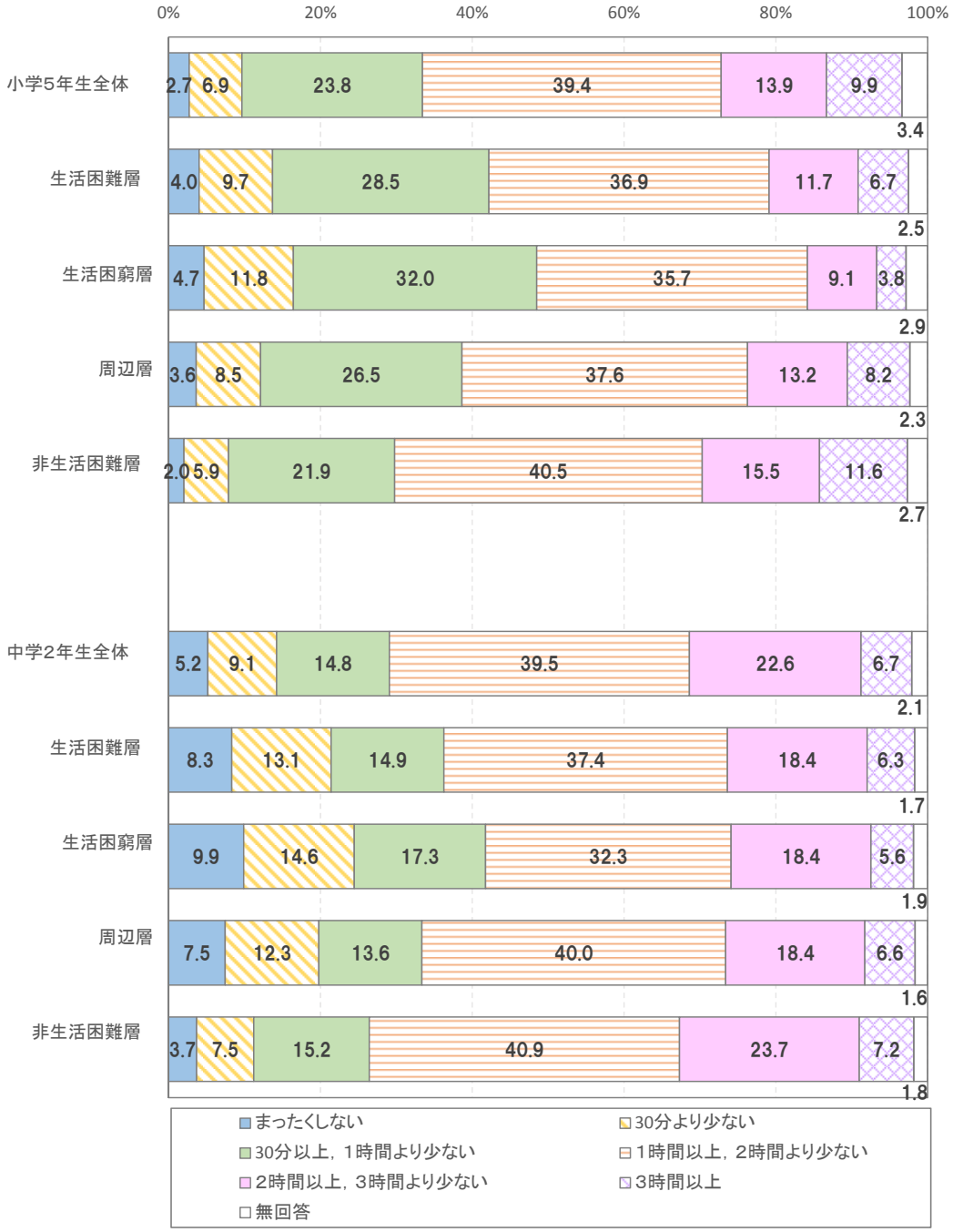
(3)　学校外での学習・勉強の状況　★

○　学校外での勉強時間及び学習塾・家庭教師の頻度

学校外での勉強時間について,『１時間以上』(「１時間以上，２時間より少ない」「２時間以上，３時間より少ない」「３時間以上」）と回答した割合を生活状態別に見ると，小学校５年生・中学校２年生ともに生活困難層のほうが非生活困難層よりも 10%程度低くなっています。

また，学習塾・家庭教師について,『週１回以上通って（来てもらって）いる』(「週に１日」～「毎日」）と回答した割合を生活状態別に見ると，小学校５年生・中学校２年生ともに生活困難層のほうが非生活困難層よりも 15%程度低くなっています。

学校外の勉強時間　[**]［**]



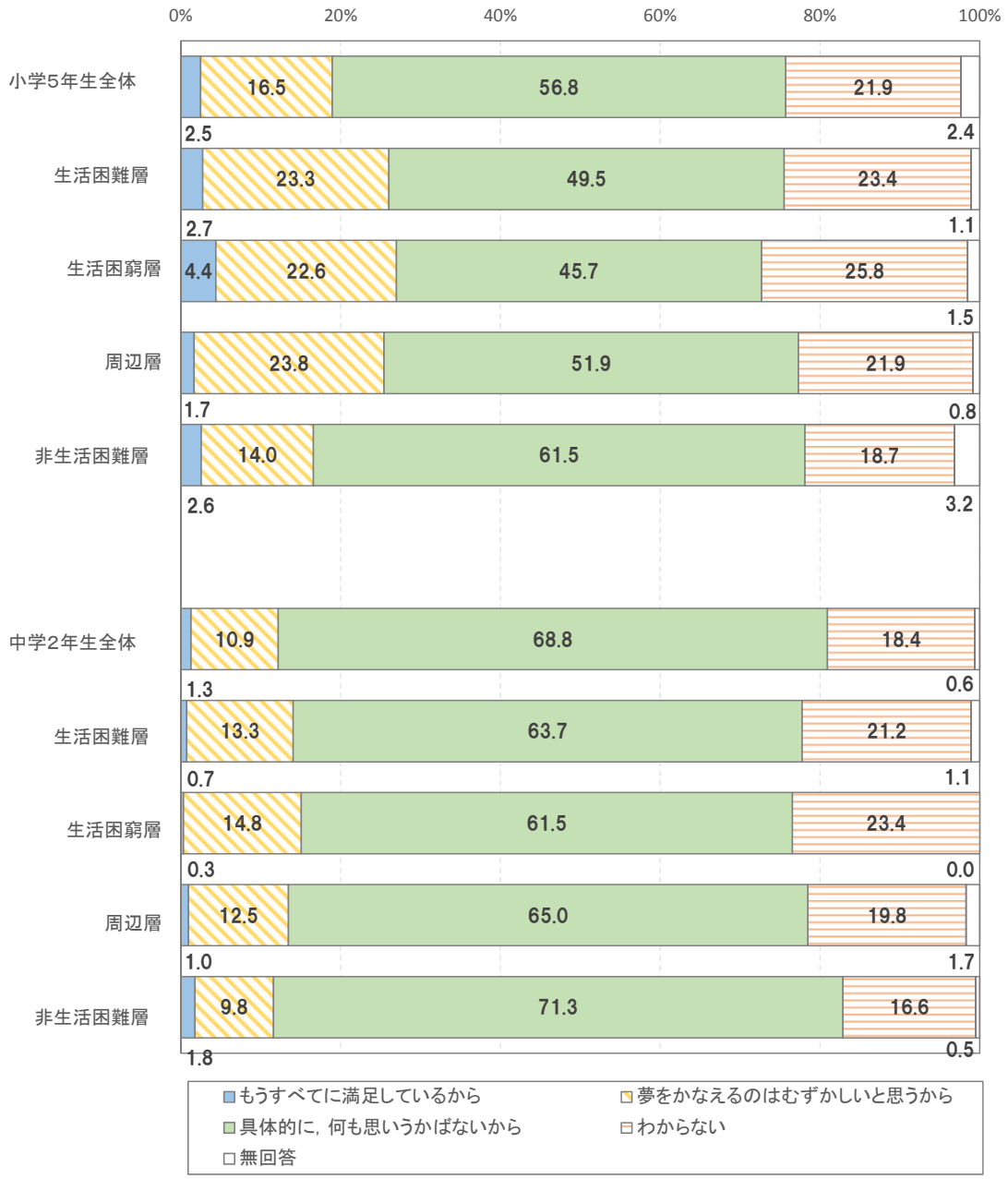
(4)　将来の夢

①　夢の有無と夢がない理由

将来の夢やつきたい職業が「ある」と答えた割合は，小学校５年生全体では８割，中学校２年生全体では６割となっており，学年による違いは見られますが，生活状態別の回答の割合には大きな差はありません。

また，「夢やつきたい職業がない」と答えた子供のうち，「夢をかなえるのはむずかしいと思うから」と回答した子供の割合は，生活困難層のほうが非生活困難層よりも高くなっています。

夢やつきたい職業がない理由　[**] [**]

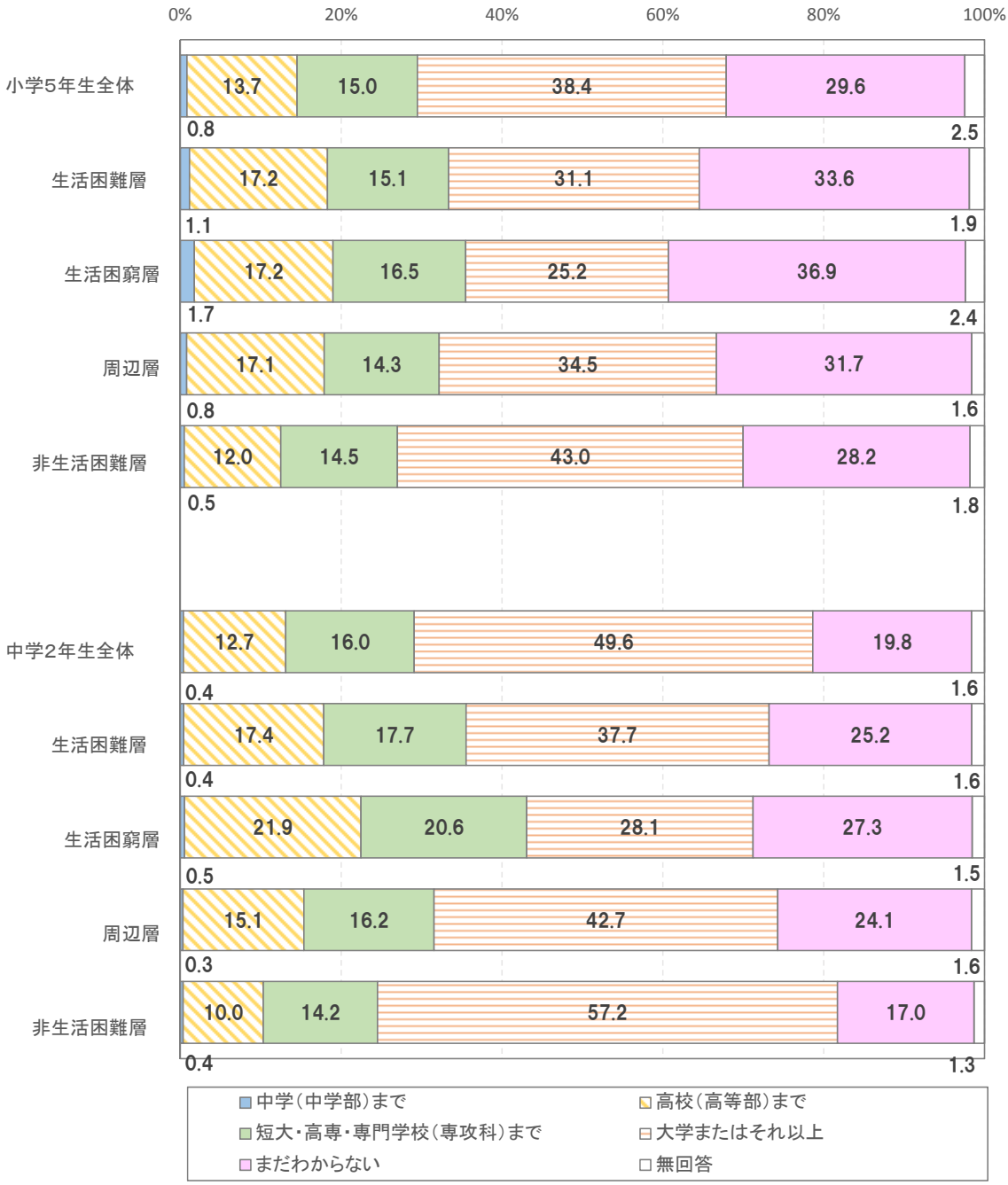


② 将来の進学希望 ★

子供に将来の進学希望を尋ねたところ，「大学またはそれ以上」と回答した割合は，非生活困難層に比べ生活困難層で低くなっています。

また，生活が困難になるほど，「まだわからない」と回答した割合が高くなっています。

将来の進学希望 ［**］［**］



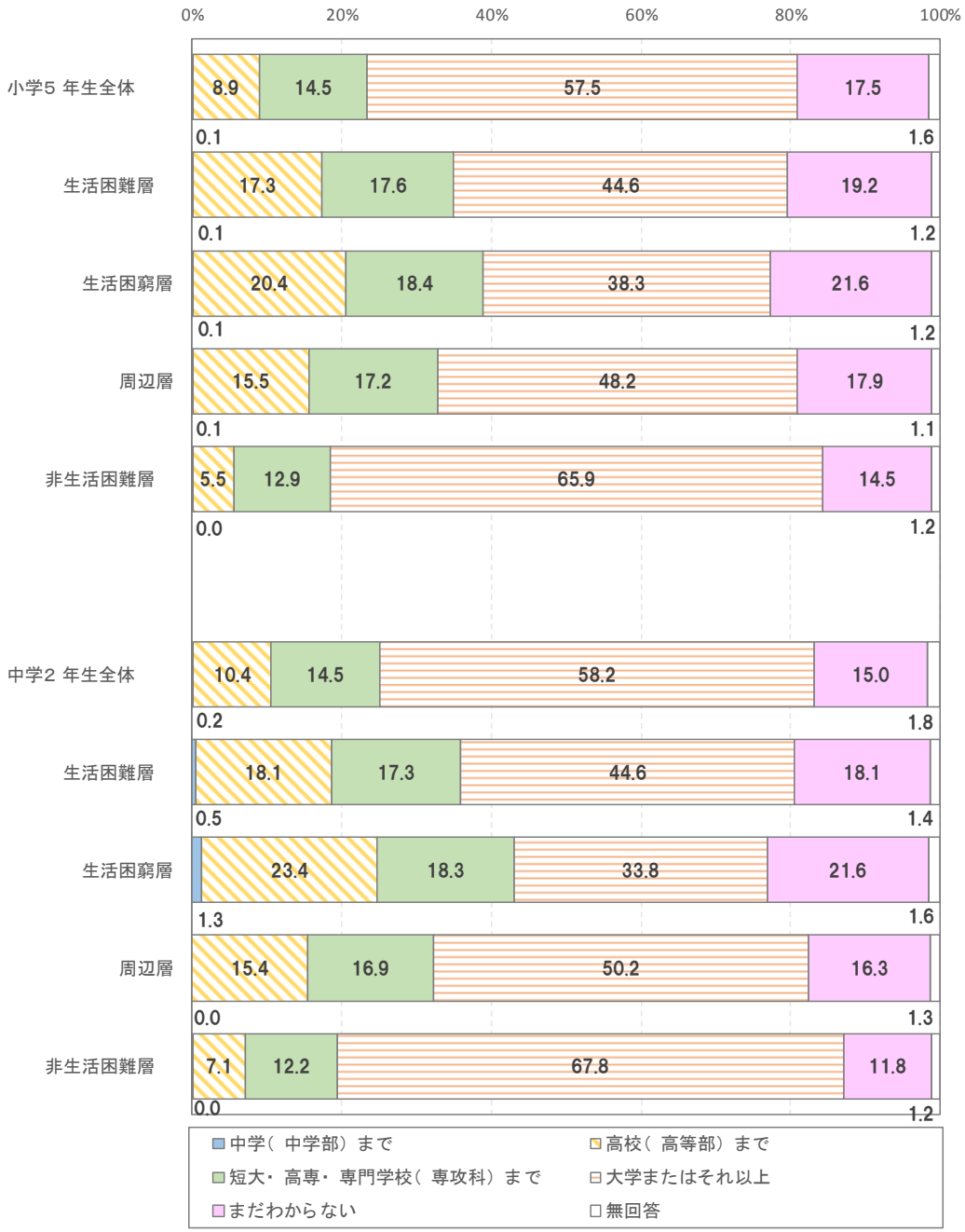
(5)　子供の教育　★

○　子供に受けさせたい教育段階

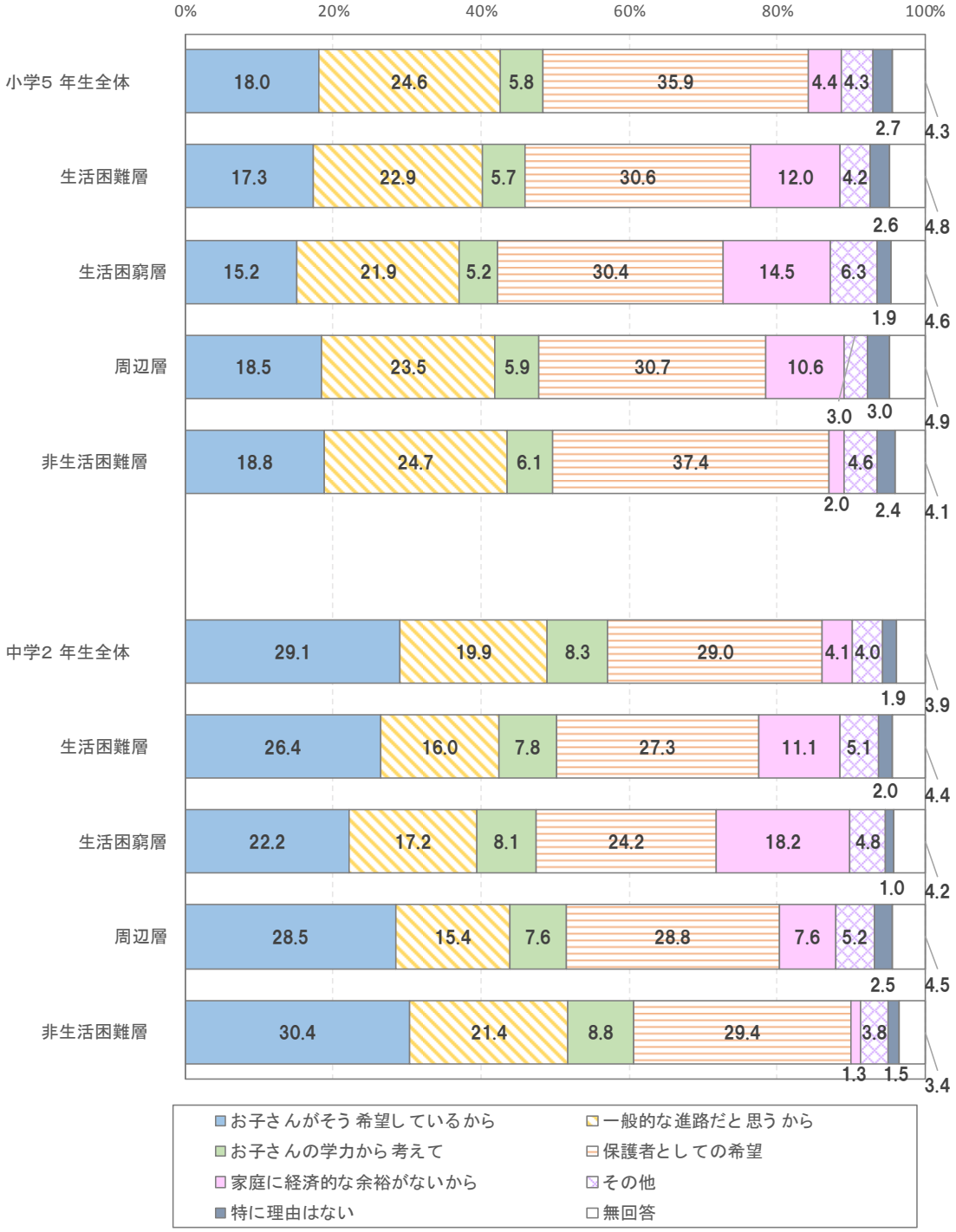
保護者に対して，子供に受けさせたい教育段階を尋ねたところ，「大学またはそれ以上」と回答した割合は，小学校５年生・中学校２年生ともに生活困難層のほうが非生活困難層より２割以上低くなっています。

教育段階を選択した理由において，「家庭に経済的な余裕がないから」と回答した割合は，生活困難層のほうが非生活困難層よりも 10%程度高くなっています。

子供に受けさせたい教育段階　[**] [**]



子供に受けさせたい教育段階の理由　[**] [**]



4　子供の日常生活

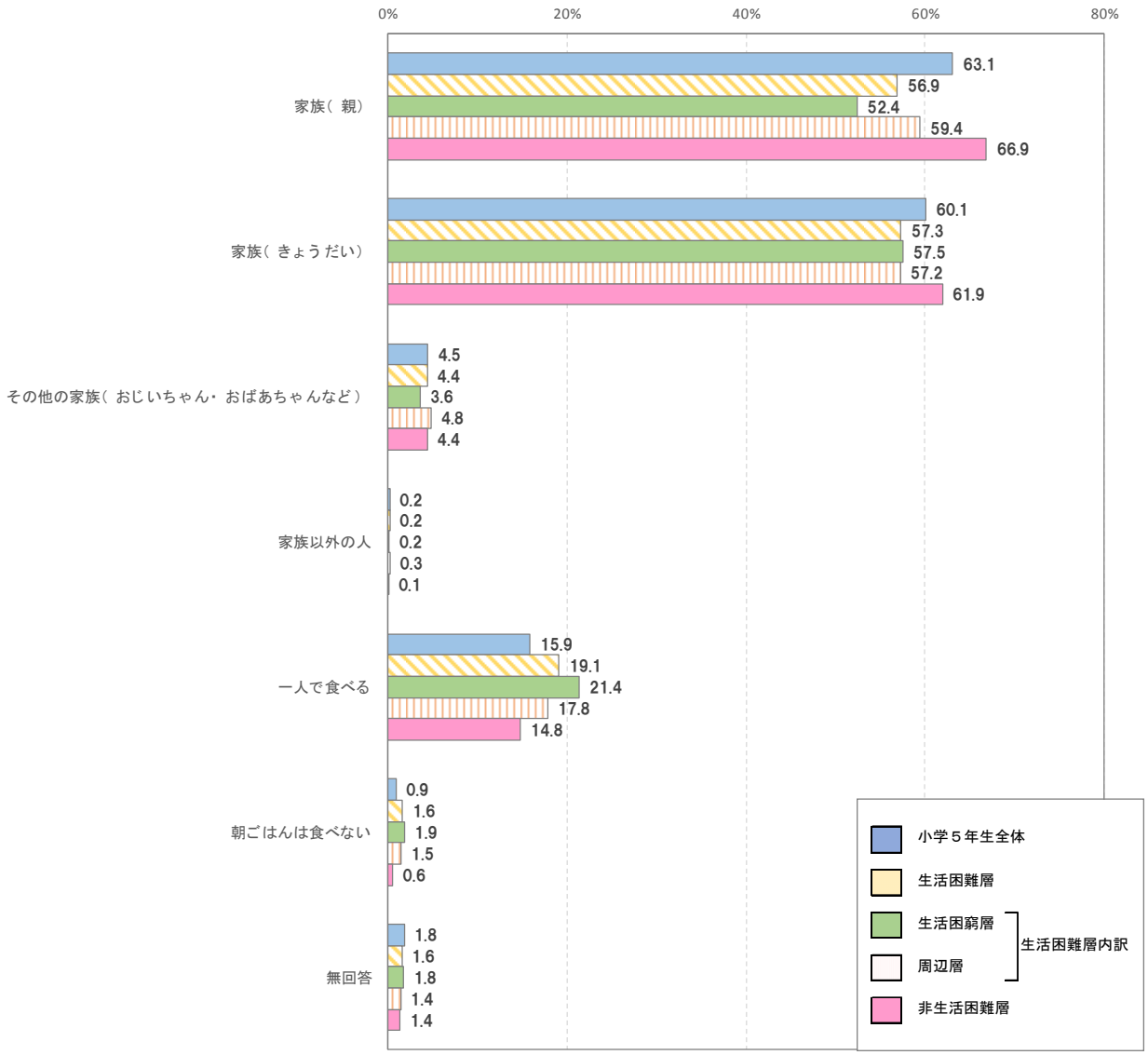
(1)　平日の食事

①　子供が朝食を一緒に食べる人

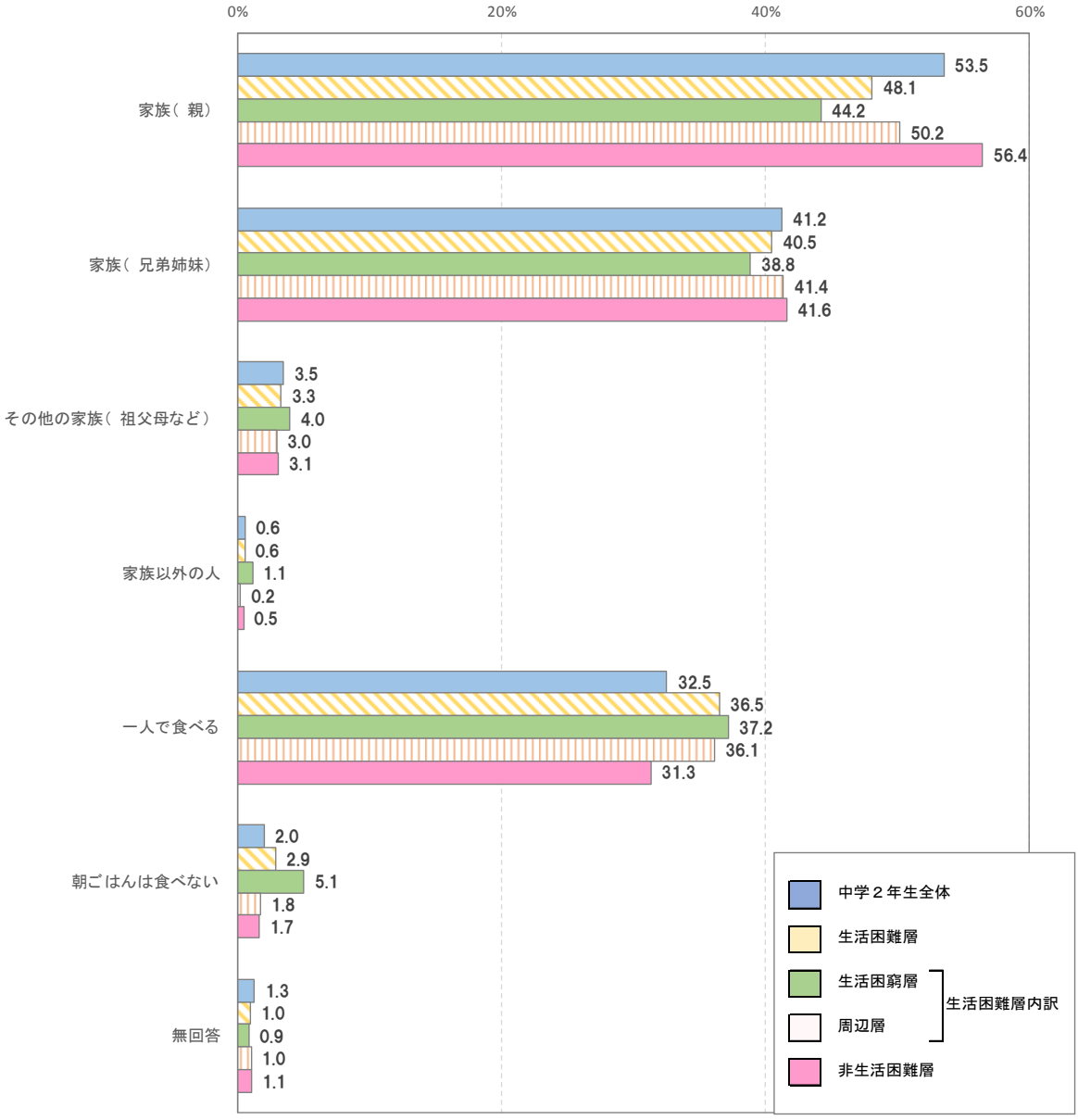
平日の食事の孤食状況を調べるため，食事を誰と食べるかを尋ねたところ，“夕食”については，小学校５年生・中学校２年生ともに，「親」と食べると回答した割合が９割程度と最も高く，次いで「きょうだい（兄弟姉妹）」となっています。生活状態別に見ても大きな差は見られず，“夕食”は家族と一緒に食べる子供の割合が高いことがわかります。

一方で，“朝食”については，小学校５年生・中学校２年生ともに，非生活困難層に比べ生活困難層で「親」と一緒に食べると回答した割合が 10%程度低く，また「一人で食べる」割合が高くなっています。

小学校５年生：平日の朝ごはんを一緒に食べる人　[**]



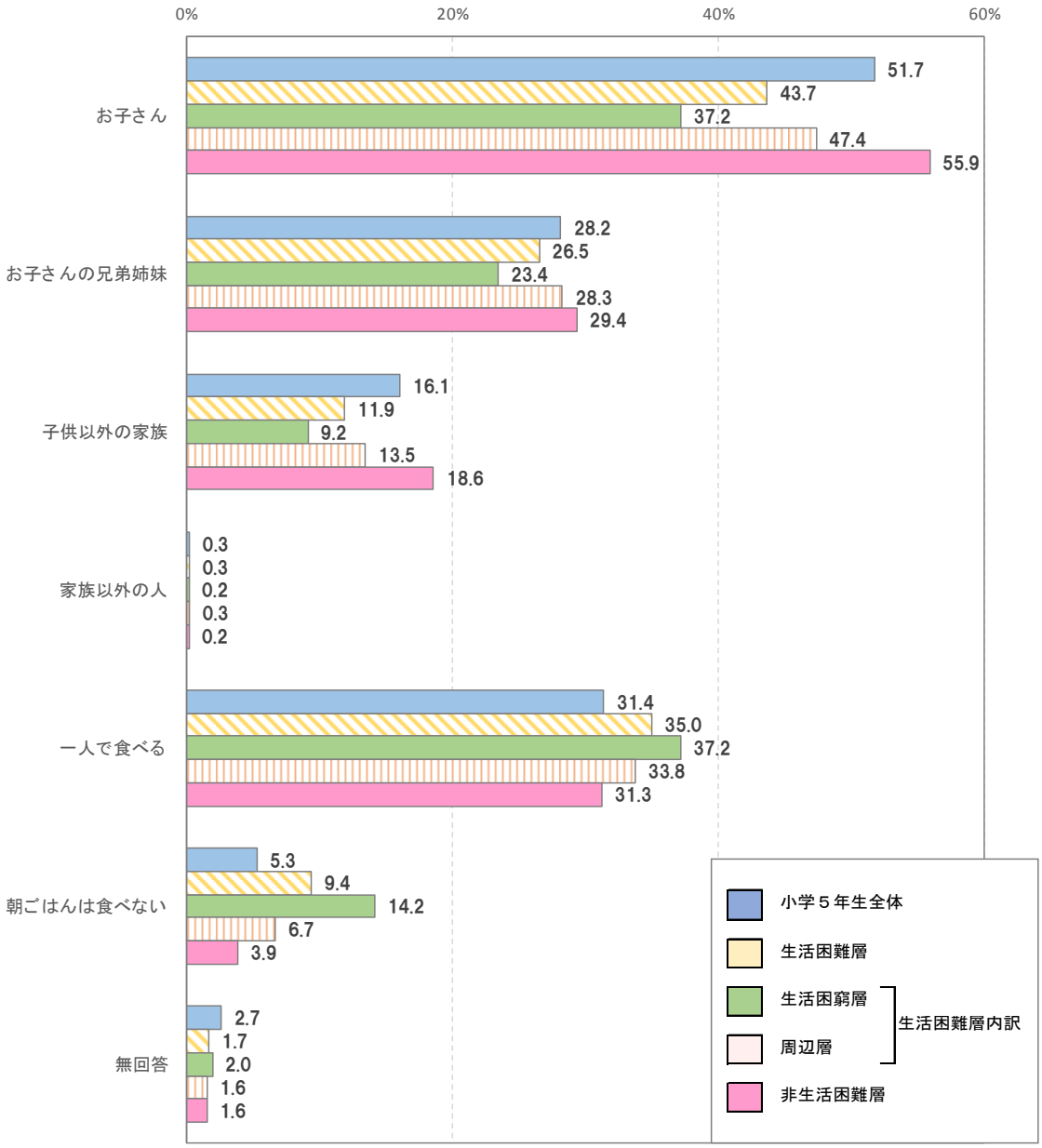
中学校２年生：平日の朝ごはんを一緒に食べる人　[**]



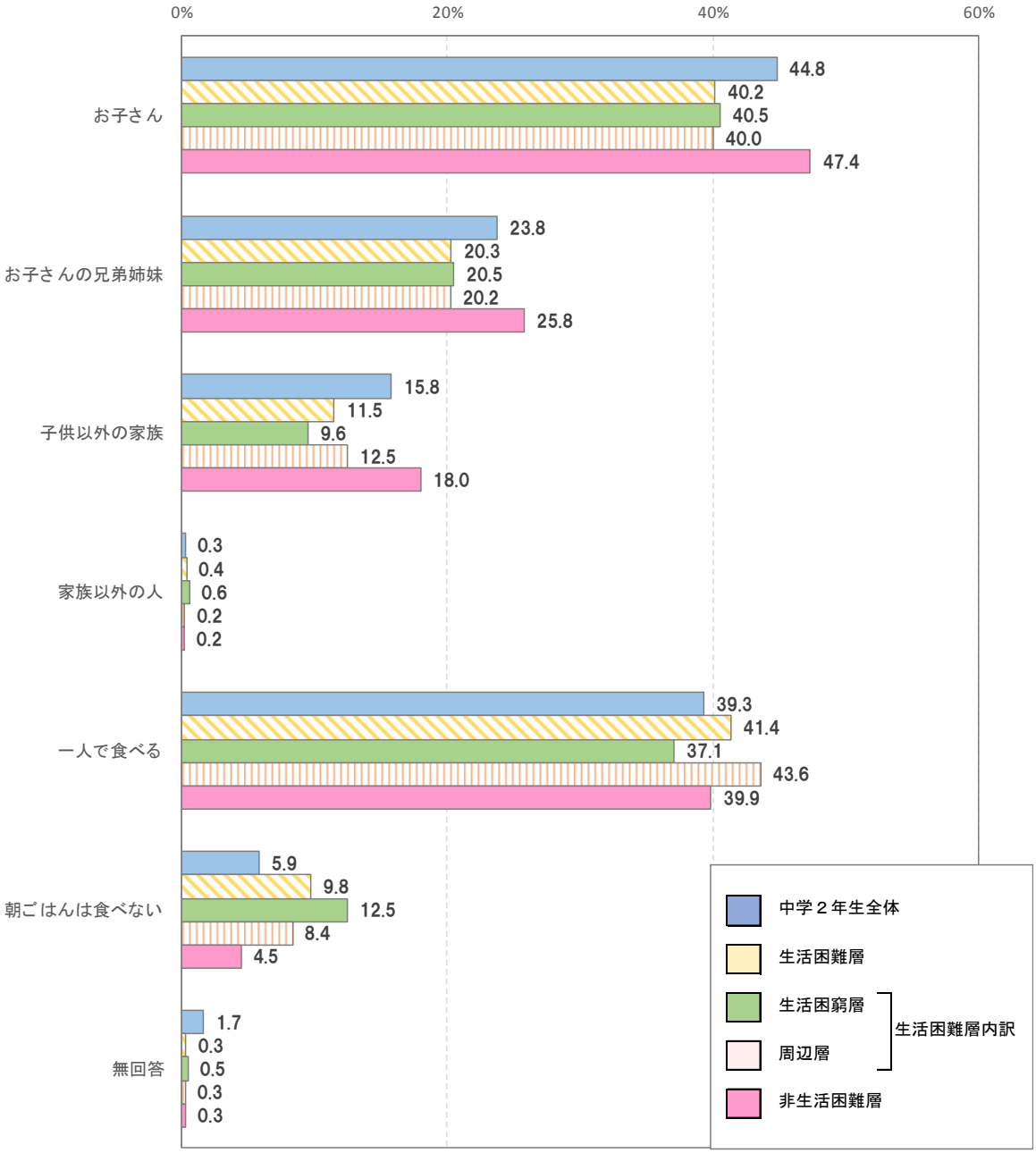
② 保護者が朝食を一緒に食べる人 ★

保護者に対して，平日（お子さんが学校に行く日）に朝ごはんを誰と食べるかを尋ねたところ，小学校５年生・中学校２年生の保護者ともに，全体では「お子さん」と回答した割合が最も高くなっています。生活状態別に見ると，特に小学校５年生の保護者の場合，非生活困難層では 55.9％であるのに対して，生活困窮層では 37.2％と２割程度の差があります。

小学校５年生保護者：朝食を一緒に食べる人 [**]



中学校２年生保護者：朝食を一緒に食べる人　[**]



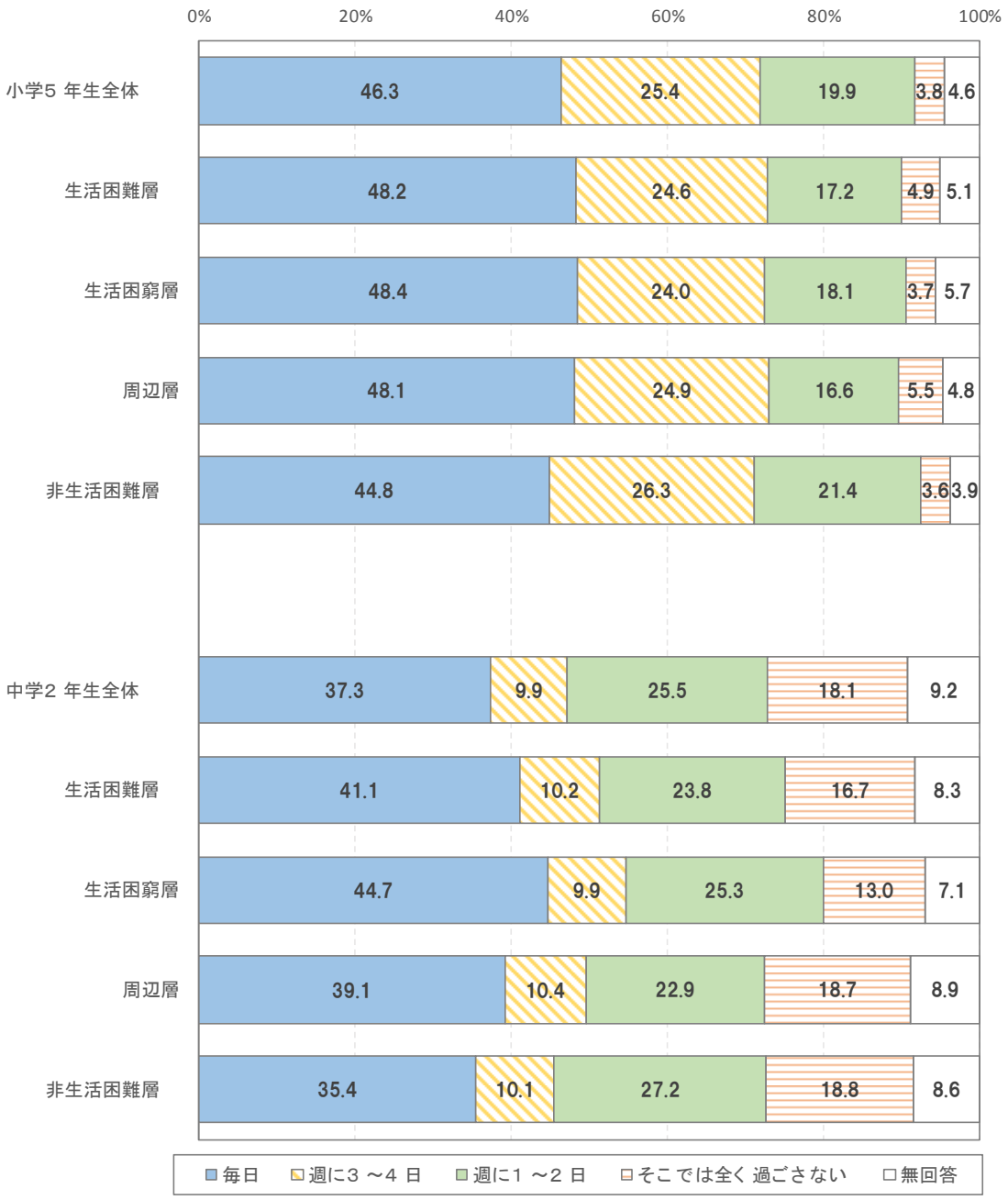
(2)　平日の放課後の過ごし方

○　平日の放課後を過ごす場所　★

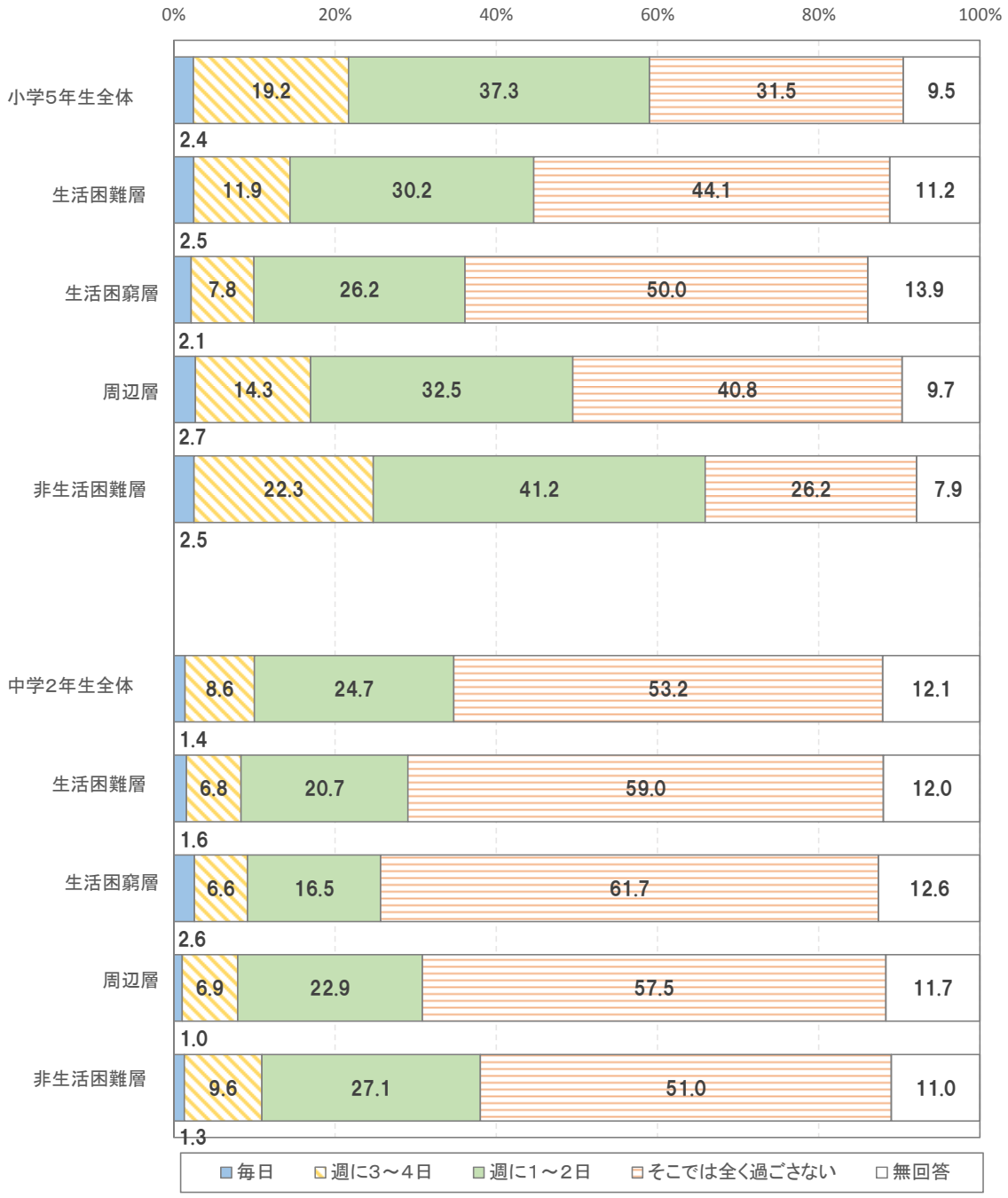
平日の放課後を過ごす場所について，過ごす頻度が『３～４日以上』(「毎日」「週に３～４日」の合計）という回答の割合は，小学校５年生では「自分の家」が最も高く，生活状態に関係なく約７割となっています。

また，平日の放課後を過ごす場所としての「塾や習いごとをする場所」について，生活が困難になるほど，「そこでは全く過ごさない」と回答した割合が高くなっており，生活困窮層では小学校５年生で 50.0%，中学校２年生で 61.7%となっています。

自分の家［**］［**］



塾や習いごとをする場所［**］［**］

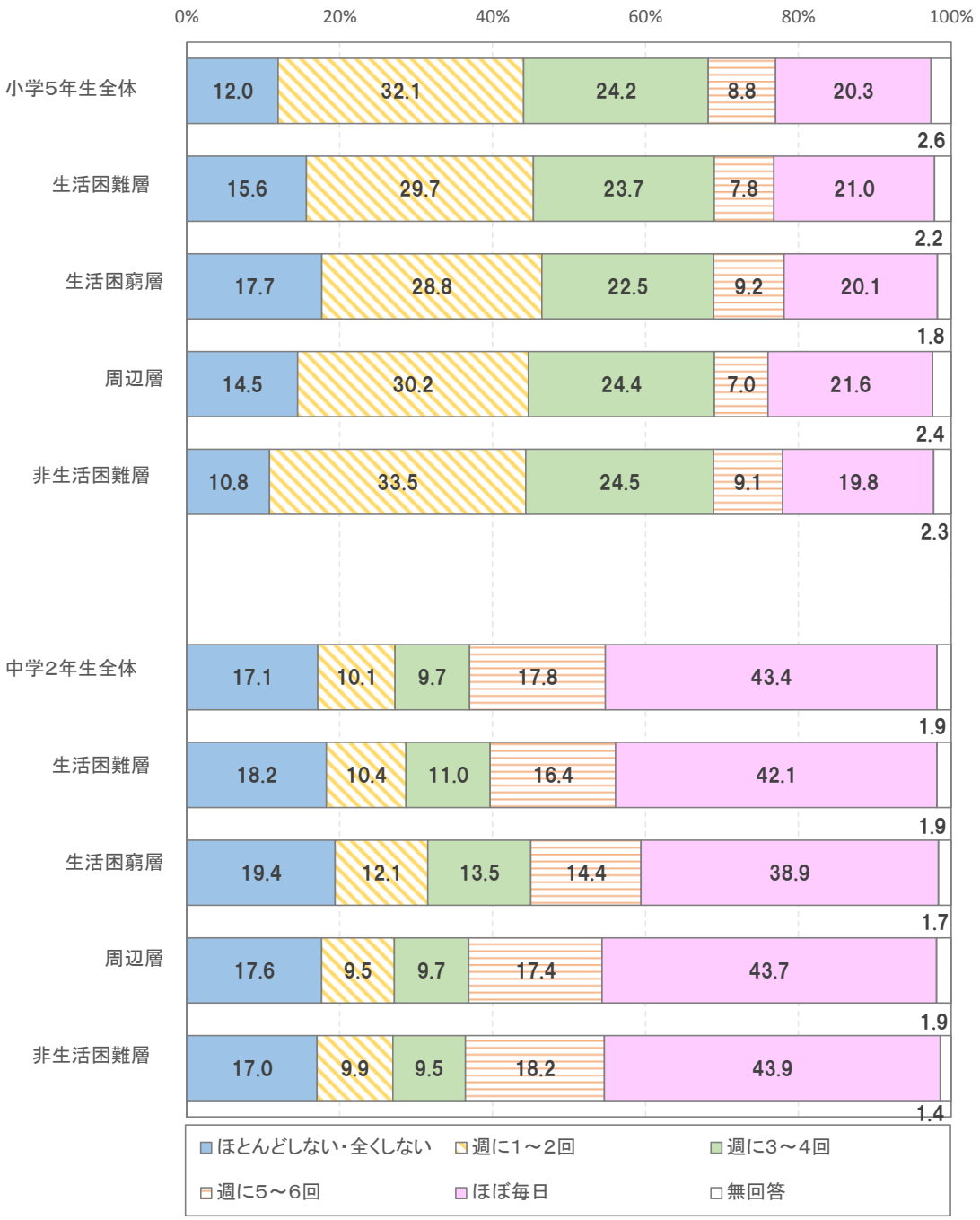


(3)　活動の状況　★

①　運動の状況

１週間の中で 30 分以上体を動かす遊びや習いごとをどれくらいするかを尋ねたところ，小学校５年生・中学校２年生ともに，非生活困難層に比べ生活困難層で「ほとんどしない・全くしない」の割合が高くなっています。

30 分以上体を動かす遊びや習いごとをする頻度［**］［**］

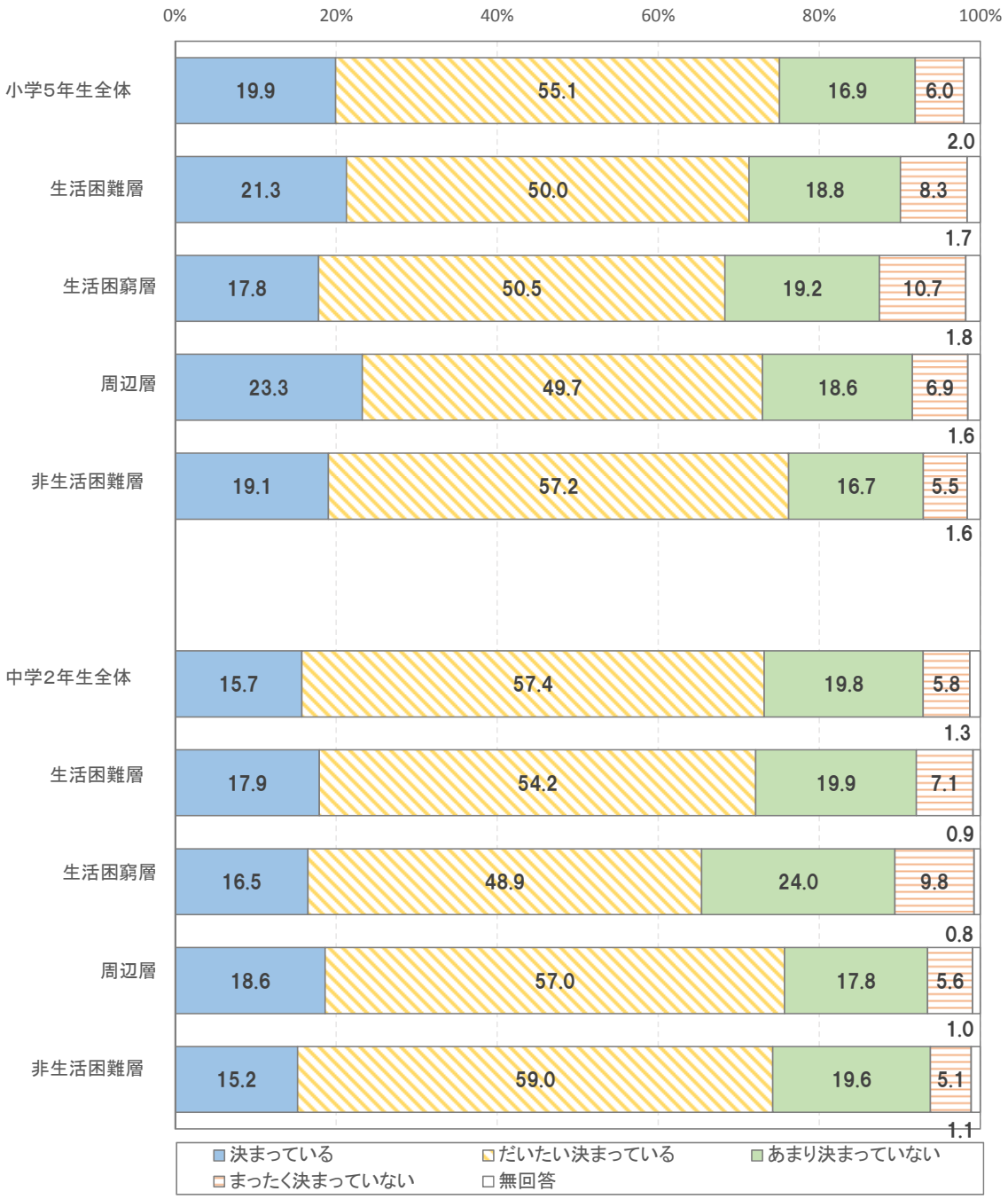


② 就寝・起床時刻

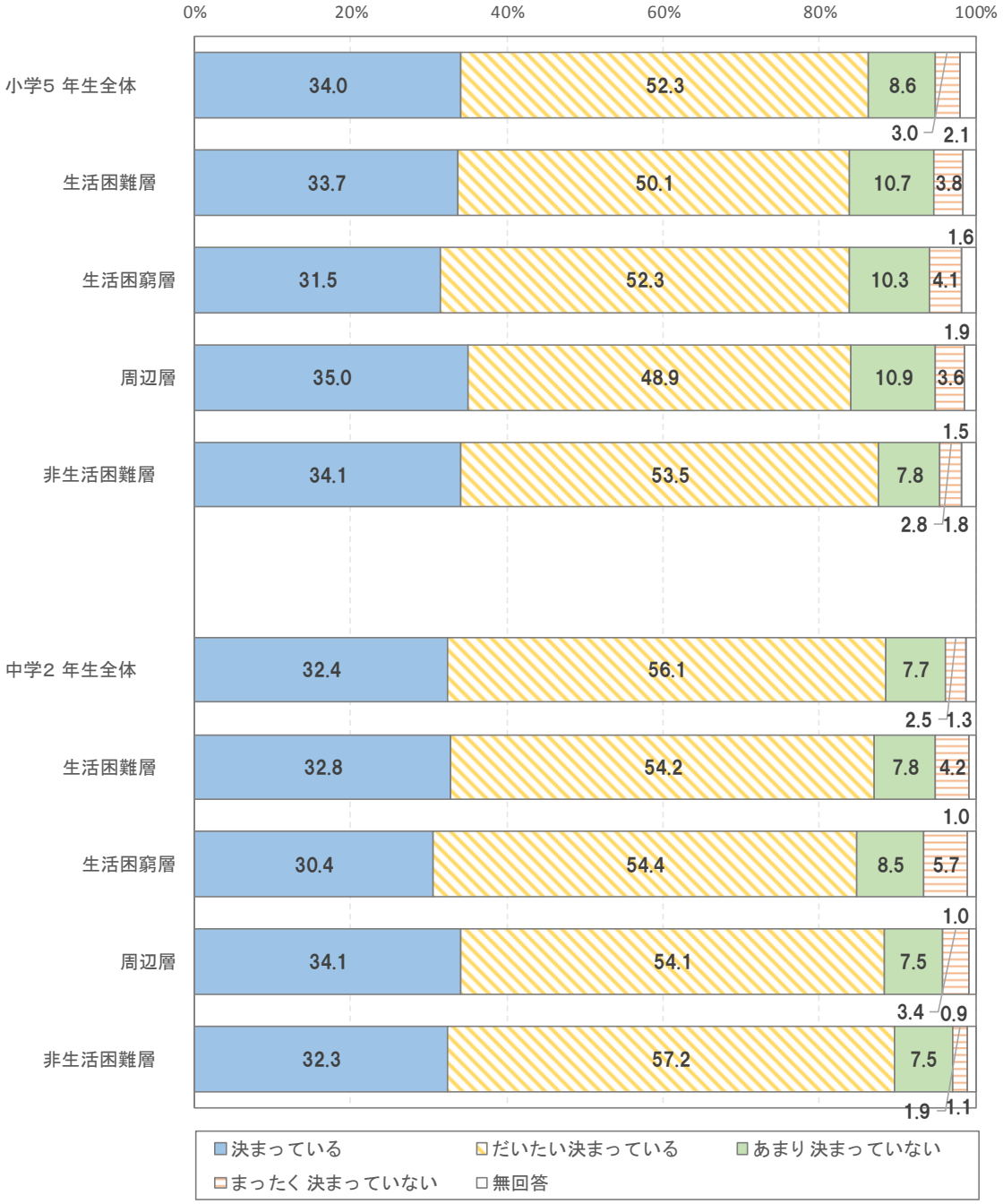
就寝・起床時刻が決まっているかを尋ねたところ，小学校５年生・中学校２年生ともに非生活困難層に比べ生活困難層で『決まっていない』(「あまり決まっていない」「まったく決まっていない」の合計）と回答した割合が高くなっています。

特に，就寝時刻が決まっていない子供の割合は，生活困窮層の小学校５年生・中学校２年生で約３割となっています。

就寝時刻［**］［**］



起床時刻［**］［**］

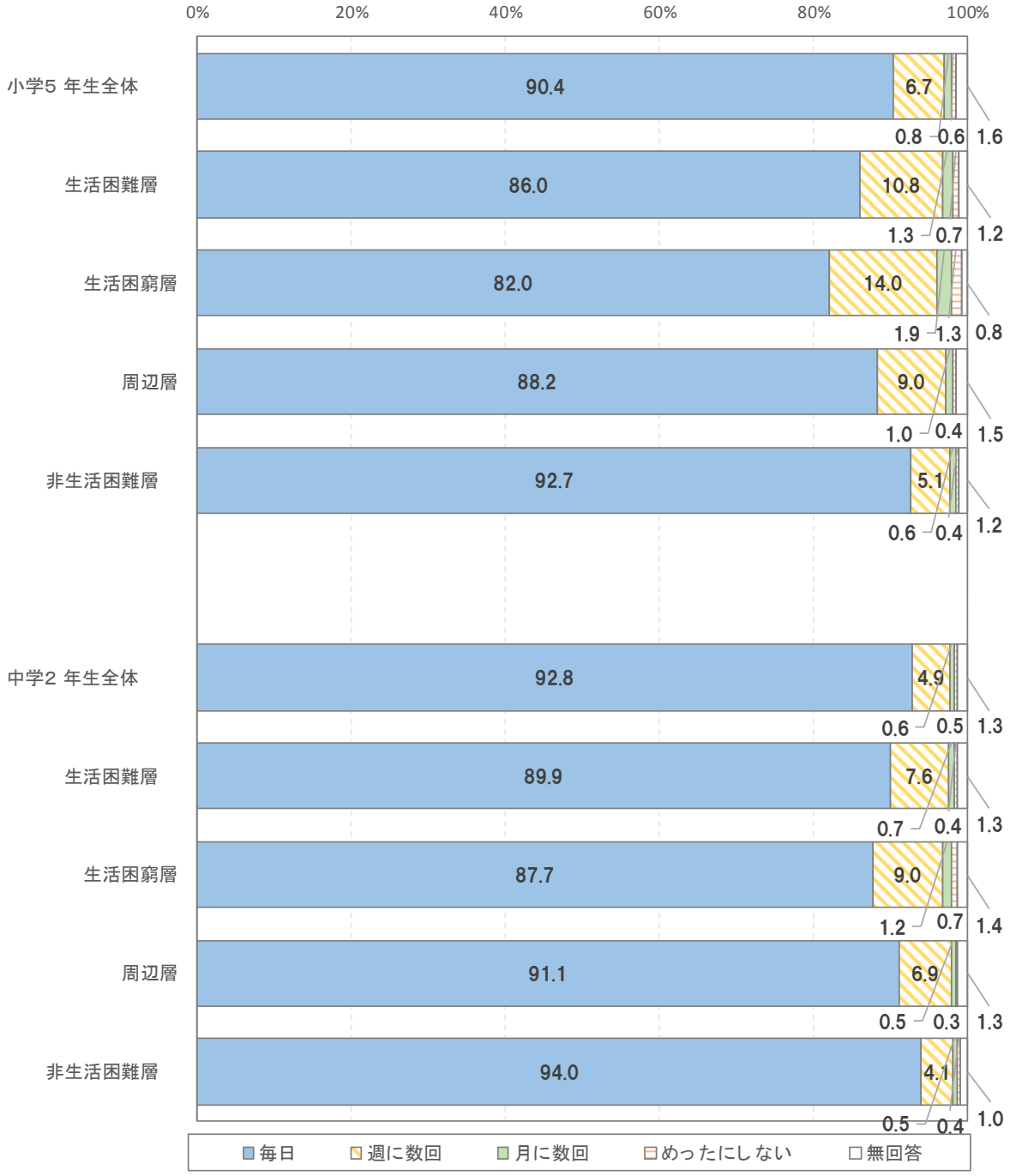

0%
20%
40%
60%
80%
100%
小学5 年生全体
34.0
52.3
8.6
3.0
2.1
生活困難層
33.7
50.1
10.7
3.8
1.6
生活困窮層
31.5
52.3
10.3
4.1
1.9
周辺層
35.0
48.9
10.9
3.6
1.5
非生活困難層
34.1
53.5
7.8
2.8
1.8
中学2 年生全体
32.4
56.1
7.7
2.5
1.3
生活困難層
32.8
54.2
7.8
4.2
1.0
生活困窮層
30.4
54.4
8.5
5.7
1.0
周辺層
34.1
54.1
7.5
3.4
0.9
非生活困難層
32.3
57.2
7.5
1.9
1.1
決まっている
だいたい決まっている
あまり決まっていない
まったく決まっていない
無回答

③　歯磨き・入浴の頻度

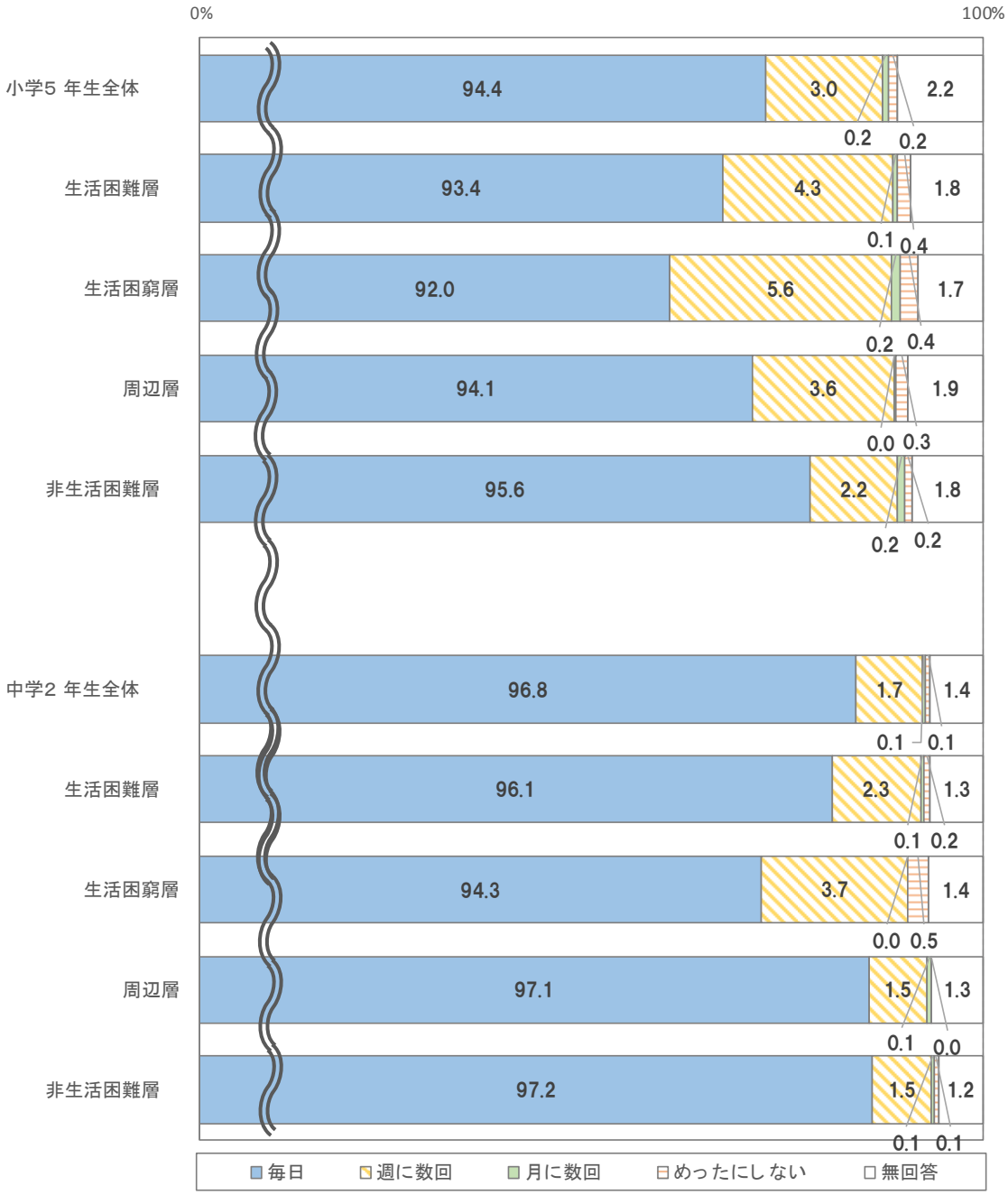
歯磨き・入浴の頻度については，小学校５年生・中学校２年生ともに非生活困難層に比べ生活困難層で「毎日」の割合が低くなっています。

歯磨きについては，特に小学校５年生の生活困窮層では 17.2%が『毎日はしていない』（「週に数回」「月に数回」「めったにしない」の合計）と回答しています。

歯磨き［**］［**］



入浴［**］［**］


0%
100%
小学5 年生全体
94.4
3.0
2.2
0.2
0.2
生活困難層
93.4
4.3
1.8
0.1
0.4
生活困窮層
92.0
5.6
1.7
0.2
0.4
周辺層
94.1
3.6
1.9
0.0
0.3
非生活困難層
95.6
2.2
1.8
0.2
0.2
中学2 年生全体
96.8
1.7
1.4
0.1
0.1
生活困難層
96.1
2.3
1.3
0.1
0.2
生活困窮層
94.3
3.7
1.4
0.0
0.5
周辺層
97.1
1.5
1.3
0.1
0.0
非生活困難層
97.2
1.5
1.2
0.1
0.1
毎日
週に数回
月に数回
めったにしない
無回答

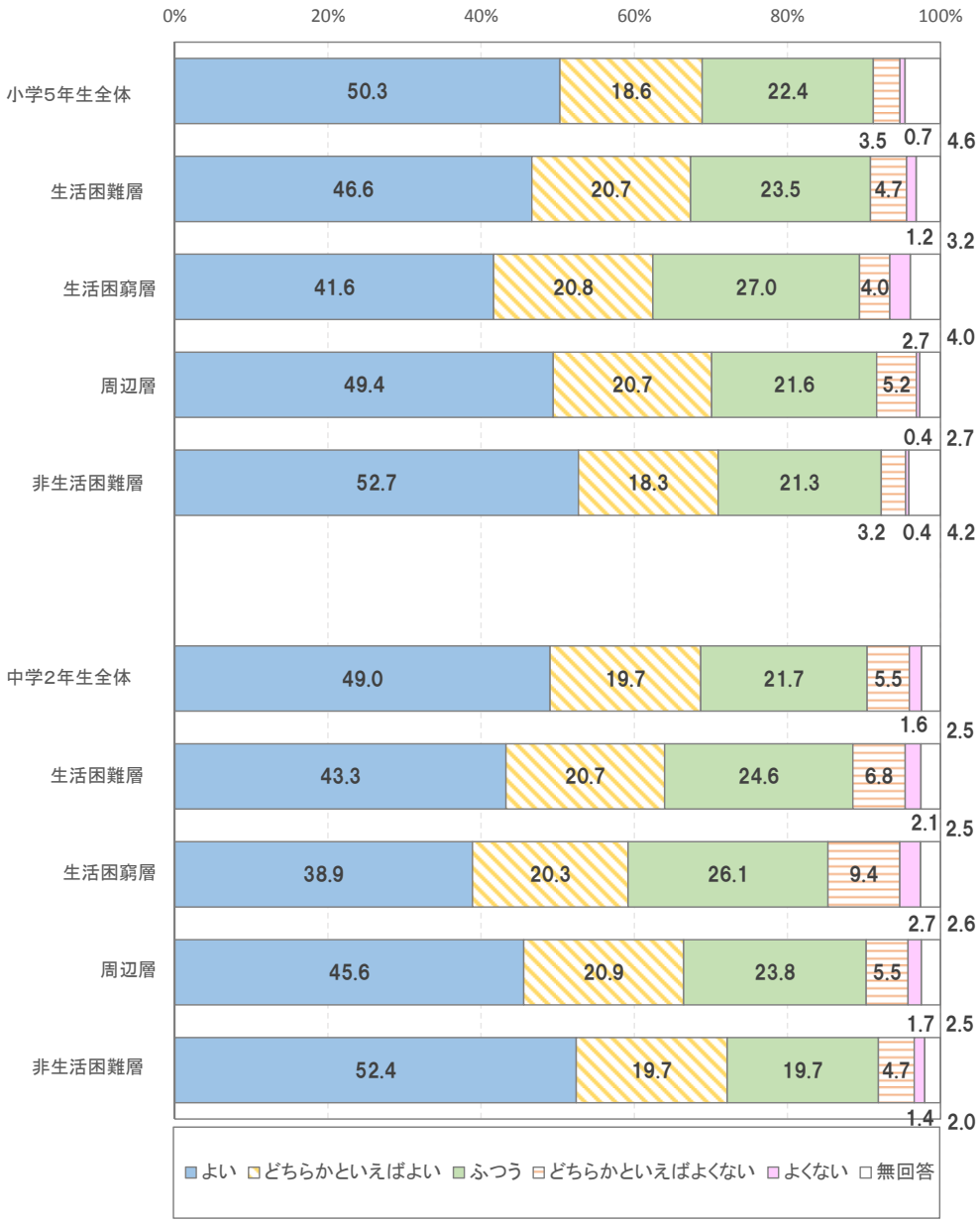
5　子供の健康と自己肯定感

(1)　健康状態

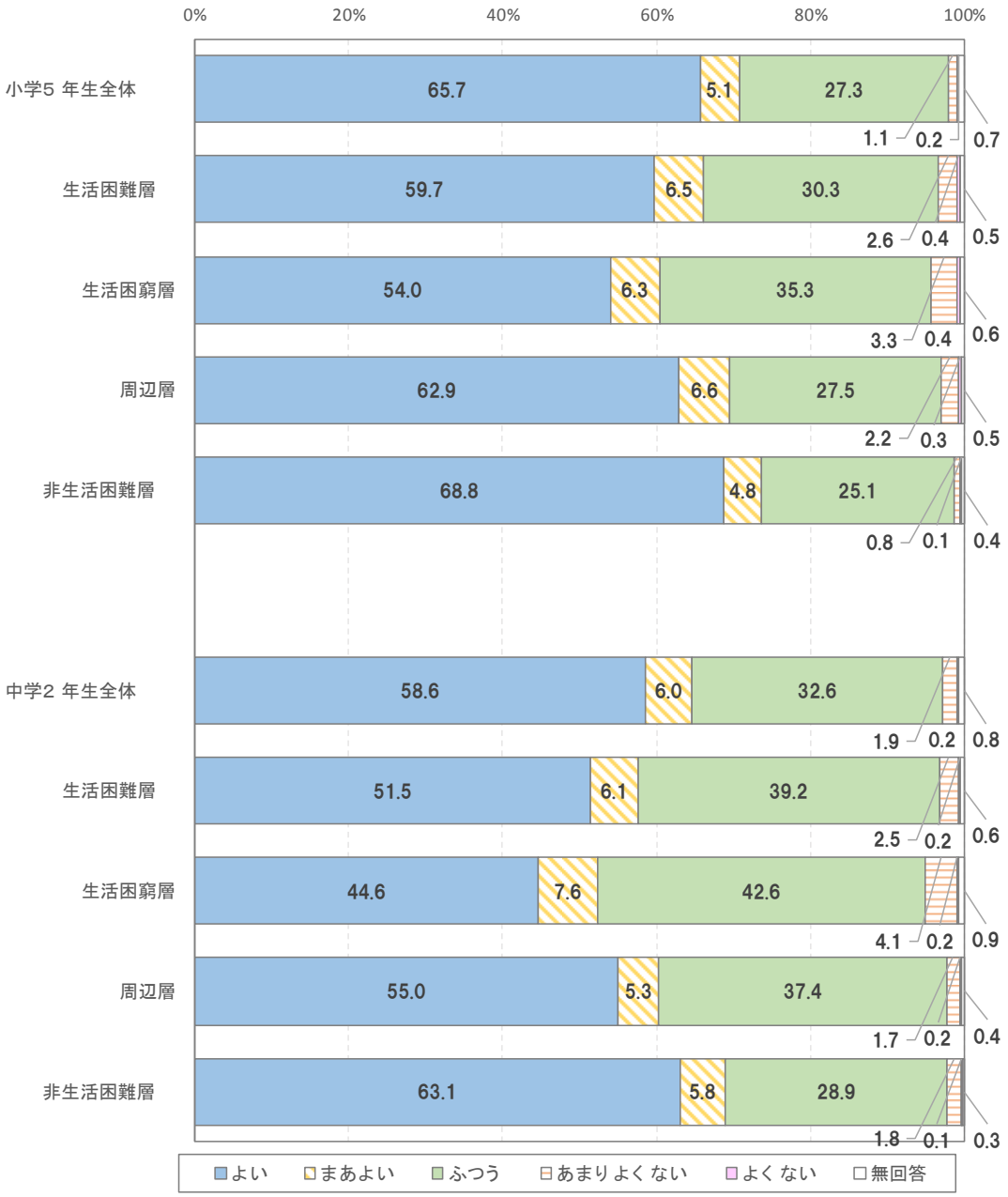
①　子供の（主観的）健康状態

子供が自身の健康状態について，「よい」と回答した割合を見ると，小学校５年生・中学校２年生ともに，生活困難層のほうが非生活困難層よりも低くなっており，保護者から見た子供の健康状態についても，同様の状況が見られます。

子供の（主観的）健康状態　[**] [**]



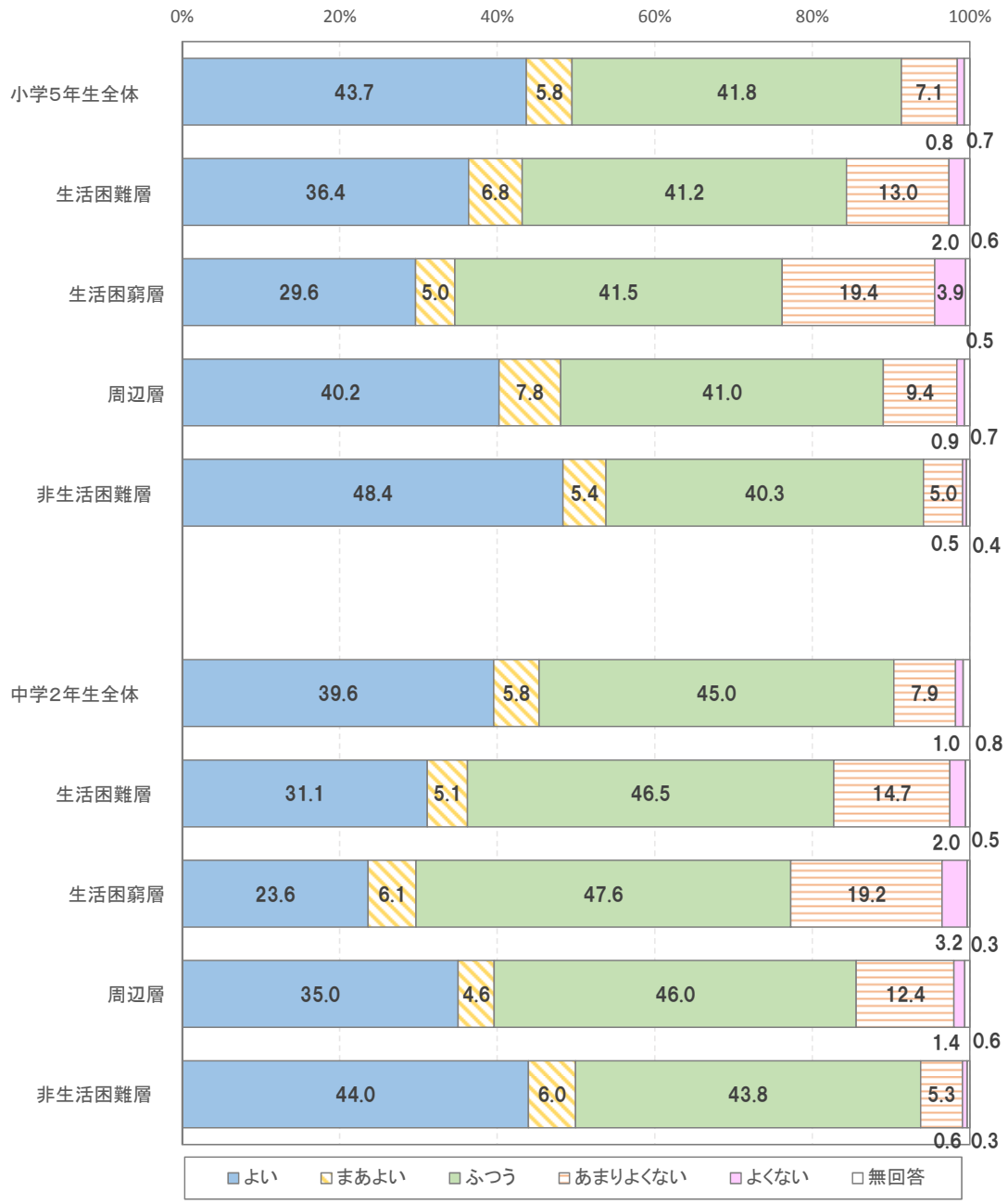
保護者から見た子供の健康状態　[**] [**]



② 保護者の（主観的）健康状態 ★

保護者が自身の健康状態について，『よい』（「よい」「まあよい」の合計）と回答した割合は，小学校５年生・中学校２年生の保護者とも，生活が困難になるほど，低くなっています。

保護者の（主観的）健康状態 [**] [**]



③　子供の医療機関受診抑制の経験とその理由

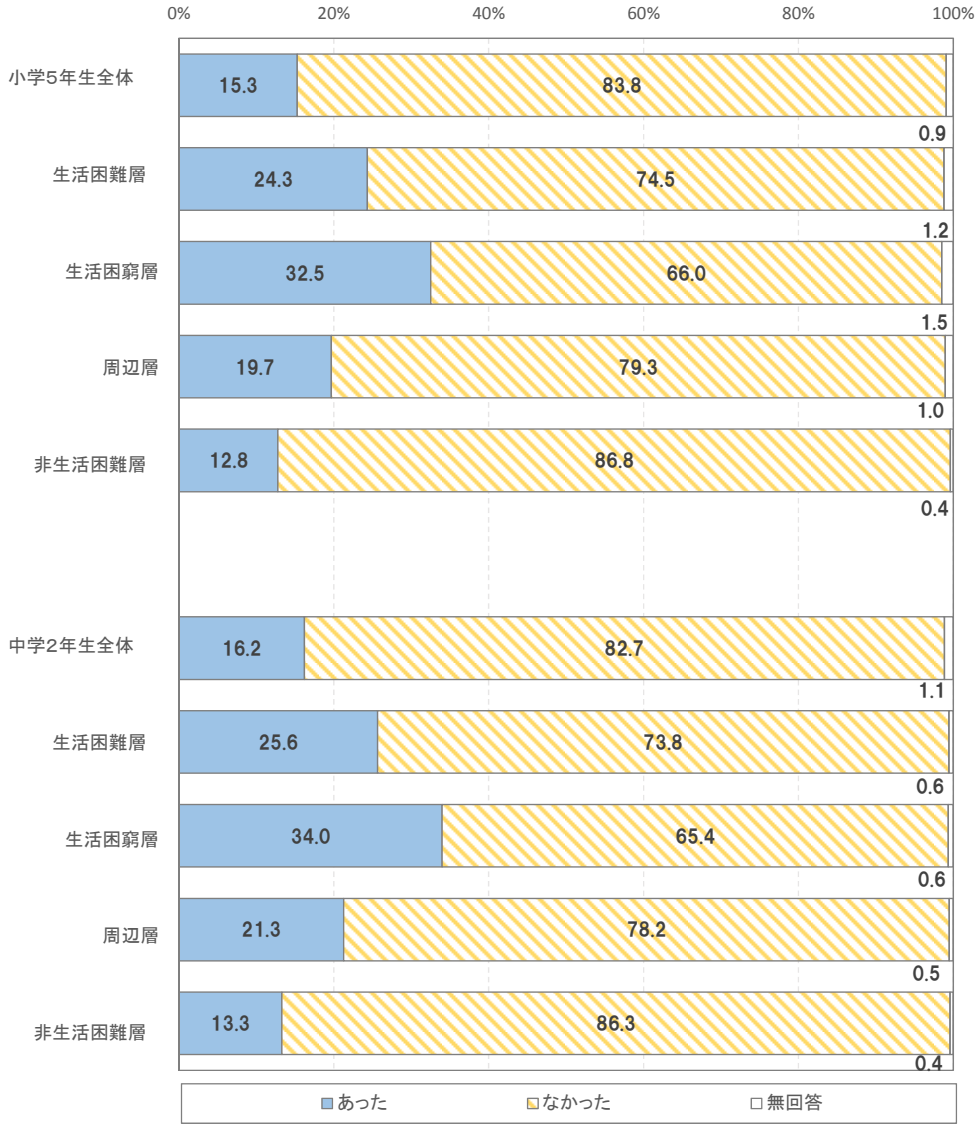
生活が困難になるほど，医療機関受診抑制の経験が「あった」と回答した割合が高くなっています。

抑制理由について，非生活困難層では，「最初は受診させようと思ったが，お子さんの様子をみて，受診させなくてもよいと判断したため」と回答した割合が小学校５年生・中学校２年生ともに最も高くなっています。

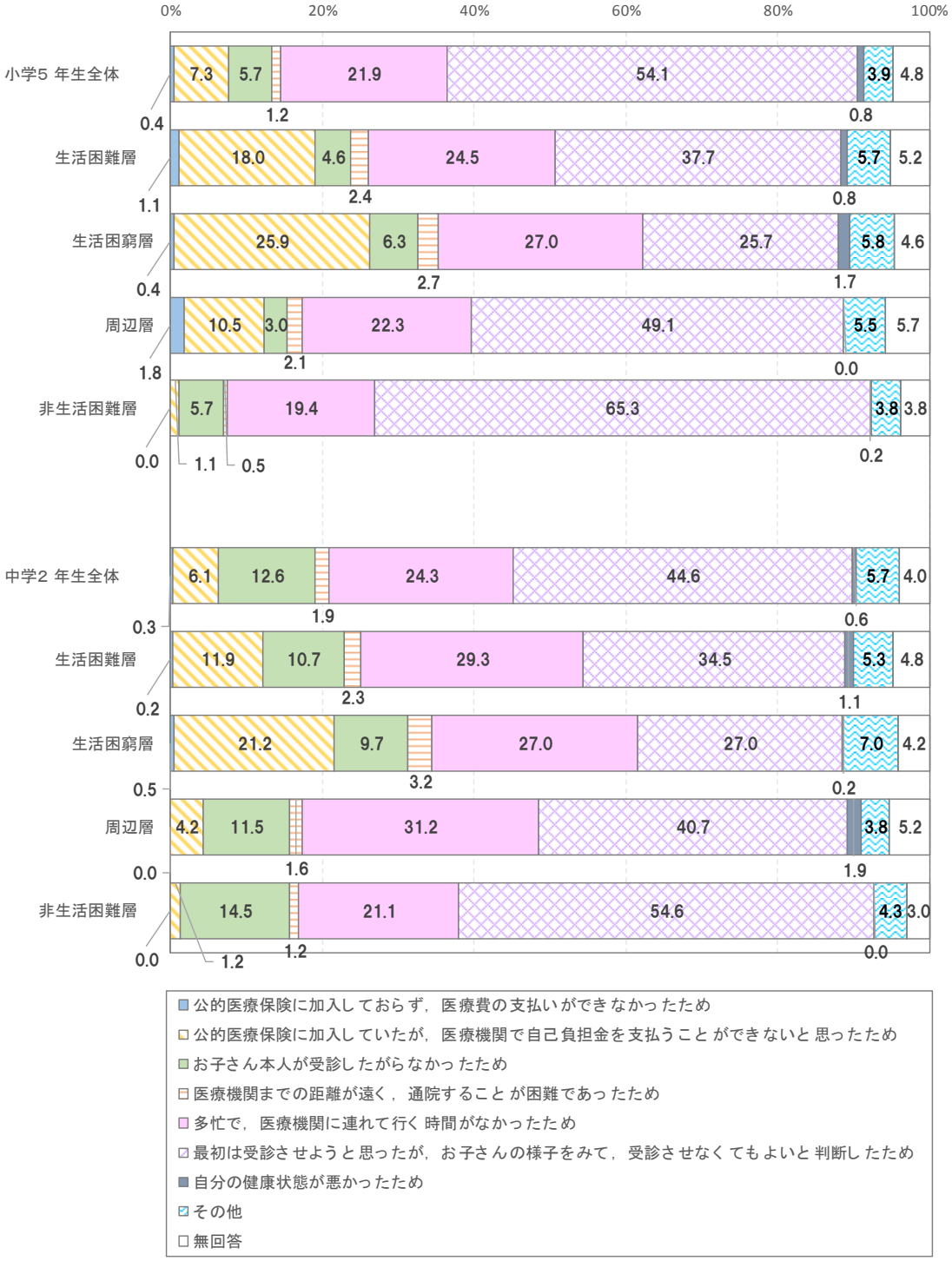
小学校５年生の生活困窮層では，「多忙で，医療機関に連れて行く時間がなかったため」と回答した割合が最も高く，次いで「公的医療保険に加入していたが，医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」と「最初は受診させようと思ったが，お子さんの様子をみて，受診させなくてよいと判断したため」が同程度となっています。

中学校２年生の生活困窮層では，「多忙で，医療機関に連れて行く時間がなかったため」と「最初は受診させようと思ったが，お子さんの様子をみて，受診させなくてよいと判断したため」が同じ割合で最も高く，次いで「公的医療保険に加入していたが，医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」となっています。

子供の医療機関受診抑制の経験　［**］［**］



医療機関受診抑制の経験の理由　[**] [**]

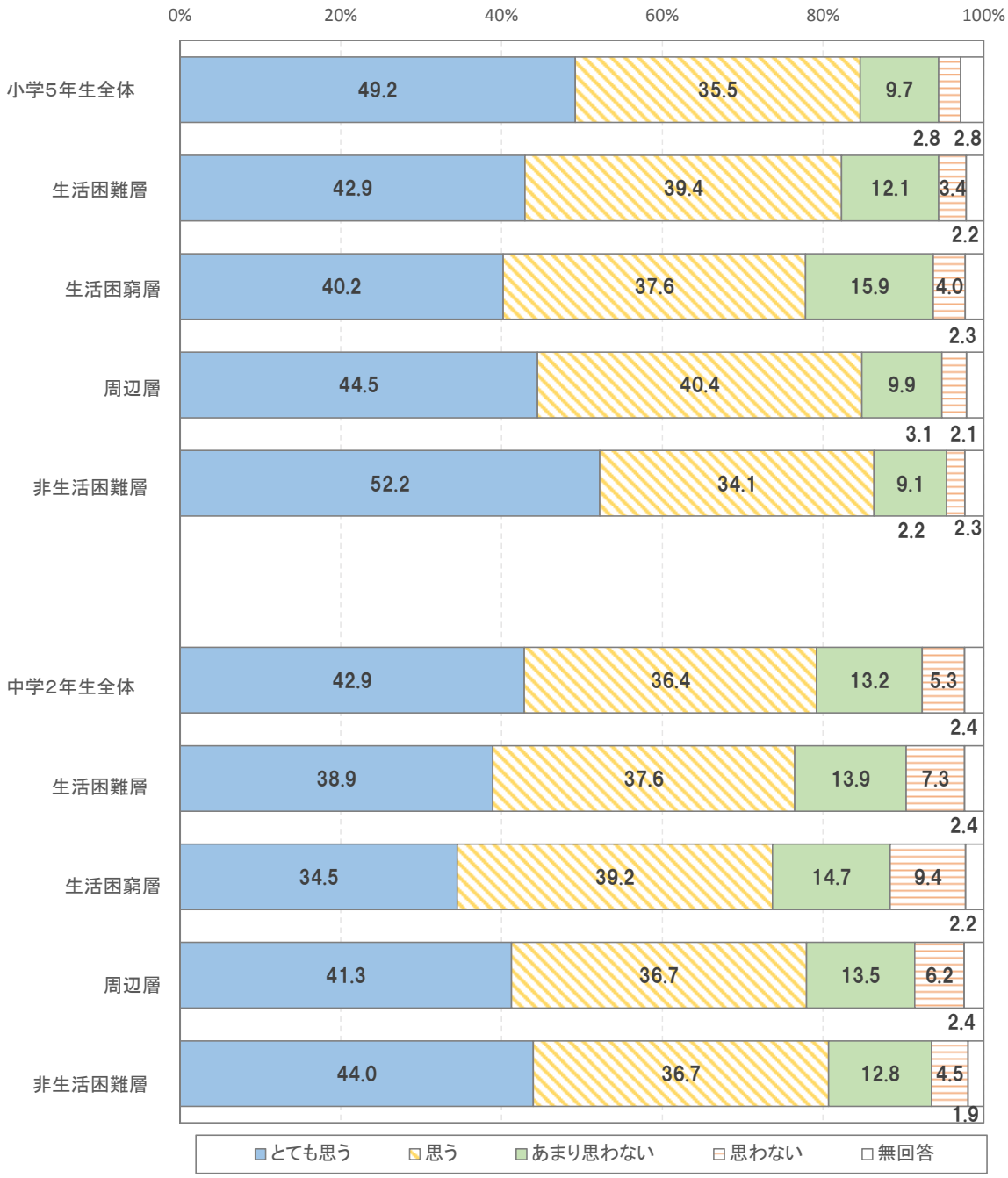


(2)　自己肯定感

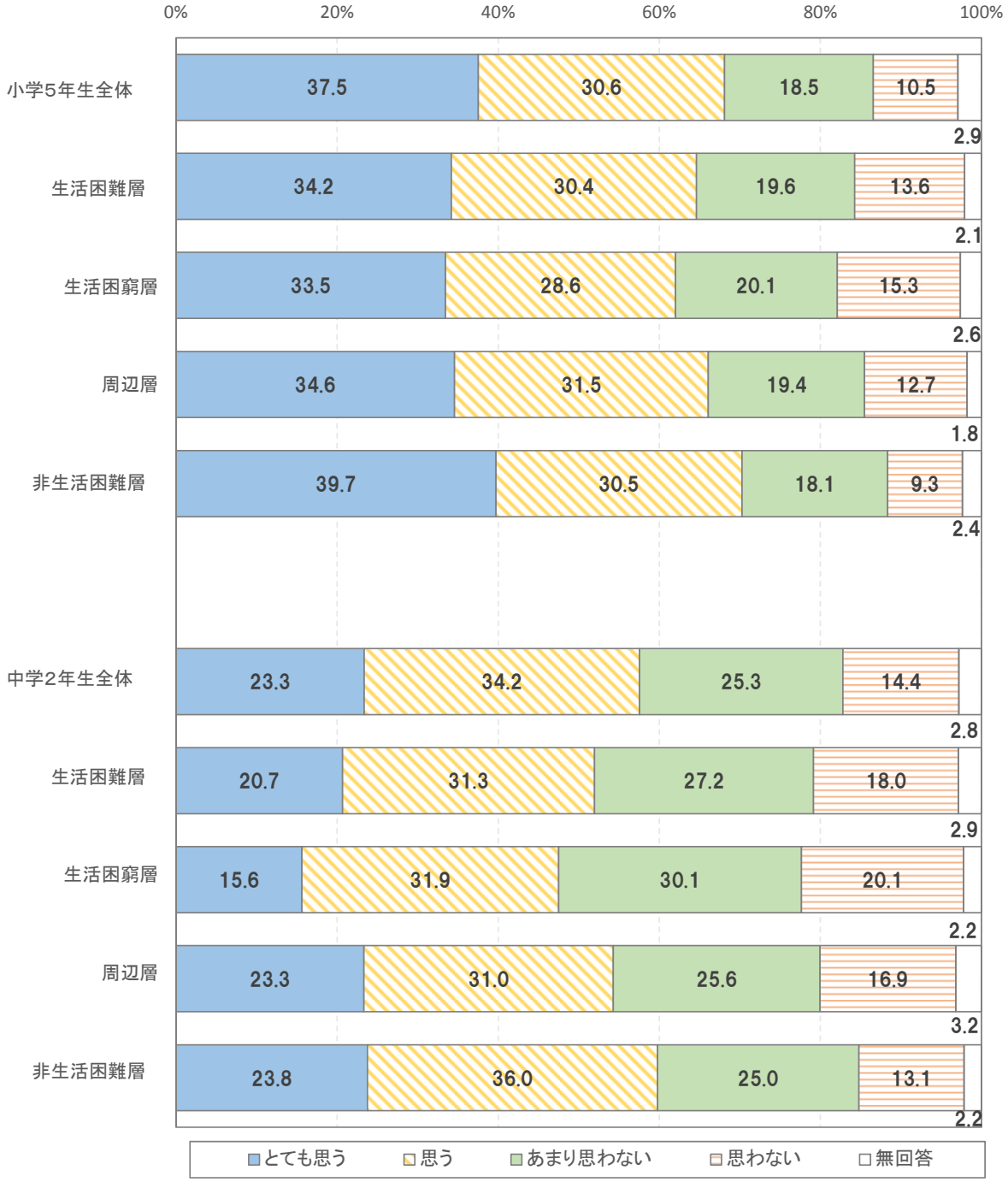
○　子供の自己肯定感

自己肯定感に関する「頑張れば，報われる」など多くの項目で，小学校５年生・中学校２年生ともに，生活が困難になるほど，『思う』（「とても思う」「思う」の合計）と回答した割合が低くなっています。

頑張れば，報われる　[**]［**］



自分のことが好きだ　[**]［**］


0%
20%
40%
60%
80%
100%
小学5年生全体
37.5
30.6
18.5
10.5
2.9
生活困難層
34.2
30.4
19.6
13.6
2.1
生活困窮層
33.5
28.6
20.1
15.3
2.6
周辺層
34.6
31.5
19.4
12.7
1.8
非生活困難層
39.7
30.5
18.1
9.3
2.4
中学2年生全体
23.3
34.2
25.3
14.4
2.8
生活困難層
20.7
31.3
27.2
18.0
2.9
生活困窮層
15.6
31.9
30.1
20.1
2.2
周辺層
23.3
31.0
25.6
16.9
3.2
非生活困難層
23.8
36.0
25.0
13.1
2.2
とても思う
思う
あまり思わない
思わない
無回答

6　子育てと各種制度・サービス　★

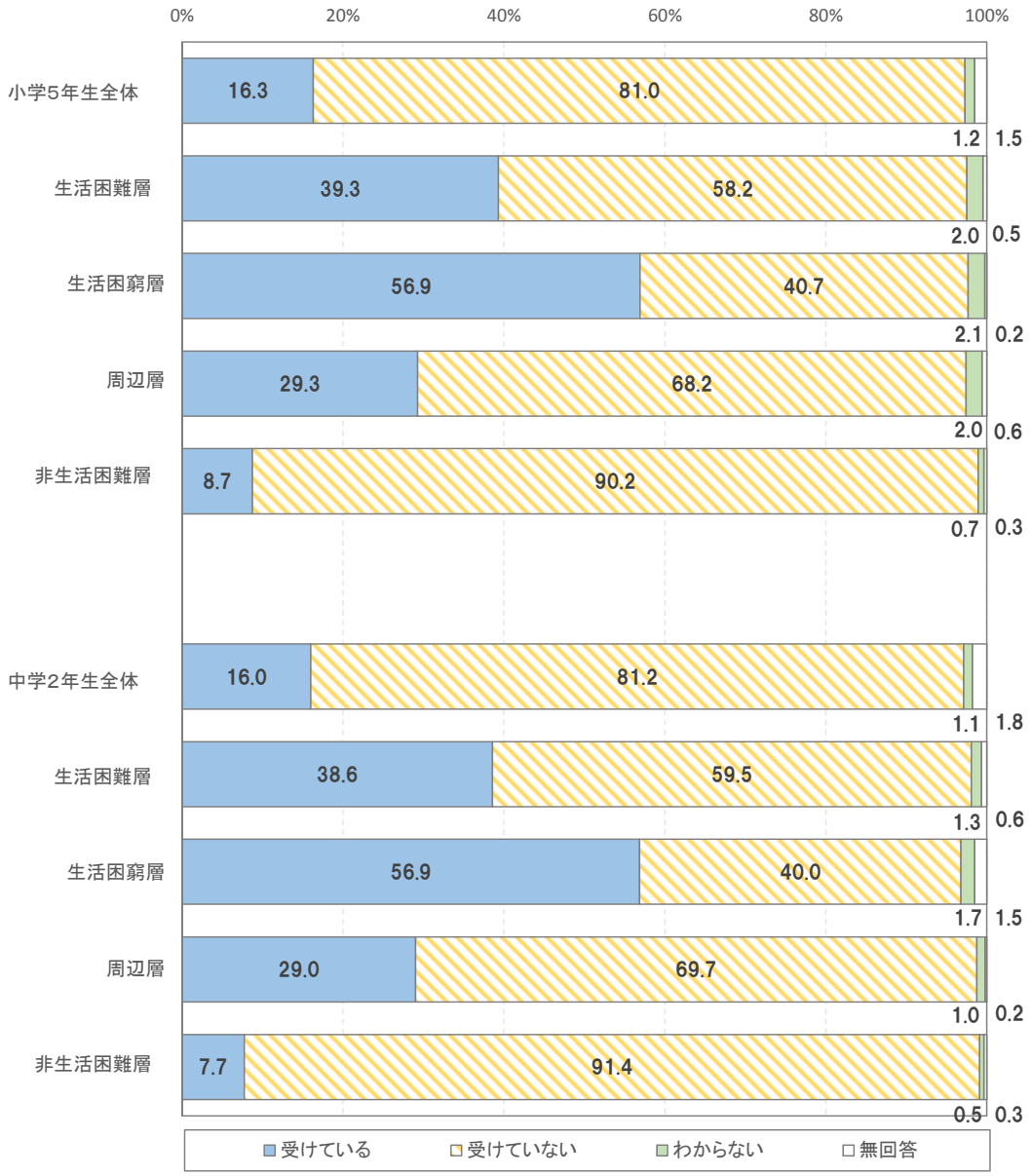
(1)　就学援助

○　就学援助受給状況と受給していない理由

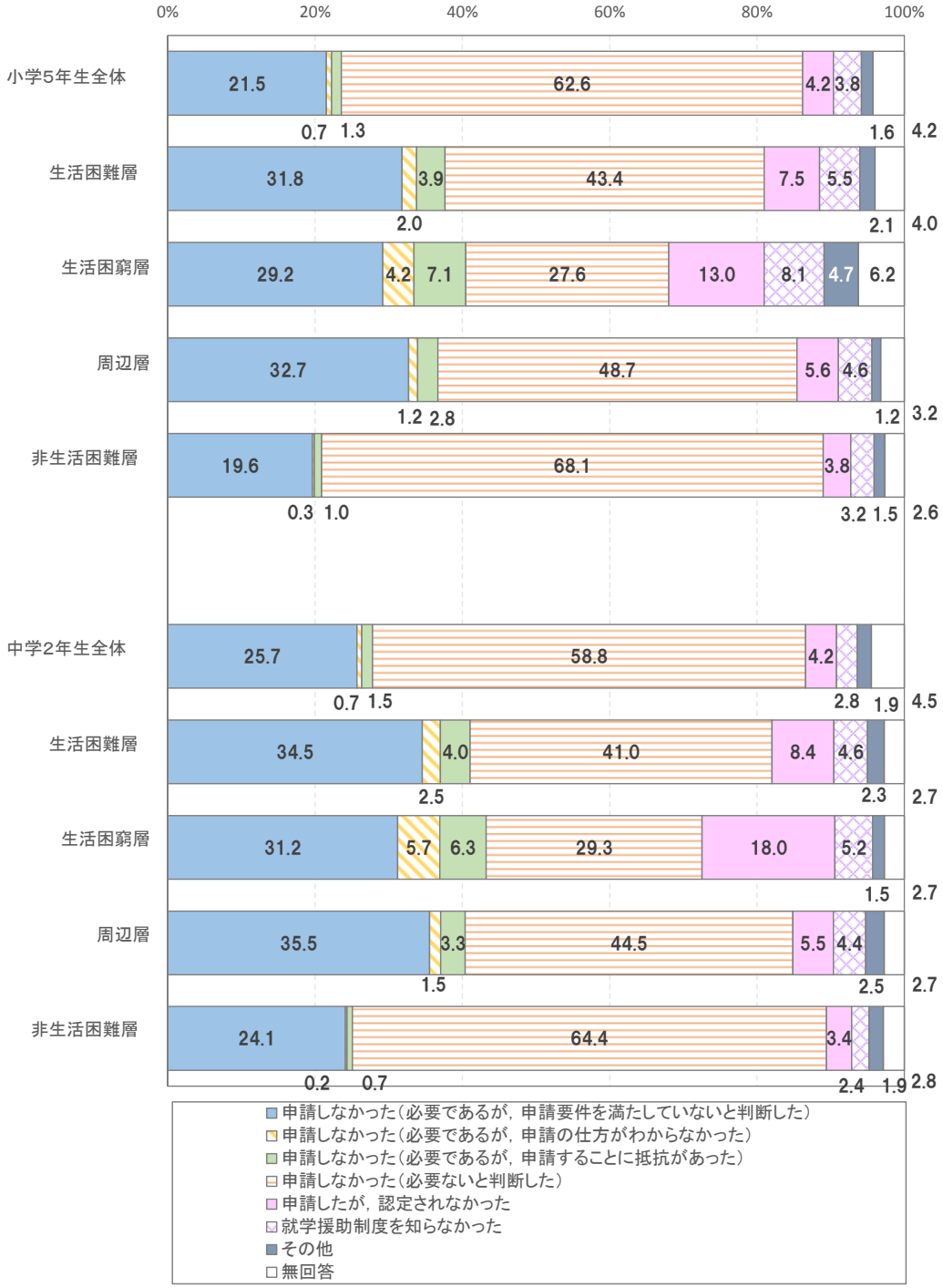
生活困難層では，就学援助を受けている割合が，小学校５年生・中学校２年生ともに約４割となっています。

就学援助を受けていない理由については，生活困難層では，小学校５年生・中学校２年生ともに「申請しなかった（必要ないと判断した)」,「申請しなかった（必要であるが，申請要件を満たしていないと判断した)」と回答した割合が高くなっています。

就学援助受給状況　[**] [**]



就学援助を受けていない理由［**］［**］



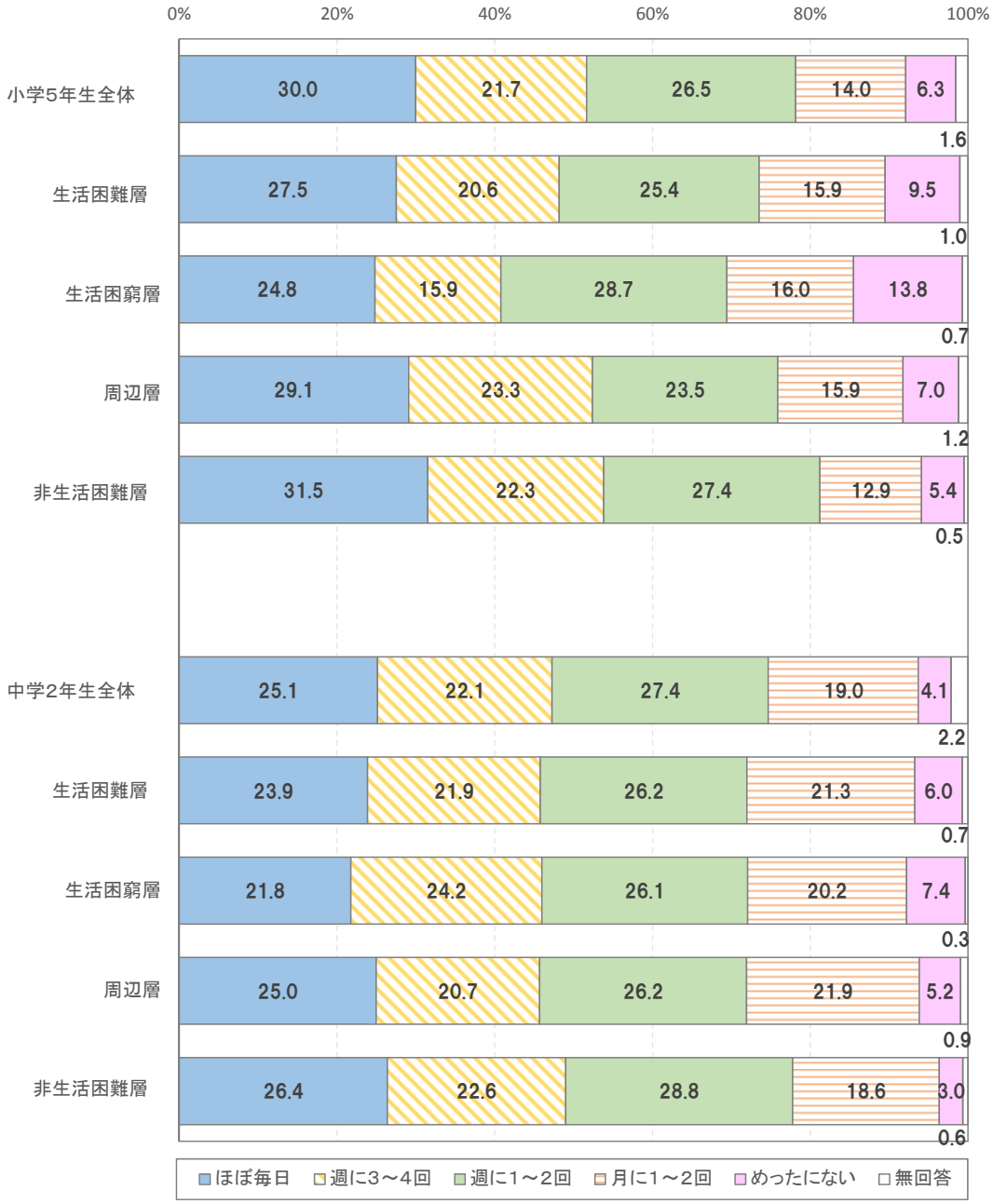
(2)　子供との関わり

○　子供との関わり頻度

「子供と勉強や成績の話をする」ことが「めったにない」と回答した割合について，小学校５年生の非生活困難層が 5.4％であるのに対し，生活困窮層では 13.8％と高くなっています。

同様の傾向が，「子供の勉強をみる」，「子供と体を動かして遊ぶ（キャッチボールなど）」，「子供と政治経済・社会問題などのニュースの話をする」など，その他の多くの項目に見られます。

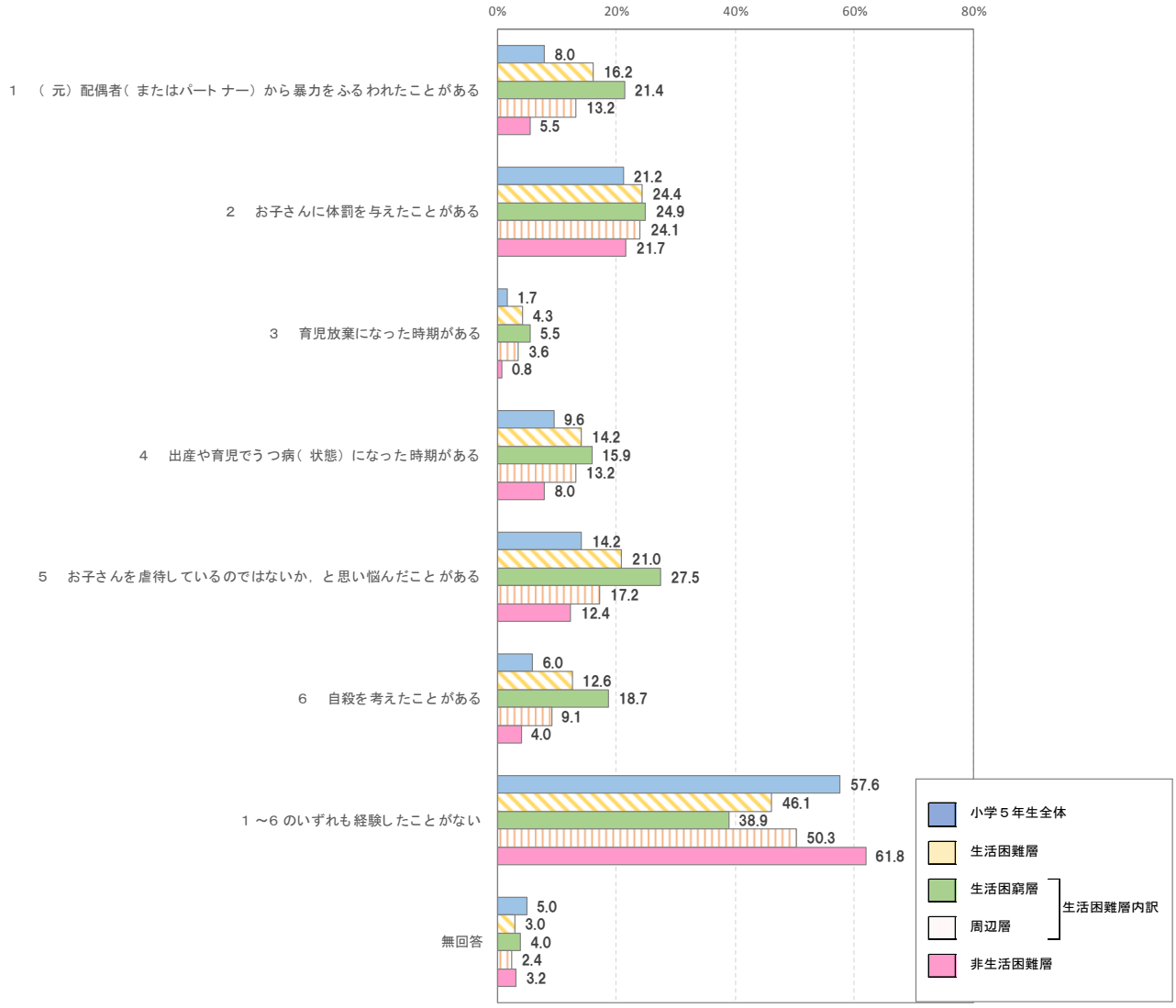
子供と勉強や成績の話をする［**］［**］



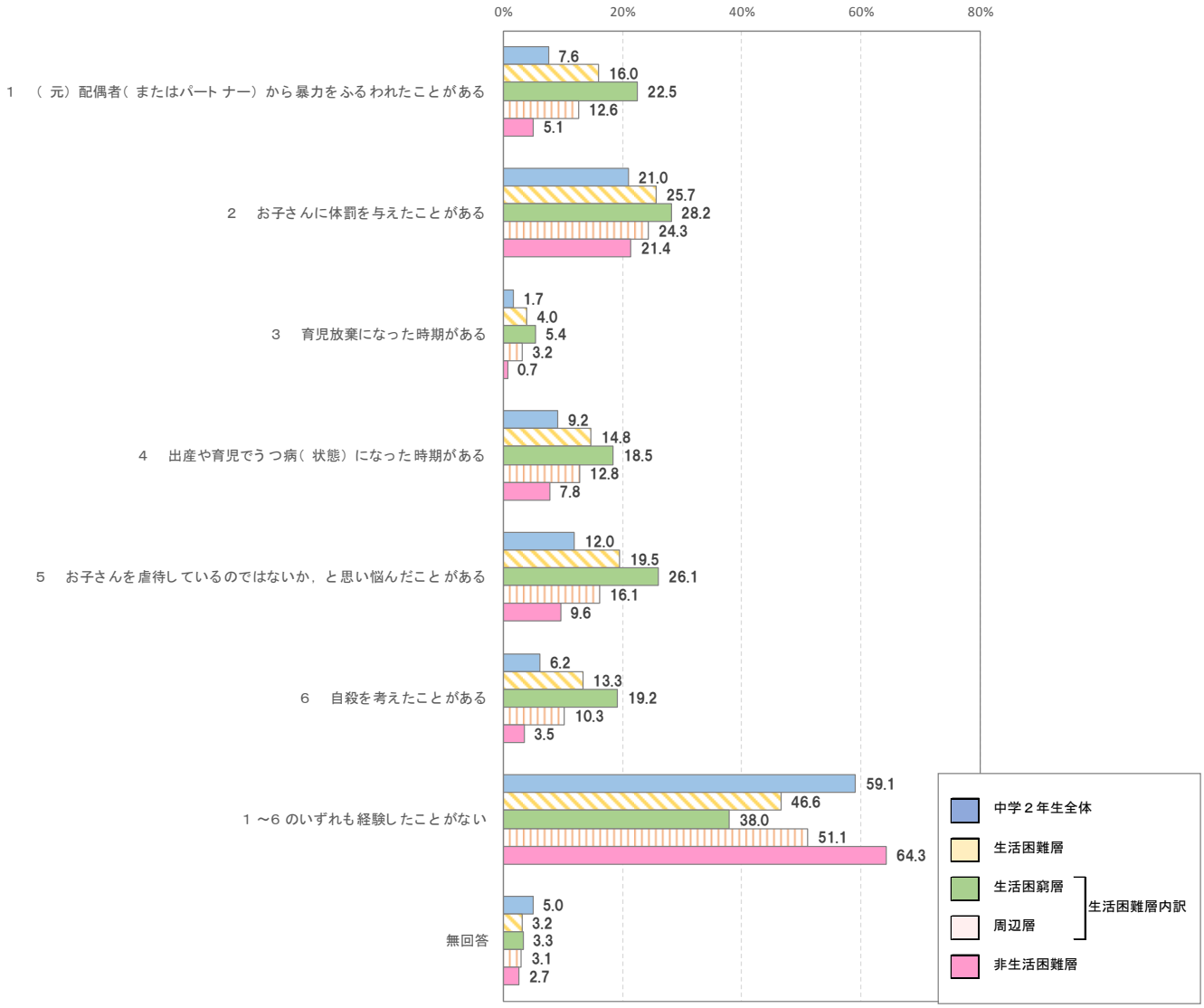
(3)　子育て上の経験

保護者が子育てに関わってからの経験について尋ねたところ，「(元) 配偶者（またはパートナー）から暴力をふるわれたことがある」など，１～６のすべての項目において，小学校５年生・中学校２年生の家庭ともに，生活困窮層で経験した割合が最も高くなっています。

小学校５年生保護者：子育てに関わってからの経験　[**]



中学校２年生保護者：子育てに関わってからの経験　[**]



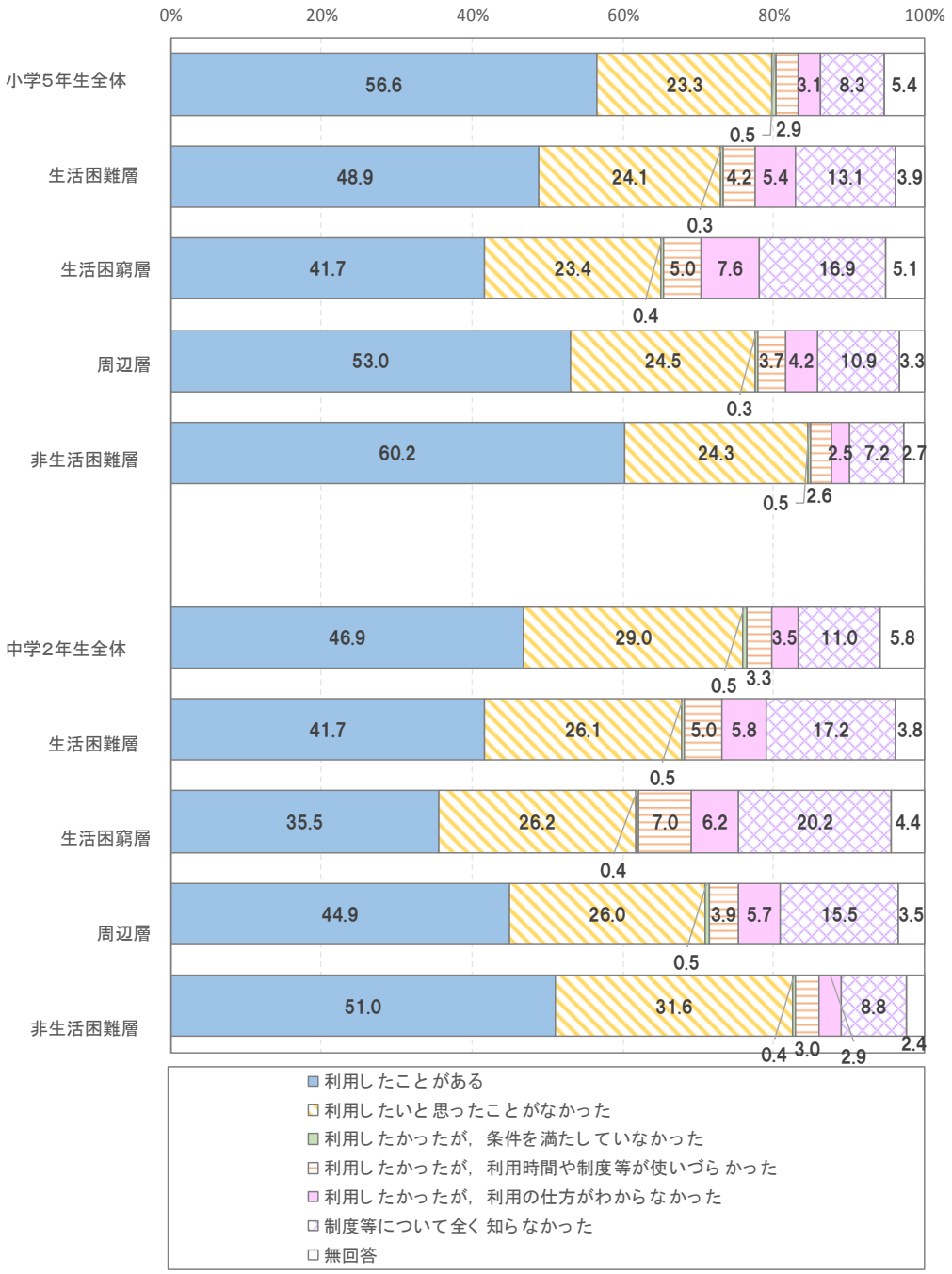
(4)　制度・サービスの利用

①　各種支援制度の利用経験

各種支援制度の利用経験について，生活状態による違いが見られたのは「地域子育て支援センター・子育てひろば」で，生活が困難になるほど，「利用したことがある」と回答した割合が低くなっています。

一方，どの支援制度においても，生活が困難になるほど，「制度等について全く知らなかった」と回答した割合が高くなっています。

地域子育て支援センター・子育てひろば［**］［**］

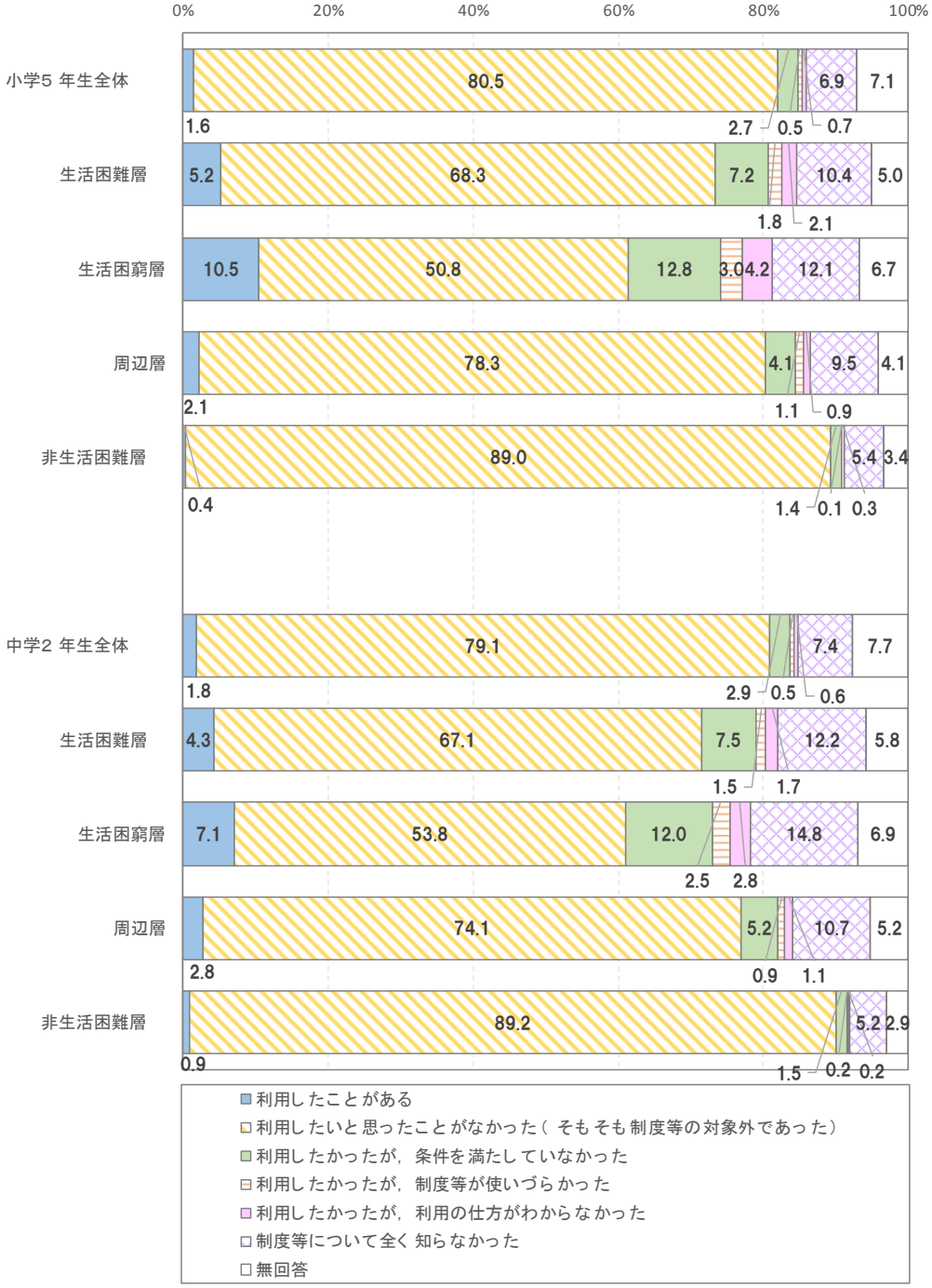


②　各種経済的支援制度の利用経験

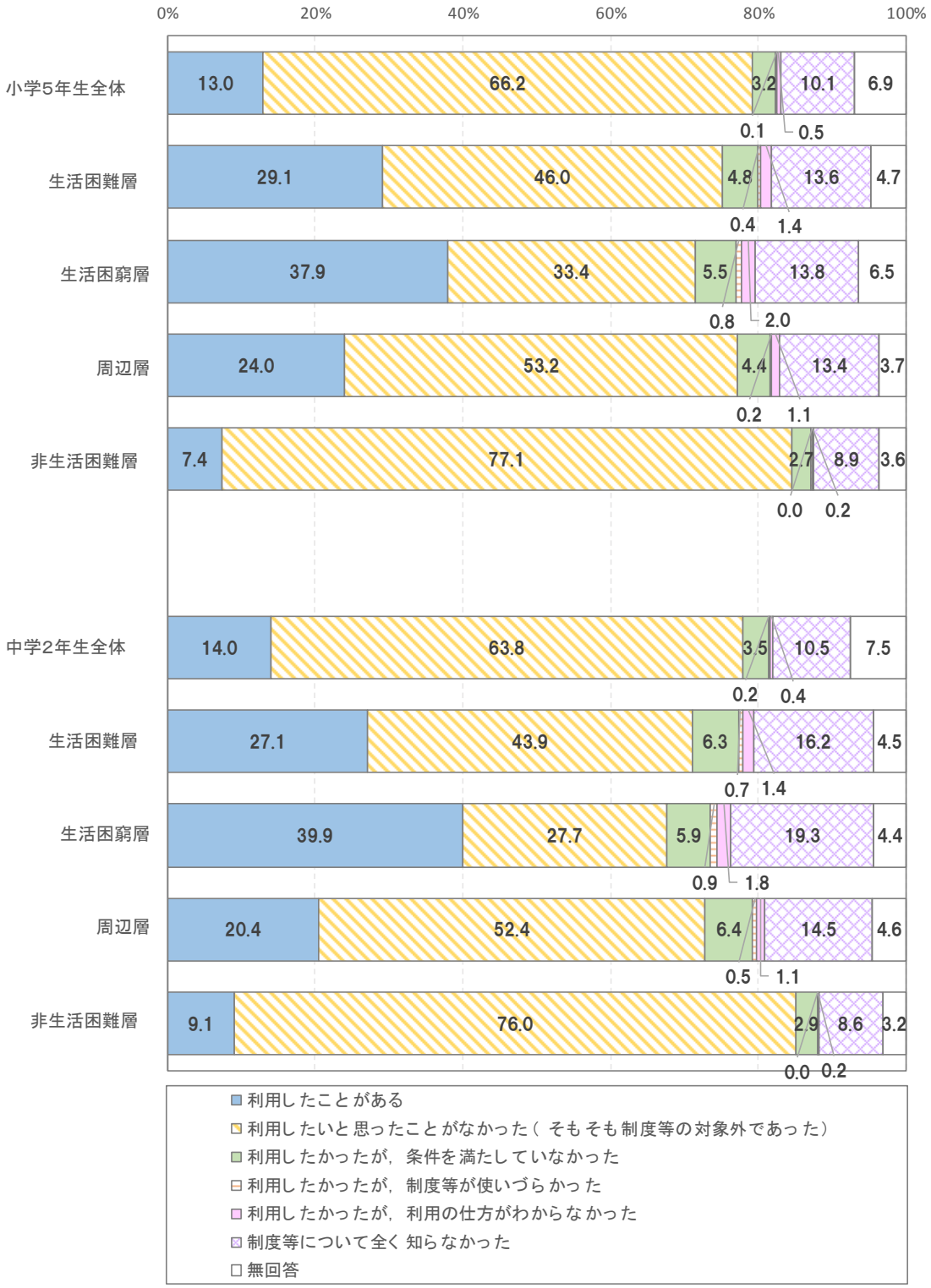
「生活保護」,「児童扶養手当」などの各種経済的支援制度の利用経験について，どの支援制度についても小学校５年生・中学校２年生ともに，生活が困難になるほど，これらの制度を「利用したことがある」と回答した割合が高くなっています。

一方で，各種支援制度と同様に，生活が困難になるほど,「制度等について全く知らなかった」と回答した割合が高くなっています。

生活保護［**］［**］



児童扶養手当［**］［**］


0%
20%
40%
60%
80%
100%
小学5年生全体
13.0
66.2
3.2
10.1
6.9
0.1
0.5
生活困難層
29.1
46.0
4.8
13.6
4.7
0.4
1.4
生活困窮層
37.9
33.4
5.5
13.8
6.5
0.8
2.0
周辺層
24.0
53.2
4.4
13.4
3.7
0.2
1.1
非生活困難層
7.4
77.1
2.7
8.9
3.6
0.0
0.2
中学2年生全体
14.0
63.8
3.5
10.5
7.5
0.2
0.4
生活困難層
27.1
43.9
6.3
16.2
4.5
0.7
1.4
生活困窮層
39.9
27.7
5.9
19.3
4.4
0.9
1.8
周辺層
20.4
52.4
6.4
14.5
4.6
0.5
1.1
非生活困難層
9.1
76.0
2.9
8.6
3.2
0.0
0.2
利用したことがある
利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度等の対象外であった）
利用したかったが，条件を満たしていなかった
利用したかったが，制度等が使いづらかった
利用したかったが，利用の仕方がわからなかった
制度等について全く知らなかった
無回答

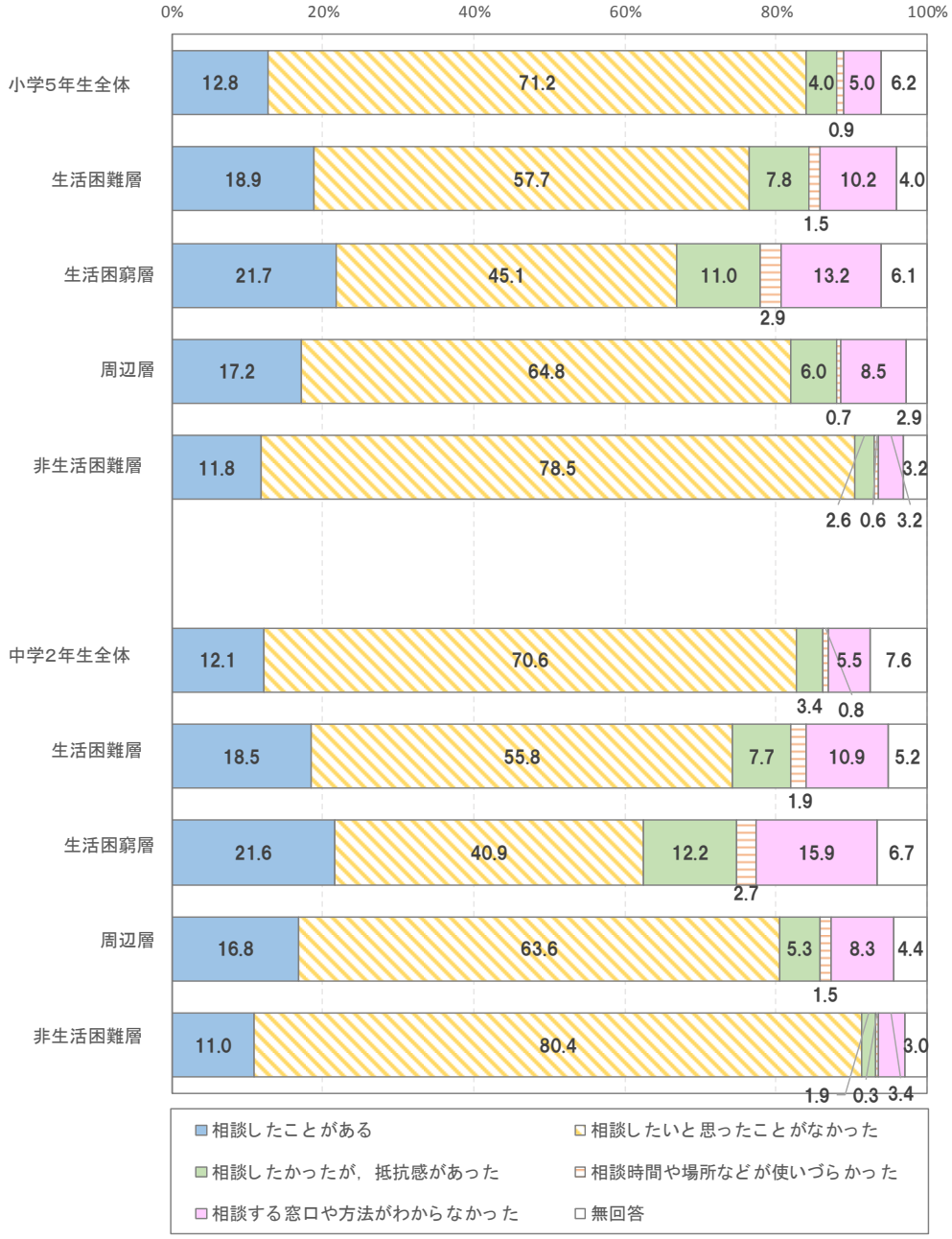
(5)　相談

○　公的相談機関の利用経験

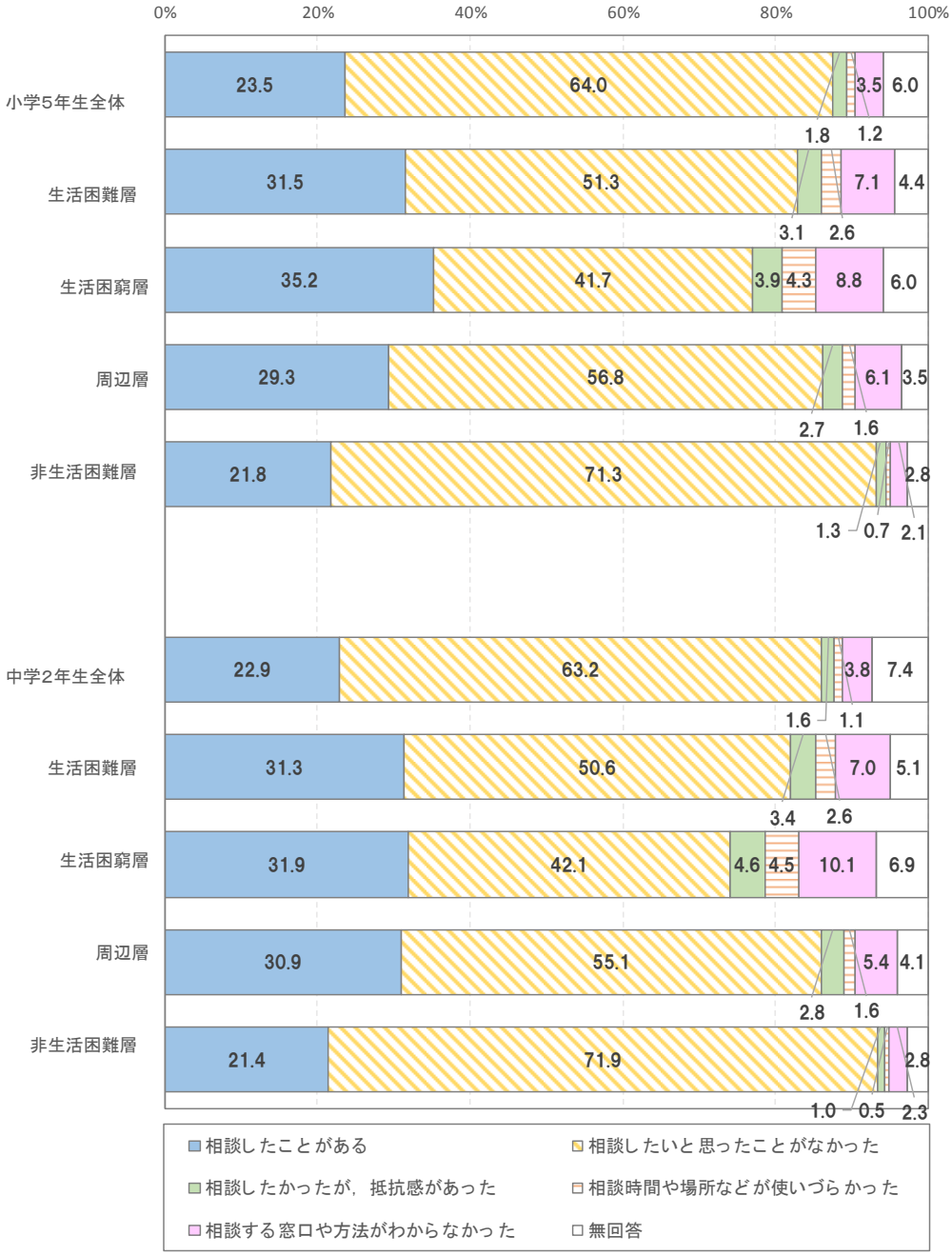
公的相談機関の利用経験について，「県・市町の窓口」，「ハローワーク」などは，小学校５年生・中学校２年生ともに，生活が困難になるほど，「相談したことがある」と回答した割合が高くなっています。

一方で，どの相談機関についても，生活が困難になるほど，「相談したかったが，抵抗感があった」，「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した割合が高くなっています。

県・市町の窓口　[**] [**]



ハローワーク　[**]［**]

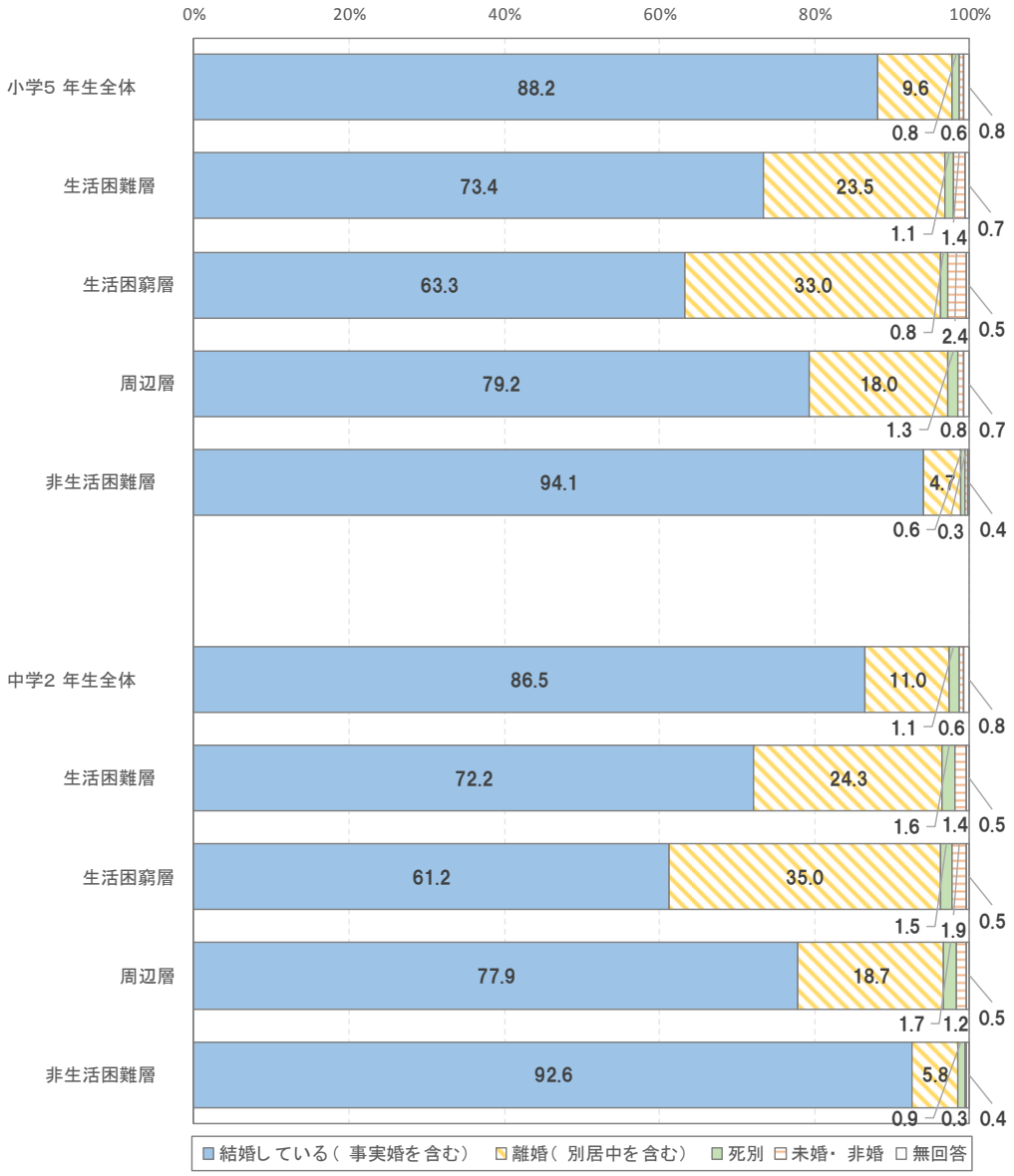

0%
20%
40%
60%
80%
100%
小学5年生全体
23.5
64.0
1.8
1.2
3.5
6.0
生活困難層
31.5
51.3
3.1
2.6
7.1
4.4
生活困窮層
35.2
41.7
3.9
4.3
8.8
6.0
周辺層
29.3
56.8
2.7
1.6
6.1
3.5
非生活困難層
21.8
71.3
1.3
0.7
2.1
2.8
中学2年生全体
22.9
63.2
1.6
1.1
3.8
7.4
生活困難層
31.3
50.6
3.4
2.6
7.0
5.1
生活困窮層
31.9
42.1
4.6
4.5
10.1
6.9
周辺層
30.9
55.1
2.8
1.6
5.4
4.1
非生活困難層
21.4
71.9
1.0
0.5
2.3
2.8
相談したことがある
相談したいと思ったことがなかった
相談したかったが，抵抗感があった
相談時間や場所などが使いづらかった
相談する窓口や方法がわからなかった
無回答

7　保護者の状況　★

①　婚姻状況

保護者本人に現在の婚姻状況を尋ねたところ，小学校５年生・中学校２年生の保護者ともに，生活が困難になるほど，「離婚（別居中を含む）」していると回答した割合が高くなっています。

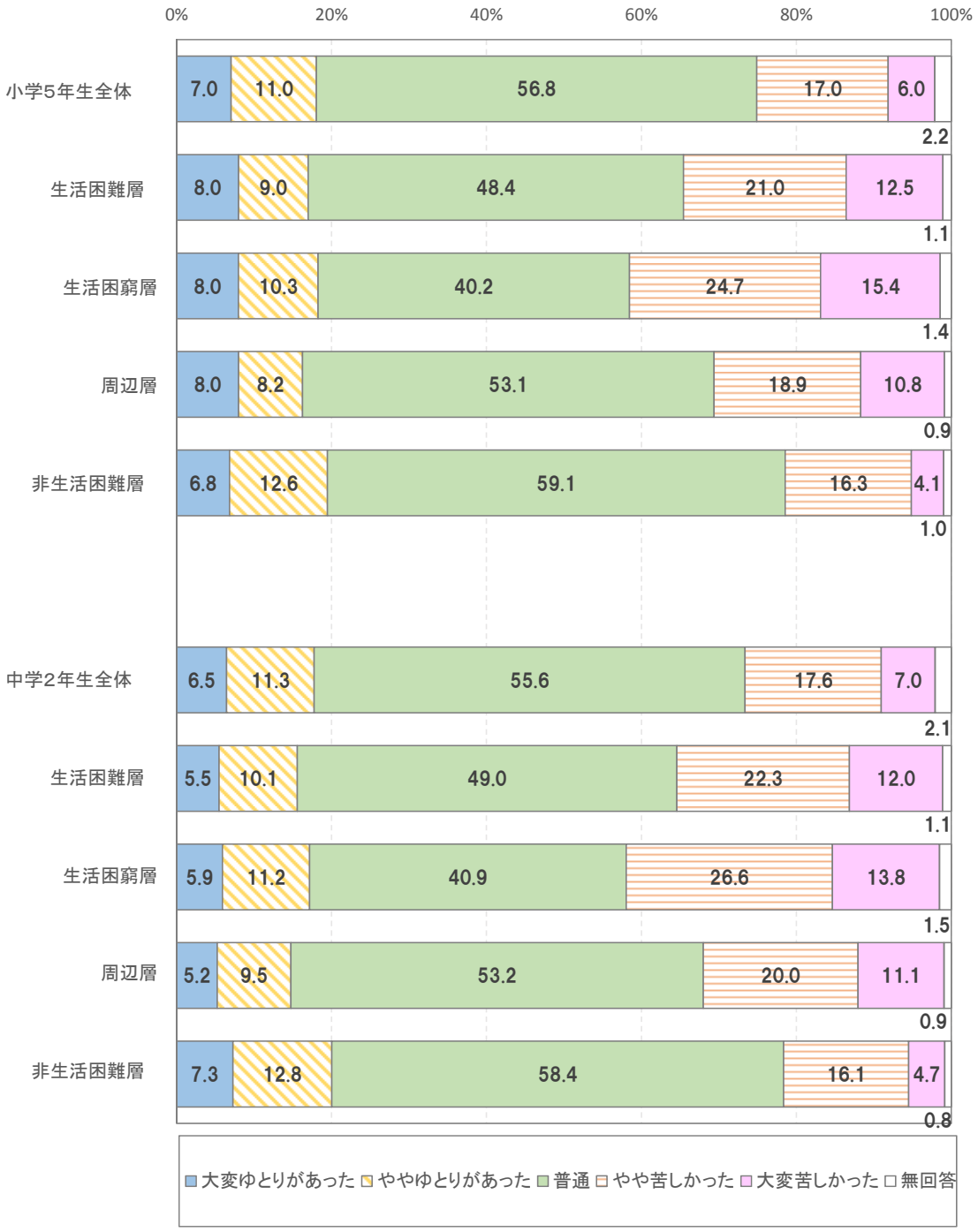
婚姻状況　[**]［**]



② 15 歳の頃の（主観的）暮らし向き

保護者に，自身の 15 歳の頃の暮らし向きを尋ねたところ，生活が困難になるほど，『苦しかった』（「大変苦しかった」「やや苦しかった」の合計）と回答した割合が高くなっています。

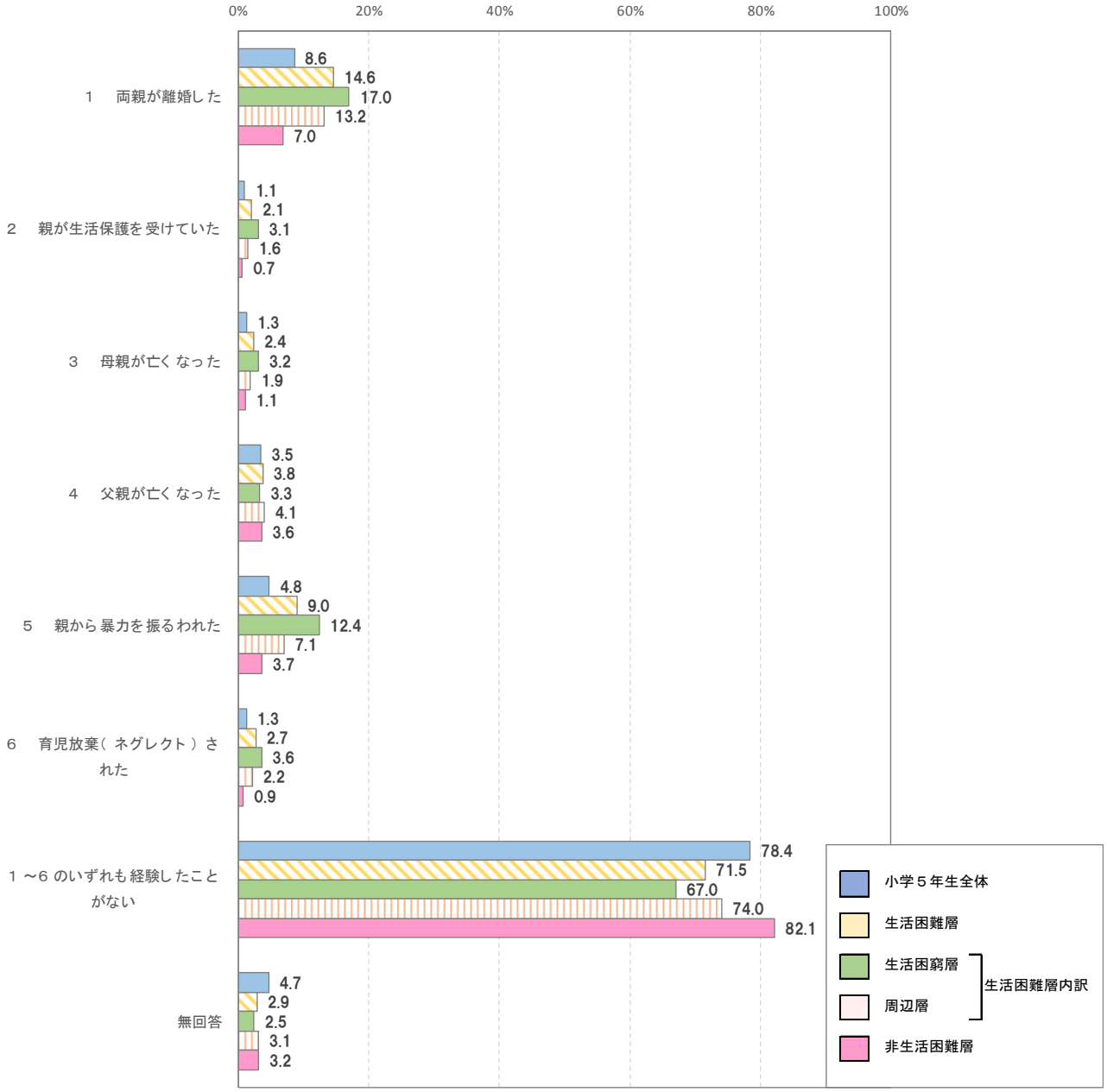
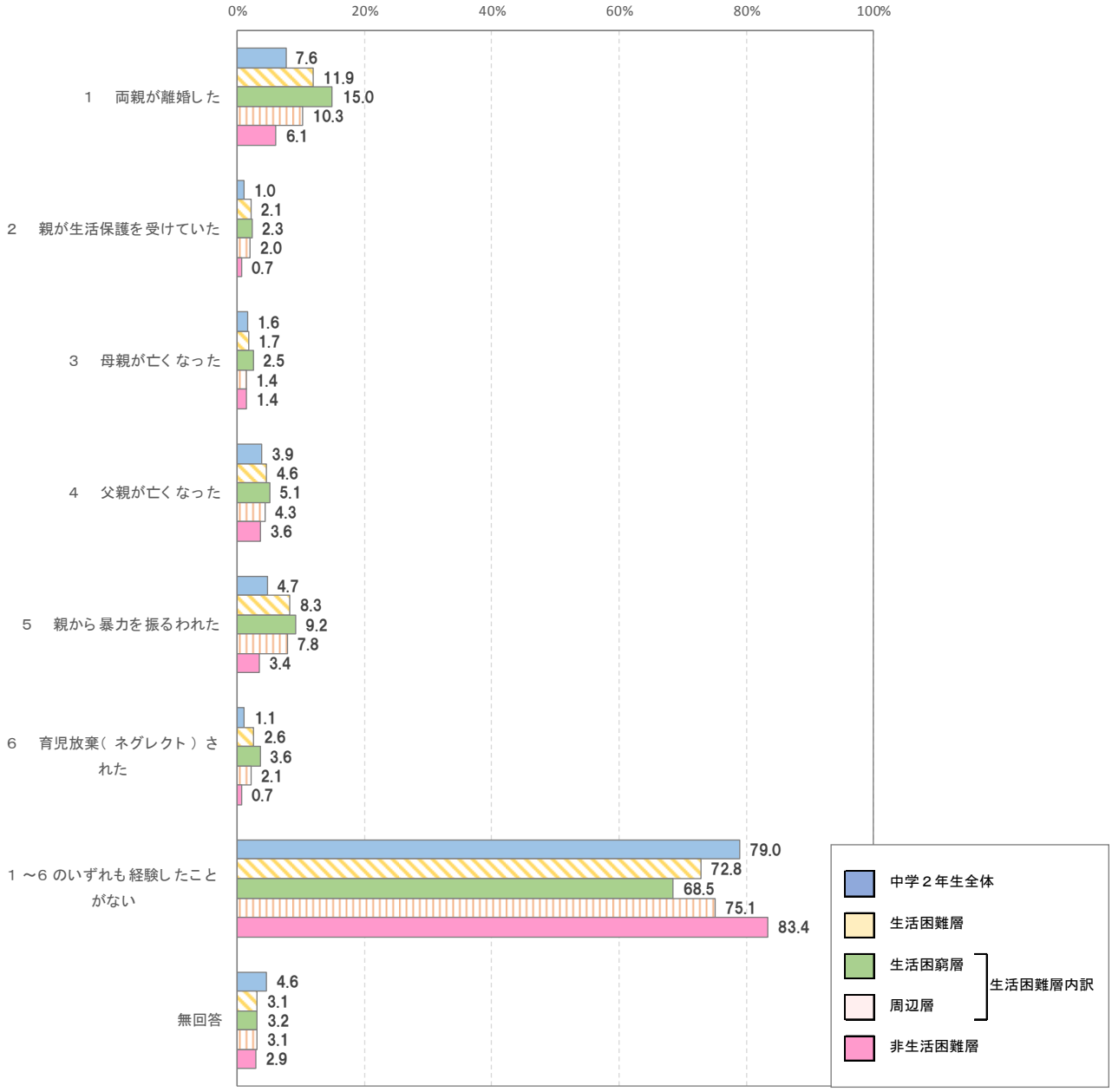
15 歳の頃の（主観的）暮らし向き　[**] [**]



③　成人するまでの体験

保護者に，自身が成人するまでの体験を尋ねたところ，「両親が離婚した」，「親が生活保護を受けていた」，「母親が亡くなった」，「親から暴力を振るわれた」，「育児放棄（ネグレクト）された」といった体験について，小学校５年生・中学校２年生の保護者ともに，生活困窮層で体験した割合が最も高くなっています。

小学校５年生保護者：成人するまでの体験［**］



中学校２年生保護者：成人するまでの体験［**］